

我が国経済

1. 四半期別GDP速報

2012年4～6月期（2次速報）の実質国内総生産は、前期比0.2%増（年率0.7%増）となった。

（実質値、季節調整済前期比、（ ）内は寄与度、％）

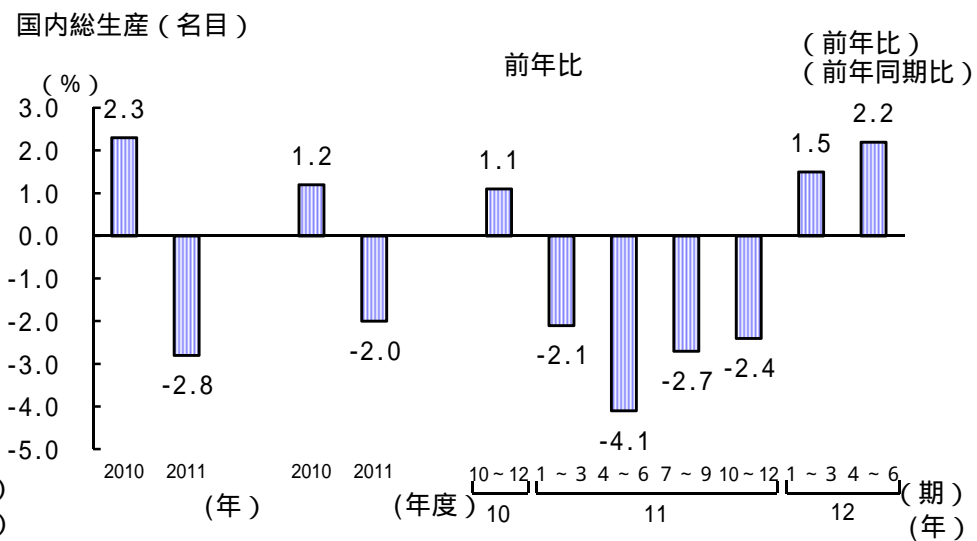
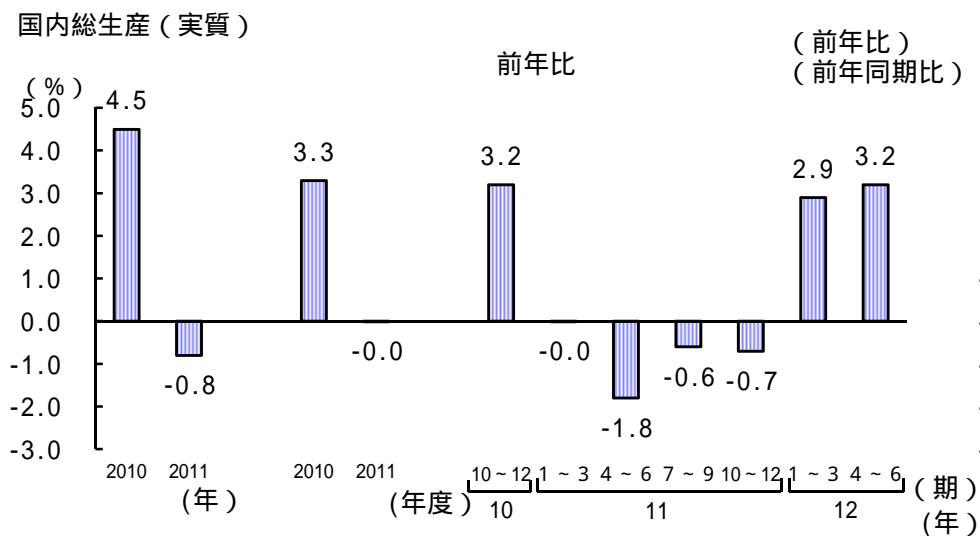
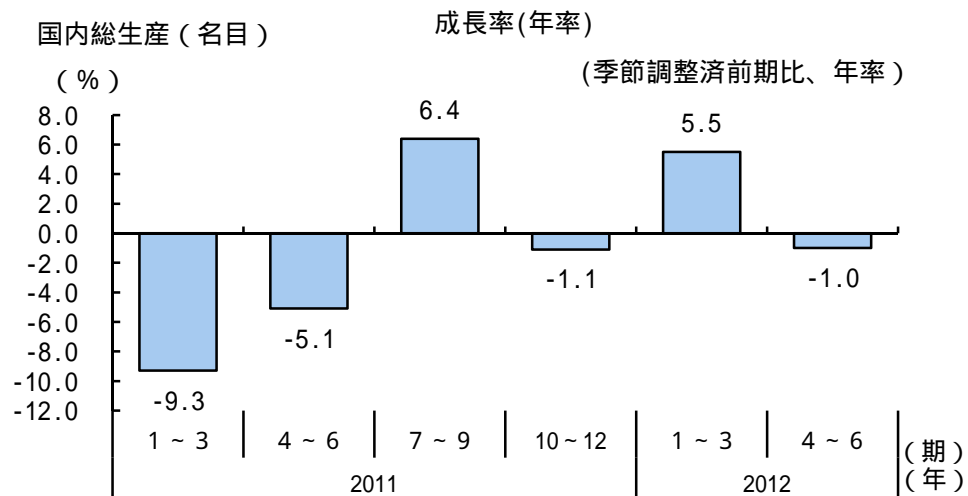
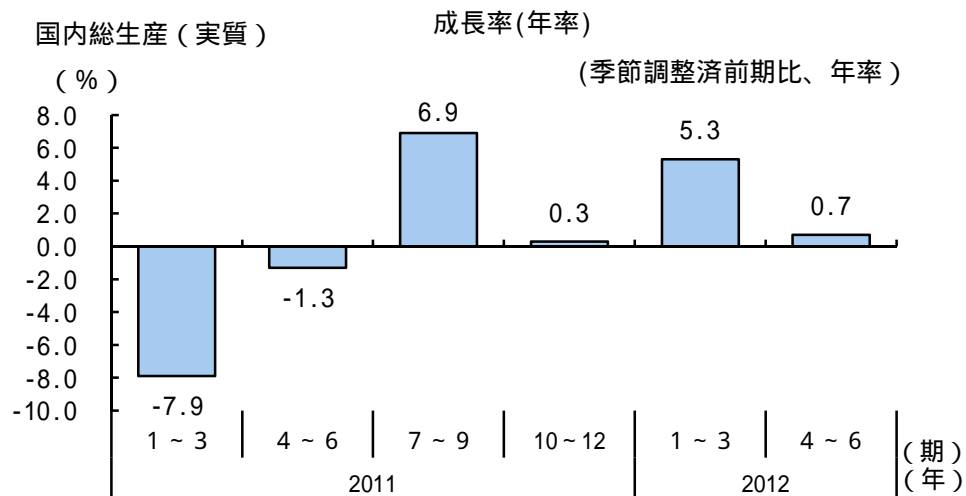
	2010年 (平成22年)	2011年 (平成23年)	2010年度 (平成22年度)	2011年度 (平成23年度)	2011年			2012年		
					4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	(寄与度)
実質国内総支出(GDP)	4.5	0.8	3.3	0.0	0.3	1.7	0.1	1.3	0.2	-
(前年同期比)					1.8	0.6	0.7	2.9	3.2	-
国内需要	(2.8)	(0.1)	(2.5)	(1.0)	(0.6)	(1.0)	(0.8)	(1.2)	0.2	(0.2)
民間需要	(2.3)	(0.1)	(2.3)	(0.5)	(0.1)	(1.0)	(0.8)	(0.8)	0.2	(0.1)
民間最終消費支出	2.6	0.1	1.6	1.2	0.6	1.1	0.7	1.2	0.1	(0.1)
民間住宅	4.2	5.7	2.6	3.8	3.0	4.8	0.1	1.6	0.9	(0.0)
民間企業設備	0.8	1.3	3.9	1.1	0.9	0.3	5.5	1.6	1.4	(0.2)
民間在庫品増加	(0.8)	(0.5)	(0.8)	(0.5)	(0.0)	(0.2)	(0.4)	(0.3)	-	(0.2)
公的需要	(0.5)	(0.2)	(0.2)	(0.5)	(0.5)	(0.0)	(0.0)	(0.4)	0.5	(0.1)
政府最終消費支出	2.2	2.0	2.5	1.9	0.6	0.2	0.4	1.1	0.2	(0.0)
公的固定資本形成	0.9	3.5	6.0	2.9	7.4	1.1	1.0	3.6	1.8	(0.1)
財貨・サービスの純輸出	(1.7)	(0.9)	(0.8)	(1.0)	(0.9)	(0.7)	(0.7)	(0.1)	-	(0.1)
財貨・サービスの輸出	24.3	0.1	17.4	1.4	5.8	7.8	3.6	3.4	1.2	(0.2)
財貨・サービスの輸入	11.2	6.3	12.3	5.6	0.0	3.4	1.0	2.2	1.6	(0.3)
GDPデフレーター	2.2	2.1	2.1	1.9	2.4	2.1	1.8	1.3	0.9	-

（備考）基準年（実質値・デフレーターにおける指数算式のウェイト統合の基準となる年）：前暦年
GDPデフレーターは前年同期比

(名目値、季節調整済前期比、()内は寄与度、%)

	2010年 (平成22年)	2011年 (平成23年)	2010年度 (平成22年度)	2011年度 (平成23年度)	2011年			2012年		
					4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	(寄与度)
名目国内総支出(GDP)					1.3	1.6	0.3	1.3	0.3	-
(前年同期比)	2.3	2.8	1.2	2.0	4.1	2.7	2.4	1.5	2.2	-
(実額)	481.8	468.2	479.3	470.0	463.5	470.8	469.5	475.8	474.6	-
国内需要	(1.4)	(0.7)	(1.2)	(0.3)	(0.1)	(1.0)	(0.5)	(1.4)	0.2	(0.2)
民間需要	(1.1)	(0.9)	(1.1)	(0.2)	(0.3)	(1.0)	(0.6)	(1.0)	0.3	(0.2)
民間最終消費支出	0.9	0.9	0.0	0.3	0.2	1.0	0.4	1.5	0.3	(0.2)
民間住宅	4.7	6.4	2.8	4.3	2.7	4.8	0.2	1.7	0.8	(0.0)
民間企業設備	1.0	0.1	2.1	0.1	1.2	0.2	5.4	1.6	1.4	(0.2)
民間在庫品増加	(0.8)	(0.5)	(0.8)	(0.5)	(0.2)	(0.2)	(0.3)	(0.4)	-	(0.2)
公的需要	(0.3)	(0.2)	(0.0)	(0.5)	(0.5)	(0.0)	(0.1)	(0.4)	0.1	(0.0)
政府最終消費支出	1.6	1.4	1.6	1.5	0.5	0.1	0.0	1.2	0.5	(0.1)
公的固定資本形成	0.3	2.8	6.1	3.7	7.9	0.6	1.2	3.1	1.9	(0.1)
財貨・サービスの純輸出	(0.9)	(2.1)	(0.0)	(2.2)	(1.4)	(0.6)	(0.8)	(0.0)	-	(0.0)
財貨・サービスの輸出	22.3	2.6	14.4	3.9	6.1	6.3	5.1	3.4	1.0	(0.2)
財貨・サービスの輸入	16.1	12.1	15.5	11.2	3.1	2.4	0.2	3.3	1.0	(0.2)

(備考) 体系基準年(名目値のベンチマークとなる年): 2005年
 実額は季節調整系列(単位: 兆円)



（備考） 内閣府「四半期別GDP速報」

2 個人消費

個人消費は、おおむね横ばいとなっているが、足下で弱い動きがみられる。

(前年同期比、[]内は暦年前年比、()内は季調済前期比、%)

8月

	(金額等) [2011年] 2011年度	[2010年] 2010年度	[2011年] 2011年度	2011年10-12月	2012年1-3月	4-6月	2012年5月	6月	7月		
消費総合指数(実質)		[2.5] 1.4	[0.0] 1.1	(0.8)	(1.3)	(0.1)	(0.8)	(1.0)	(0.5)		
家計調査	実質消費支出		[0.3] 1.1	[2.2] 1.3	(0.4) 1.0	(0.2) 1.1	(1.7) 2.7	(1.5) 4.0	(1.3) 1.6	(1.3) 1.7	
	名目消費支出 (平均)	[282,955円] 284,036円	[0.5] 1.5	[2.5] 1.3	(0.3) 1.3	(0.9) 1.5	(1.3) 3.0	(0.9) 4.3	(1.6) 1.5	(1.4) 1.2	
	実質消費支出 (除く住居等)		[0.0] 1.2	[2.2] 1.3	(0.1) 1.8	(0.8) 1.3	(0.8) 1.9	(0.3) 2.7	(2.1) 0.4	(0.7) 0.6	
	家計消費指数(実質)		[0.4]	[2.8]	1.7	2.5	2.3	2.8	0.8		
	平均消費性向 (季節調整値)		[74.0] 73.4	[73.4] 73.3	74.2	71.8	74.1	74.6	72.0	75.4	
販売側統計	小売業販売額 (商業販売統計、名目)	[134.0兆円] 135.8兆円	[2.5] 0.8	[1.2] 0.8	(1.0) 0.8	(4.0) 5.2	(0.5) 3.1	(0.7) 3.6	(1.2) 0.2	P(1.5) P0.8	
	百貨店販売額 (既存店、名目)	[6.7兆円] 6.7兆円	[3.0] 3.1	[2.3] 0.0	0.6	3.9	0.2	0.9	1.2	P3.3	
	スーパー販売額 (既存店、名目)	[12.9兆円] 13.0兆円	[2.4] 1.4	[1.5] 1.3	1.7	0.1	1.9	0.7	3.3	P5.0	
	コンビニエンスストア販売額 (既存店、名目)	[8.8兆円] 9.0兆円	[1.1] 1.5	[5.6] 4.6	8.1	2.0	1.6	1.7	2.7	P3.4	
	新車販売台数(登録・届出) (乗用車、軽を含む)	[352.0万台] 400.4万台	[7.3] 7.0	[16.3] 3.3	(10.7) 24.5	(17.9) 50.3	(0.8) 66.0	(3.7) 68.6	(3.1) 46.8	(4.3) 42.4	P(8.7) P15.7
	旅行者取扱金額(国内) (名目)	[1.7兆円] 1.8兆円	[1.2] 2.8	[8.4] 3.3	0.8	12.8	22.1	21.3	10.4	2.9	
	旅行者取扱金額(海外) (名目)	[1.1兆円] 1.1兆円	[12.8] 13.0	[2.3] 0.2	4.3	11.9	28.8	33.9	21.9	9.7	

(備考) 1. 経済産業省「商業販売統計」、総務省「家計調査」、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会、鉄道旅客協会資料により作成。

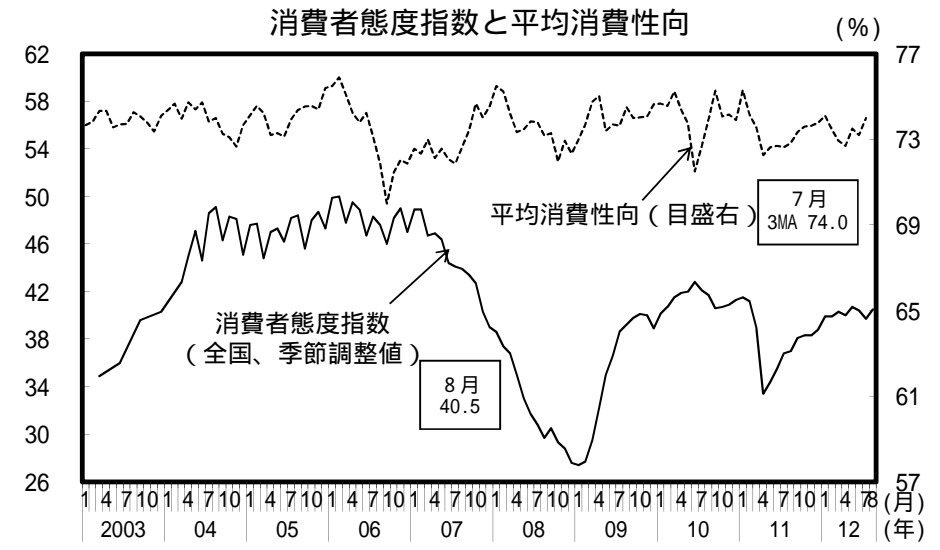
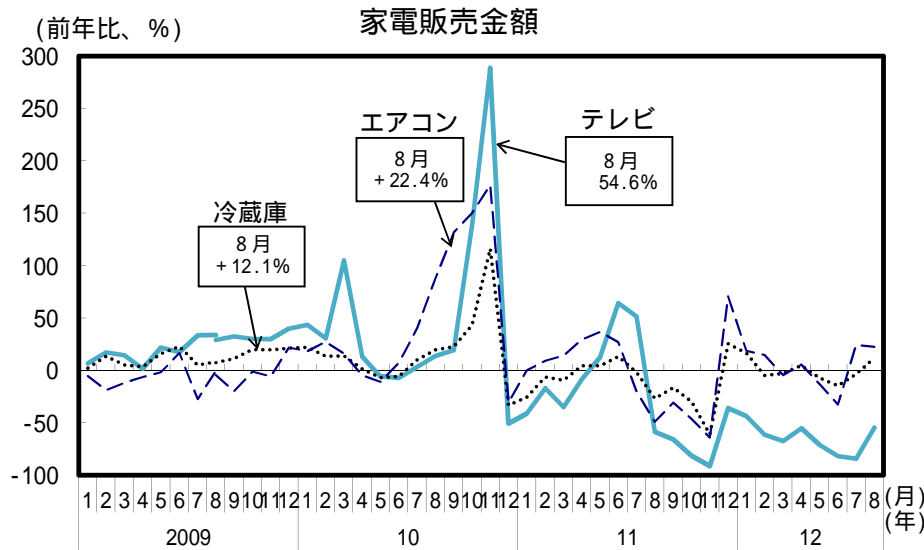
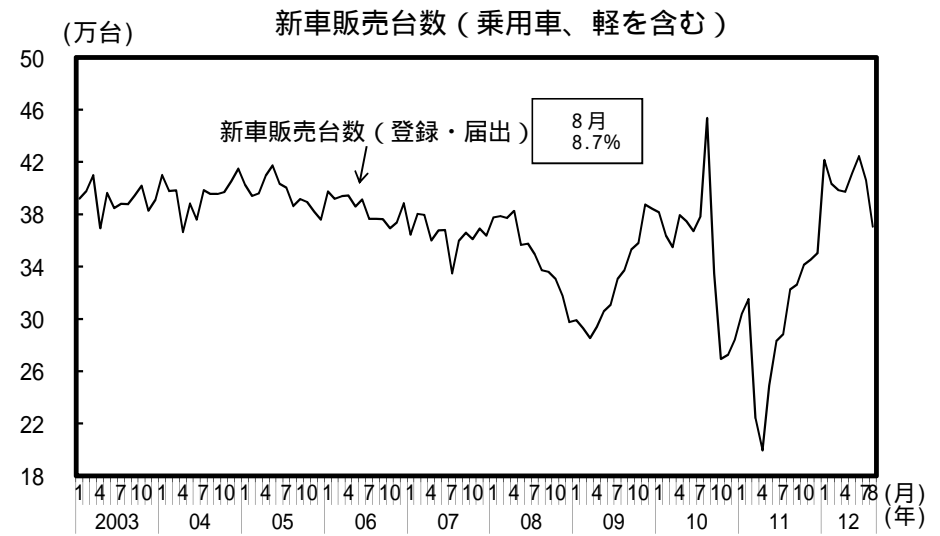
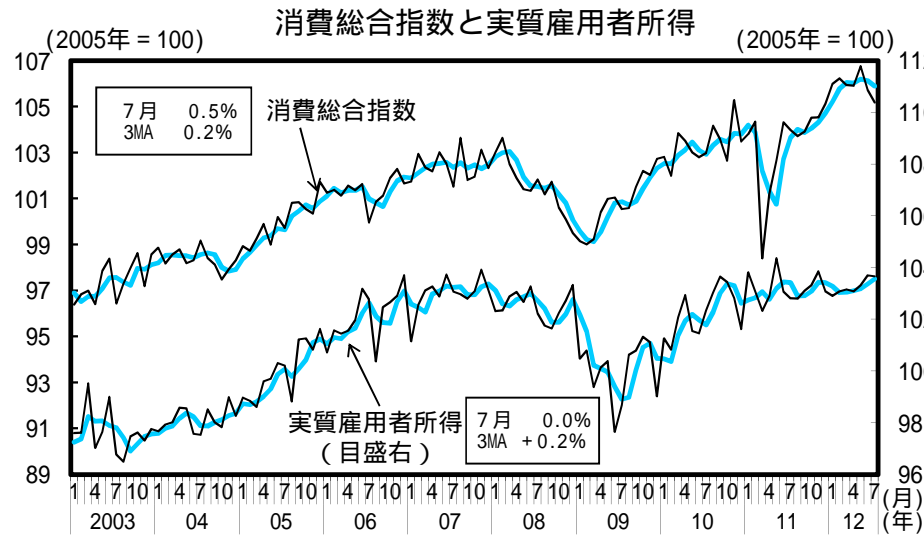
2. 実質消費支出(除く住居等)は、二人以上世帯の消費支出から「住居」、「自動車等購入」、「贈与金」、「仕送り金」を除いた値。

3. 実質消費支出、実質消費支出(除く住居等)及び小売業販売額は、うるう年調整をしている。

4. 家計消費指数は、家計調査の結果のうち、購入頻度が少ない高額消費部分について「家計消費状況調査」の結果と合成し、指数化したもの。

5. 小売業販売額、百貨店、スーパー、コンビニエンスストアは商業販売統計(経済産業省)により作成。既存店とは、調査月において、当月と前年同月でともに存在した店舗をいう。Pは速報値。

6. 旅行は大手旅行者12社取扱金額。



(備考) 上図：消費総合指数と実質雇用者所得はともに内閣府試算値。
 実質雇用者所得は、現金給与総額（厚生労働省「毎月勤労統計」）と
 非農林業雇用者数（総務省「労働力調査」）を掛けあわせている。
 太線は後方3ヵ月移動平均値。

下図：GfKジャパン（全国の有力家電量販店販売実績を調査・集計）により作成。
 2009年8月以前とそれ以降では調査範囲が異なっており、2009年8月以降
 の方が調査範囲が広い。

(備考) 上図：日本自動車販売協会連合会及び全国軽自動車協会連合会により作成。内閣府で季節調整。
 なお、最新月はナンバーベース（特殊用途車を乗用車や貨物車に配分する）によるが、
 それ以前の月は登録ナンバーベース（特殊用途車を乗用車や貨物車に配分しない）によるも
 のであり、両者は厳密には一致しない。グラフの中の数字は季節調整済前月比。

下図：内閣府「消費動向調査」、総務省「家計調査」により作成。
 平均消費性向（季調値、勤労者世帯）は後方3ヵ月移動平均値。

3. 民間設備投資

設備投資は、一部に弱い動きもみられるものの、緩やかに持ち直している。

(前年同期比、()内は季調済前期比、%)

法人企業統計季报	[2011年実額] 2011年度実額	[2010年] 2010年度	[2011年] 2011年度	2011年度 上期	下期	2011年 7 - 9月期	2011年 10 - 12月期	2012年 1 - 3月期	2012年 4 - 6月期
全産業	[34.3兆円] 34.6兆円	[2.3] 3.0	[2.4] 2.3	9.7	4.1	(1.7) 11.0	(11.9) 4.9	(2.0) 3.5	(0.5) 6.6
製造業	[12.5兆円] 12.6兆円	[8.4] 9.8	[6.4] 0.9	2.1	3.5	(3.9) 2.3	(4.3) 3.5	(3.6) 3.5	(2.1) 13.9
非製造業	[21.8兆円] 22.0兆円	[1.1] 0.4	[6.7] 4.1	13.7	4.4	(4.9) 15.8	(16.5) 5.7	(5.1) 3.4	(2.0) 2.4
大中堅企業	[25.2兆円] 25.4兆円	[10.3] 1.4	[1.7] 0.3	2.8	2.9	(1.2) 0.8	(4.9) 2.2	(2.1) 3.4	(0.9) 6.9
中小企業	[9.1兆円] 9.2兆円	[24.1] 16.0	[12.2] 8.9	24.5	7.7	(9.8) 32.1	(33.8) 11.8	(12.1) 3.6	(0.7) 5.6

(備考) 1. 年・年度及び半期の伸び率、大中堅企業・中小企業の季調済前期比は内閣府試算値。実額はそれぞれの系列ごとに四捨五入しているため、合計と一致しない場合がある。
2. ソフトウェア投資を除く。

(前年同期(月)比、()内は季調済前期(月)比、%)

	[2011年実額] 2011年度実額	[2010年] 2010年度	[2011年] 2011年度	2011年 10 - 12月	2012年 1 - 3月	4 - 6月	2012年 5月	6月	7月
資本財出荷指数 (除く輸送機械)		[21.5] 21.4	[5.5] 5.4	(1.2) 2.1	(2.5) 7.0	(0.7) 0.9	(5.6) 5.1	(3.5) 4.5	P (2.0) 4.7
資本財総供給指数 (除く輸送機械)		[16.5] 17.8	[4.6] 5.4	(2.9) 6.8	(3.9) 4.7	(4.8) 3.9	(10.6) 5.3	(9.8) 1.3	P (1.6) 1.7
機械受注 (船舶・電力除く民需)	[8.9兆円] 9.0兆円	[7.0] 9.1	[7.8] 6.2	(0.7) 6.7	(0.9) 3.3	(4.1) 1.7	(14.8) 1.0	(5.6) 9.9	(4.6) 1.7
建築着工 工事費予定額 (民間非居住)	[6.3兆円] 6.3兆円	[4.6] 4.7	[3.5] 6.9	(0.2) 14.8	(6.0) 1.6	(0.0) 9.7	(3.5) 0.1	(1.6) 7.7	(5.5) 8.2

7 - 9月期見直し
(1.2)

(備考) 1. Pは速報値。
2. 建築着工工事費予定額(民間非居住用)は、建築着工統計調査報告(国土交通省)を基に内閣府で試算したものである。

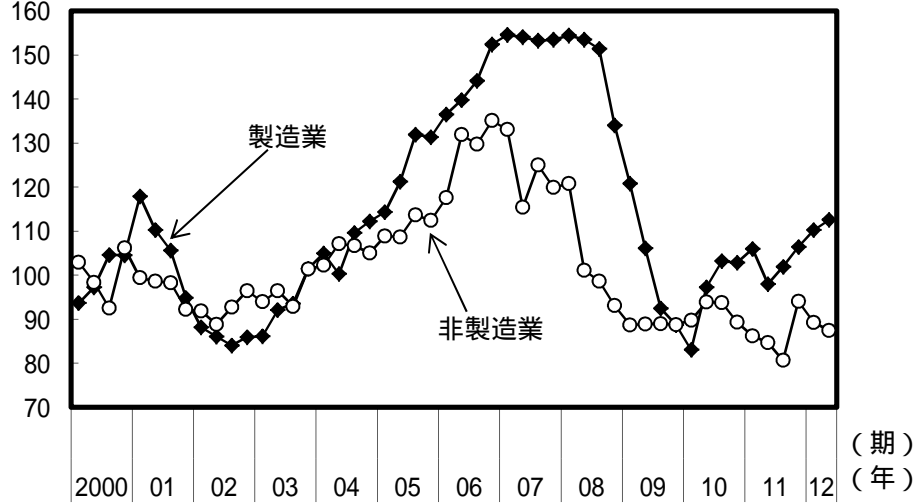
主要機関の設備投資アンケート調査結果

(前年度比、%)

機関名	日本銀行						日本政策投資銀行		日本経済新聞社		内閣府・財務省	
	全規模		大企業		中小企業		資本金10億円以上		上場企業、資本金1億円以上の有力企業		資本金1000万円以上	
調査対象企業	2011年度	2012年度	2011年度	2012年度	2011年度	2012年度	2011年度	2012年度	2011年度	2012年度	2011年度	2012年度
全産業	0.0	4.0	1.3	6.2	2.7	6.6	2.1	12.2	6.7	16.8	1.9	8.4
(除く電力)	0.1	3.5	1.2	5.9	2.8	6.7	2.3	12.5	6.9	17.6	2.6	8.7
製造業	4.3	7.2	0.7	12.4	11.3	14.3	1.7	19.1	10.9	20.9	0.1	11.5
非製造業	2.3	2.3	1.5	3.0	10.1	1.6	2.2	8.6	2.0	11.7	3.1	6.6
(除く電力)	2.4	1.2	1.5	1.8	10.2	1.8	2.6	8.4	1.8	13.0	4.4	6.8
電力	1.6	9.1	1.9	8.6	5.3	12.6	1.1	10.0	3.6	2.3	7.1	4.8
調査時点	2012年5月～6月						2012年6月		2012年4月		2012年8月	
発表時期	2012年7月						2012年8月		2012年6月		2012年9月	
回答社数	10,792		2,332		5,517		2,214		1,348		12,495	

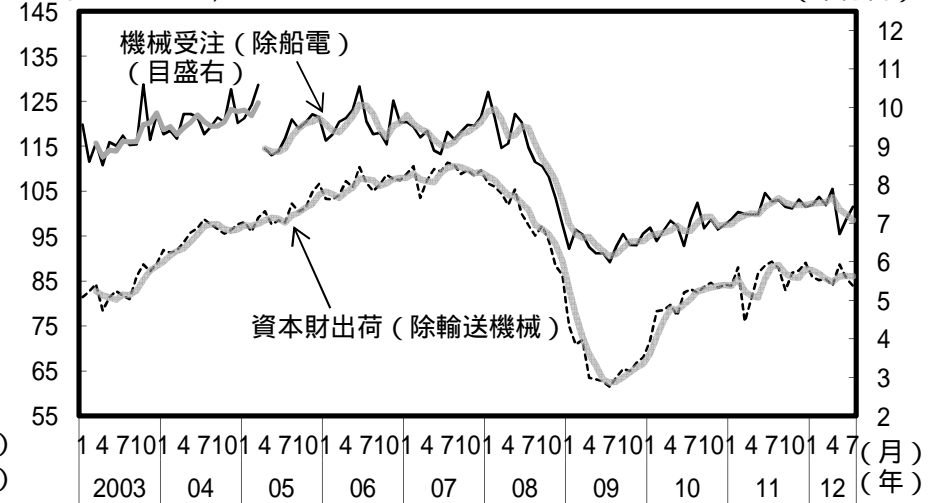
(備考) 1. 日銀はソフトウェア投資を除く。日銀の電力は電気・ガス。回答社数は対象会社数。2010年度からリース会計対応ベース。
2. 日経新聞の調査は連結ベースで、海外で行う設備投資も含む。
3. 内閣府・財務省はソフトウェア投資を除く。内閣府・財務省の電力は、電気・ガス・水道。

(2000年=100) 製造業・非製造業の設備投資（実質）



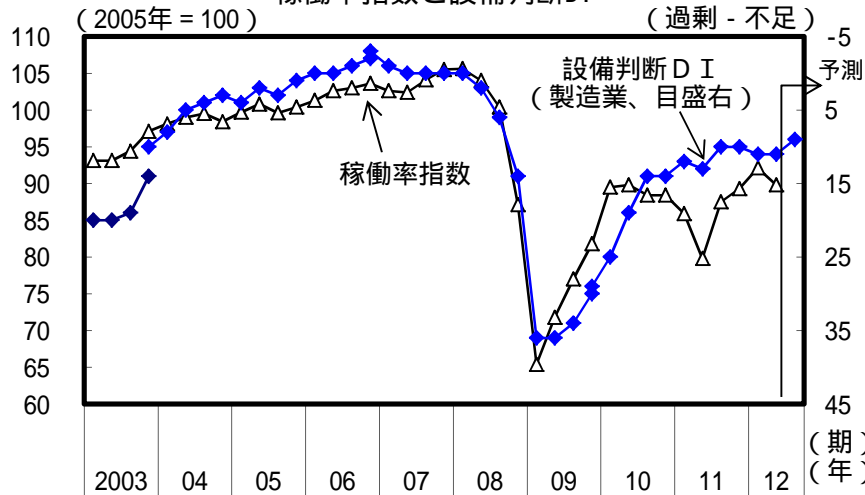
(備考) 1. 財務省「法人企業統計季報」、内閣府「国民経済計算」により作成。
2. 実質値は、QE設備投資デフレーターによる試算値。

(2005年=100) 資本財出荷指数と機械受注 (千億円)



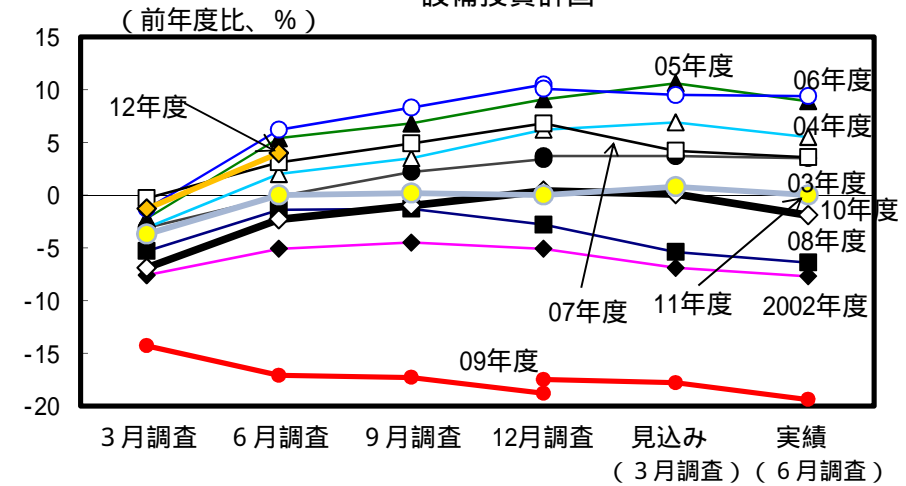
(備考) 1. 経済産業省「鉱工業指数」、内閣府「機械受注統計」により作成。
2. 季調値。太線は3ヵ月移動平均。
3. 機械受注の2005年4月以降の数値は携帯電話含まず。

稼働率指数と設備判断DI



(備考) 1. 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」、経済産業省「鉱工業指数」により作成。
2. 日銀短観は、2004年3月調査から調査方法が変更され、2007年3月調査、2010年3月調査において調査対象企業の見直しが実施されている。このためグラフが不連続となっている。

設備投資計画



(備考) 1. 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」により作成。
2. 2004年3月調査から調査方法が変更され、2007年3月調査、2010年3月調査において、調査対象企業の見直しが実施されている。このためグラフが不連続となっている。
3. 2010年度からリース会計対応ベース。

4. 住宅建設

住宅建設は、このところ横ばいとなっている。

(前年同期(月)比、()内は季調済前期(月)比、%)

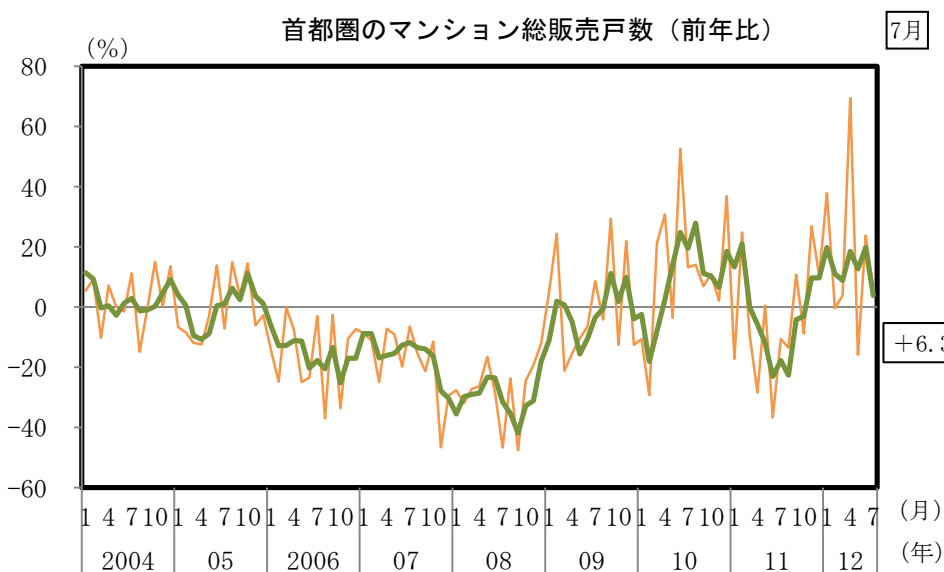
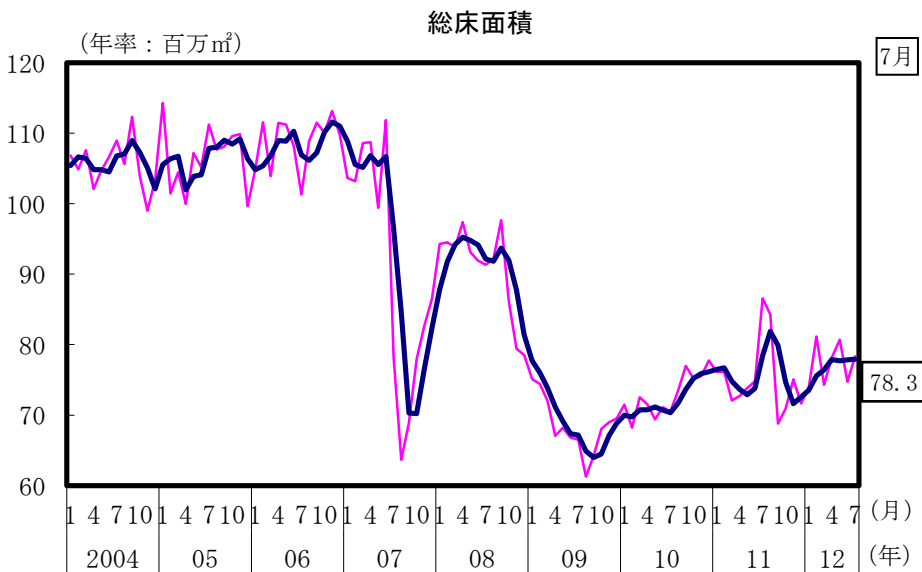
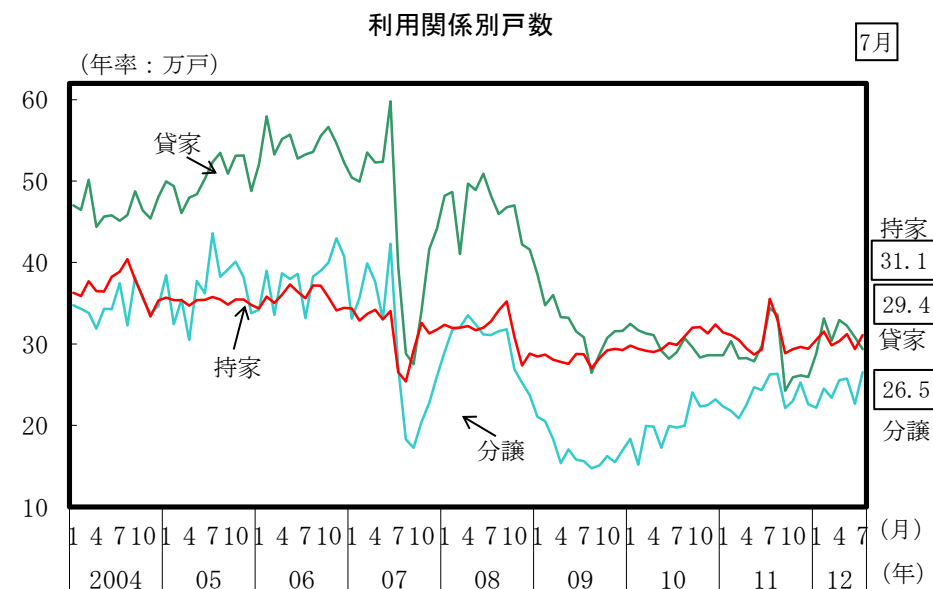
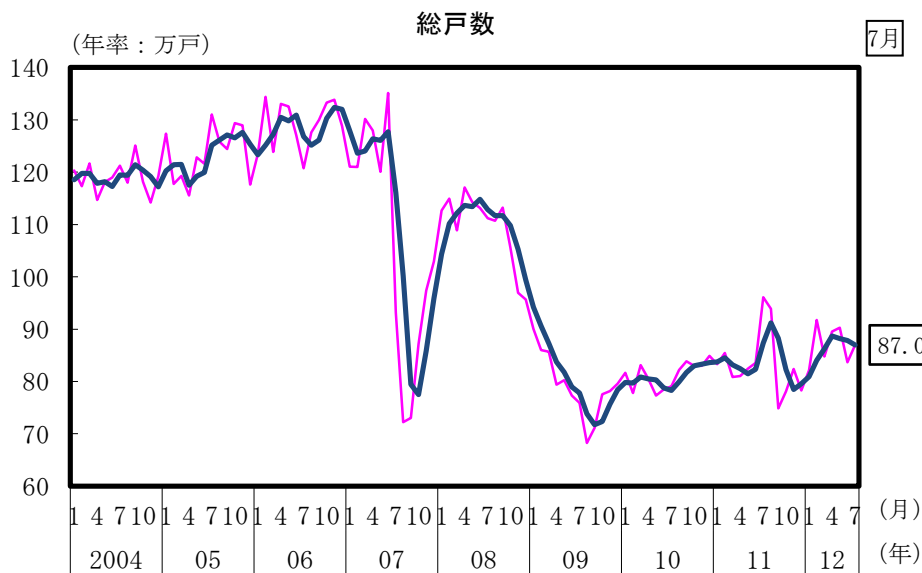
	2010年	2011年	2010年度	2011年度	2012年1 - 3月	4 - 6月	2012年5月	6月	7月
新設住宅着工戸数 (万戸)	81.3	83.4	81.9	84.1	85.7	88.1	90.3	83.7	87.0
					(7.5)	(2.7)	(0.8)	(7.3)	(4.0)
建築主が民間	3.1	2.6	5.6	2.7	3.7	6.2	9.3	0.2	9.6
持家	3.9	3.0	6.4	3.0	3.9	5.6	8.4	1.1	8.9
貸家	7.2	0.1	7.5	1.2	1.2	3.5	8.2	0.1	12.5
分譲	7.3	4.1	6.3	0.7	5.9	11.1	15.3	3.3	14.7
戸建・長屋建	19.6	16.2	29.6	12.7	7.9	3.6	4.4	7.2	1.2
共同建て	21.1	5.9	19.0	4.1	4.2	4.4	12.8	4.0	0.9
着工床面積	17.8	28.8	44.7	22.8	11.6	2.8	3.1	20.1	1.5
					(4.9)	(1.8)	(3.2)	(7.4)	(4.8)
建築主が民間	6.7	3.4	9.0	2.5	2.3	5.1	9.0	0.4	9.6
	7.3	3.6	9.6	2.8	2.6	4.7	8.4	1.0	9.3
工事費予定額平米単価 (万円)	17.0	16.9	16.9	17.0	17.1	16.9	16.9	17.0	17.1
	2.1	0.2	1.4	0.0	0.6	0.3	0.1	0.2	1.3

(備考) 国土交通省「建築着工統計」により作成。

なお、「建築主が民間」とは、建築主別の「会社」、「会社でない団体」、「個人」の合計を、内閣府において季節調整したものである。

また、「工事費予定額平米単価」は、「居住専用+居住産業併用×0.7」の工事費予定額、着工床面積により算出した。

住宅着工戸数、床面積（季節調整値）の推移



(備考) 国土交通省「建築着工統計」、(株)不動産経済研究所資料により作成
太線は後方3ヶ月移動平均、細線は単月値である。

5. 公共投資

公共投資は、堅調に推移している。

(前年度比、前年同期(月)比、[]内は暦年前年比、()内は季調済前期(月)比、%)

	[2010年] 2010年度	[2011年] 2011年度	2012年1-3月	4-6月	2012年5月	6月	7月	8月
公共工事受注額	[11.8] 10.1	[0.8] 5.9	17.2	32.2	47.5	24.7	29.2	
公共工事受注額 (大手50社)	[8.5] 12.1	[3.2] 22.7	28.7	29.7	22.6	39.6	60.9	
公共工事請負金額	[10.6] 8.8	[3.4] 0.5	10.3	15.5	36.7	14.1	26.6	19.2
公共工事出来高	[3.2] 11.4	[8.8] 3.5	(5.0) 3.1	(3.5) 9.0	(2.9) 10.5	(0.1) 10.4		
公的固定資本形成 (名目)	[0.3] 6.1	[2.8] 3.7	(3.1) 9.3	(1.9) 3.9	-	-	-	-

- (備考) 1. 国土交通省「建設工事受注動態統計」、「建設総合統計」、北海道、東日本、西日本の三保証株式会社「公共工事前払金保証統計」などにより作成。
 2. 公共工事受注額は、「建設工事受注動態統計」における1件500万円以上の工事。
 3. 公共工事出来高は、内閣府にて季節調整を行っている。
 4. 公共工事請負金額の8月分は、各保証株式会社の公表値を基に内閣府で集計したものである。

(参考)

国の公共事業関係費

年 度	2010年度	2011年度	2012年度
当初予算 (億円)	57,731	49,743	53,022
(前年度比、%)	18.3	13.8	6.6
補正後予算 (億円)	63,588	78,269	
(前年度比、%)	27.6	23.1	

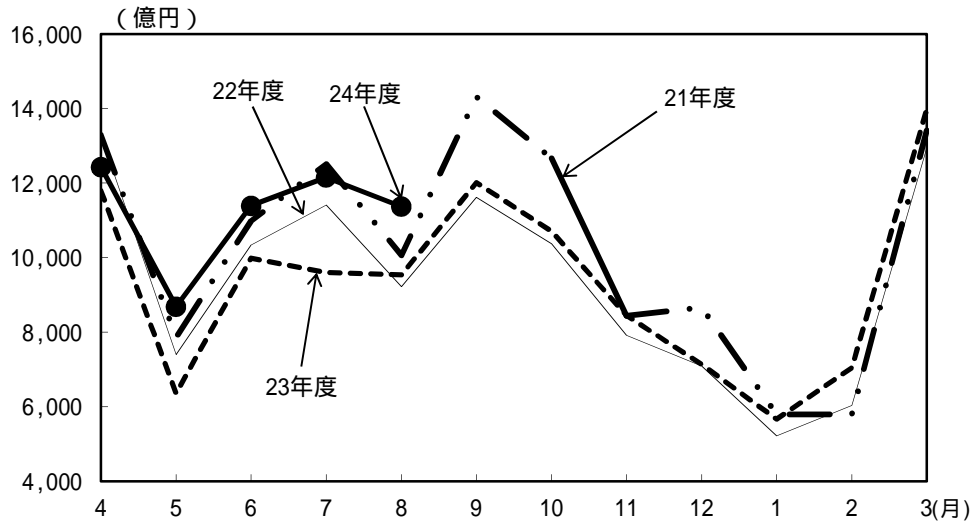
地方の普通建設事業費

(前年度比、%)

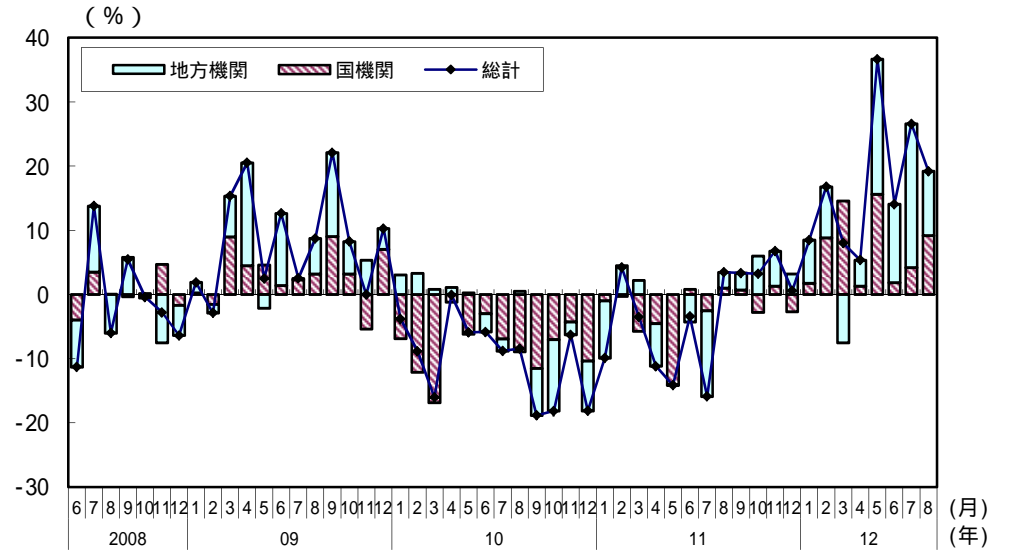
調査機関	総務省				時事通信社		日経グローバル	
	(当初予算)		(9月補正後予算)		(当初予算)		(当初予算)	
区 分	2010年度	2011年度	2010年度	2011年度	2011年度	2012年度	2011年度	2012年度
普通建設事業費	6.5	1.4	15.4		1.3	3.3	0.9	3.6
うち補助事業費	7.6	26.0	12.6		0.4	4.3	1.5	8.1
うち単独事業費	0.0	22.1	15.0		0.3	1.0	0.9	1.5
調査対象	普通会計、当初予算。 都道府県、政令指定都市の合計。骨格予算を編成した自治体は、肉付け後予算の額を計上している。		普通会計、9月補正後予算。 都道府県、政令指定都市の合計。		一般会計、当初予算。 都道府県及び政令指定都市の単純合計。骨格予算・暫定予算を編成した自治体を除いて集計。		一般会計、当初予算。 都道府県、全市及び特別区の単純合計。骨格予算・暫定予算を編成した自治体を除いて集計。	

(備考) 財務省・総務省資料、時事通信社調査、「日経グローバル」調査などにより作成。

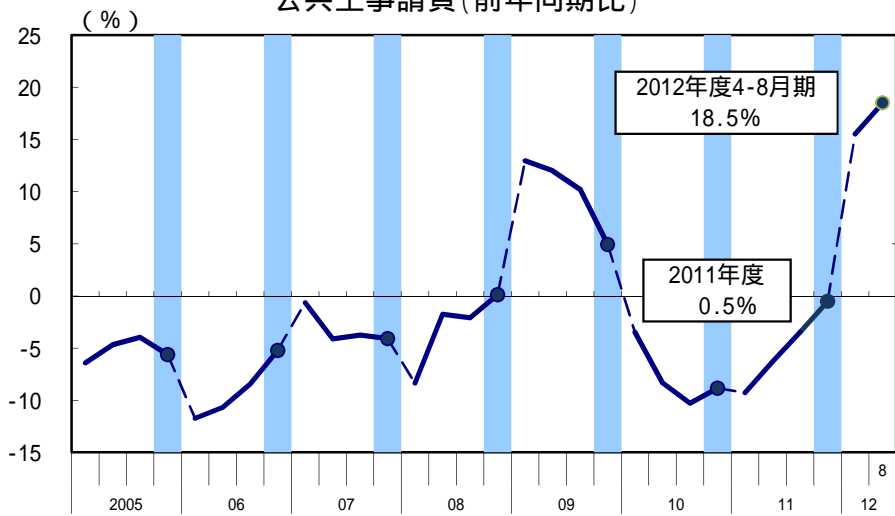
公共工事請負(金額・原数値)



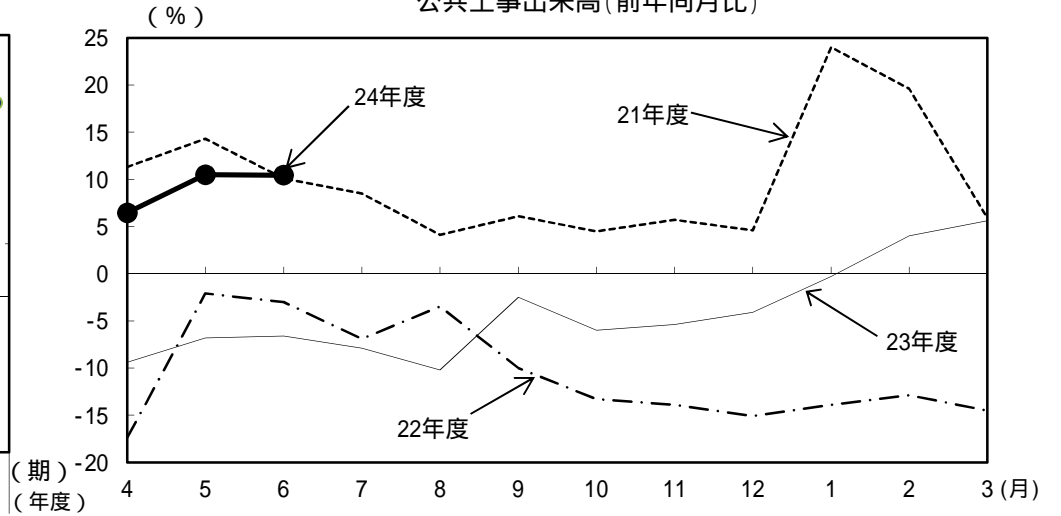
公共工事請負金額・原数値(前年同月比寄与度)



公共工事請負(前年同期比)



公共工事出来高(前年同月比)



(備考)

左上・下図：東日本建設業保証株式会社他「公共工事前払金保証統計」により作成。
左下図は各期における当該年度の累計値について前年比を算出。

(備考)

右上図：東日本建設業保証株式会社他「公共工事前払金保証統計」により作成。
右下図：国土交通省「建設総合統計」により作成。

6. 輸出・輸入・国際収支

輸出は、弱含んでいる。

輸入は、横ばいとなっている。

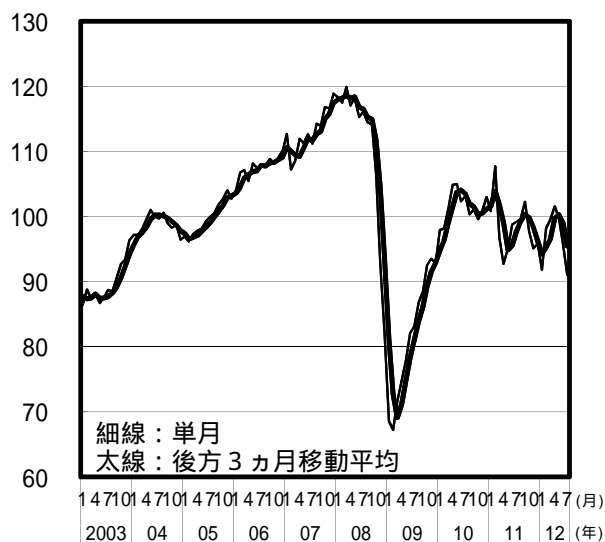
貿易・サービス収支の赤字は、横ばいとなっている。

(前年同期比、()内は季節調整値(前月比)、Pは速報値、%)

	[2010年] 2010年度	[2011年] 2011年度	2012年1 - 3月	2012年4 - 6月	5月	6月	7月
輸出数量	[24.2] 14.7	[2.9] 4.3	(0.3) 3.1	(2.6) 3.5	(1.8) 9.3	(4.1) 2.3	(4.8) 10.2
輸入数量	[13.9] 12.4	[3.2] 2.2	(0.2) 3.1	(1.1) 3.2	(2.0) 8.5	(3.0) 0.7	(P 1.7) P 7.0
貿易・サービス収支(億円)	[65,646] 52,225	[33,781] 53,020	15,327	P 18,568	P 6,452	P 3,619	P 7,557
貿易収支(億円)	[79,789] 64,955	[16,165] 34,495	11,328	P 11,722	P 4,498	P 1,666	P 4,769
所得収支(億円)	[124,149] 126,117	[140,384] 142,883	32,896	P 34,992	P 10,561	P 12,135	P 11,807
経常収支(億円)	[178,879] 166,593	[95,507] 78,934	14,846	P 13,444	P 2,822	P 7,736	P 3,354
資本収支(億円)(原数値)	[119,977] 97,220	[62,659] 78,287	28,153	P 27,980	P 7,446	P 20,230	P 7,329

輸出入数量指数(季調値)の動向(2005年=100)

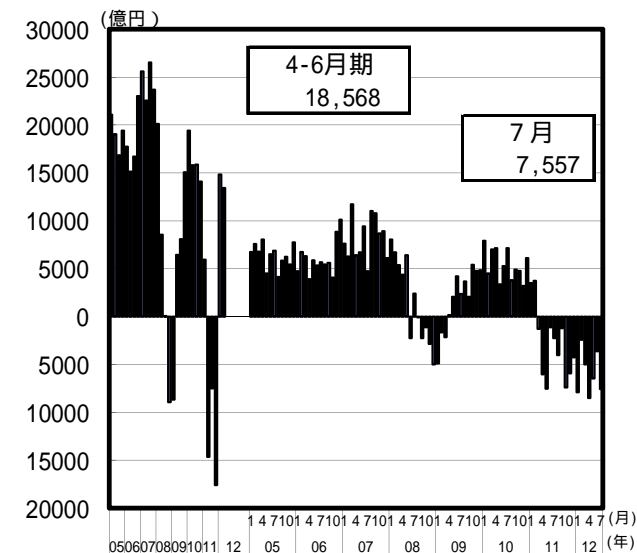
輸出



輸入



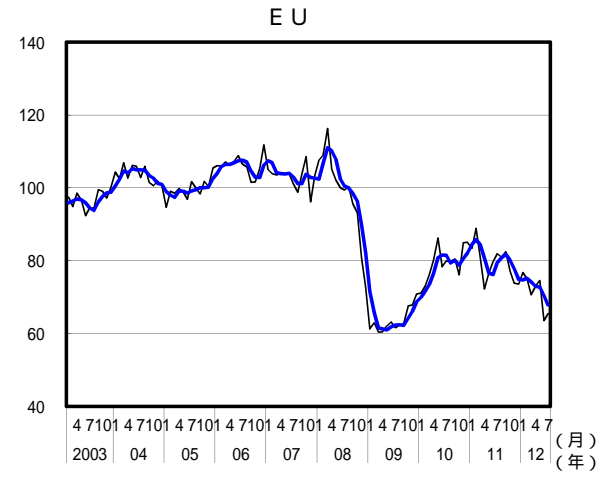
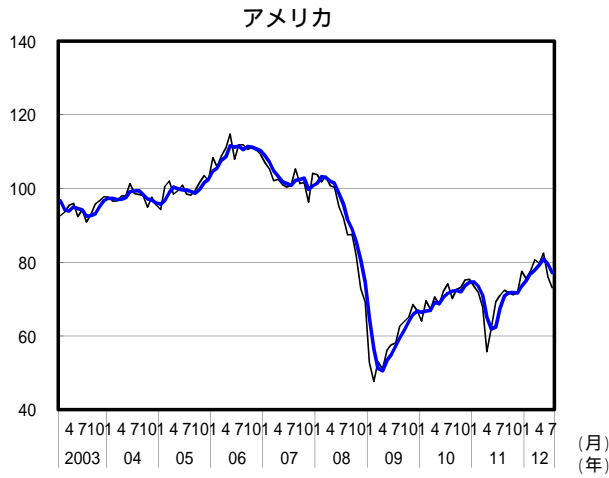
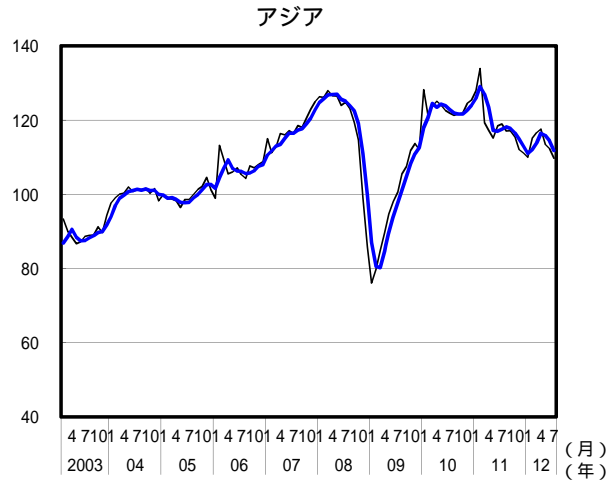
貿易・サービス収支の動向



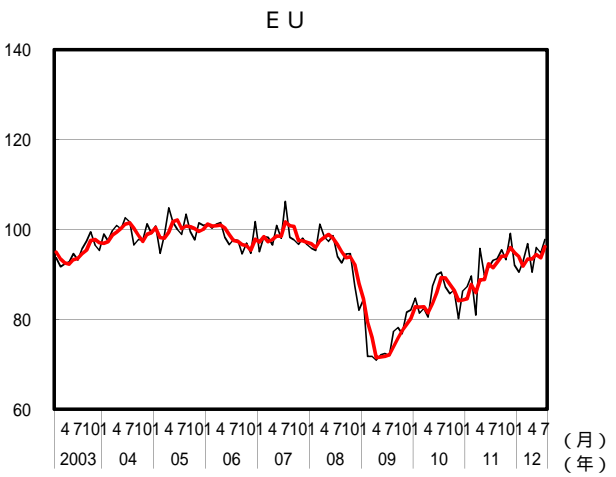
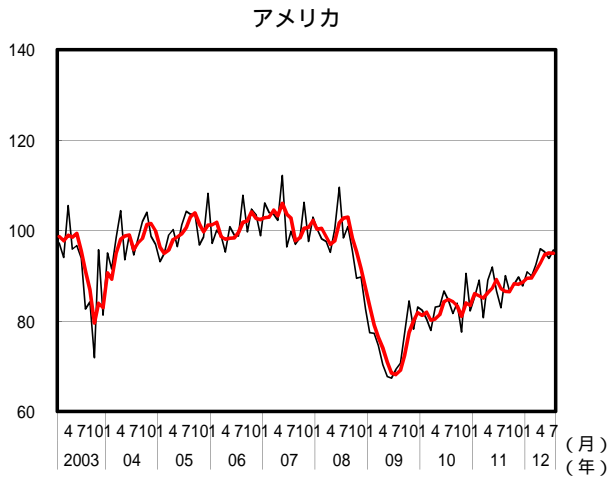
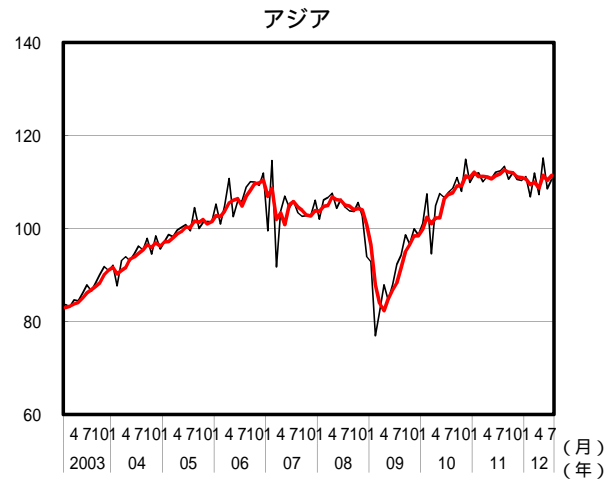
(備考) 財務省「貿易統計」、「国際収支状況」により作成。

地域別輸出入数量指数 (2005年 = 100)

輸出



輸入



- (備考) 1 . 財務省「貿易統計」により作成。
 2 . 細線が単月、太線が後方3ヵ月移動平均 (季節調整値)
 3 . 2005年 = 100

7. 生産・出荷・在庫
生産は、弱含んでいる。

(前年度比、前年同期(月)比、[]内は暦年前年比、()内は季調済前期(月)比、%)

	[2010年] 2010年度	[2011年] 2011年度	2011年 10 - 12月	2012年 1 - 3月	4 - 6月	2012年 5月	6月	7月	(予測調査)
鉱工業生産	[16.4] 9.3	[2.3] 1.0	(0.4) 1.6	(1.3) 4.8	(2.0) 5.3	(3.4) 6.0	(0.4) 1.5	P (1.2) 1.0	(8月 +0.1) (9月 3.3)
鉱工業出荷	[16.7] 9.4	[3.5] 2.0	(0.3) 2.2	(0.8) 4.1	(0.2) 8.0	(1.3) 11.7	(0.9) 1.1	P (3.6) 2.3	
鉱工業在庫	[3.8] 3.9	[3.8] 9.6	(1.4) 3.8	(5.9) 9.6	(0.0) 6.3	(0.7) 4.7	(1.2) 6.3	P (2.8) 9.3	
生産者製品在庫率指数 (2005年 = 100)	[108.0] 108.8	[112.7] 115.3	112.7	115.3	123.6	118.6	123.6	P 128.3	
製造工業稼働率指数 (2005年 = 100)	[88.9] 88.0	[85.4] 87.4	89.3	92.1	89.8	89.8	87.7		
第3次産業 活動指数	[1.3] 1.1	[0.1] 0.7	(0.5) 0.6	(0.0) 2.4	P (0.1) 2.3	(0.9) 3.2	P (0.2) 0.9	P (0.8) 0.8	

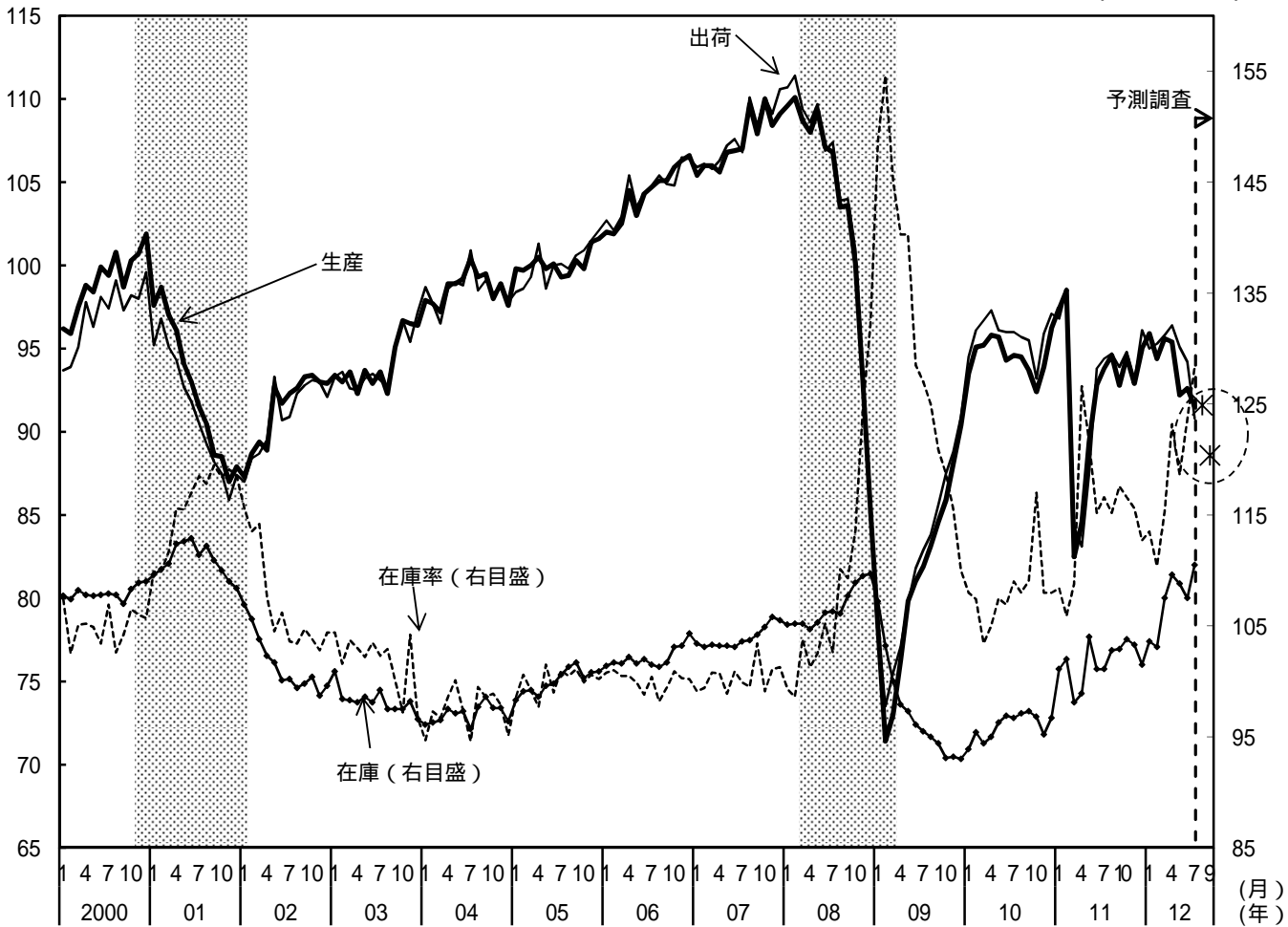
(備考) 1. 鉱工業在庫の暦年は年末値、年度は年度末値、四半期は期末値。Pは速報値。

2. 生産者製品在庫率の暦年、年度、四半期は期末値(季節調整値)。

3. 製造工業稼働率の暦年、年度は平均値(原数値)、四半期は平均値(季節調整値)。

鋳工業生産・出荷・在庫・在庫率の推移

(2005年 = 100)

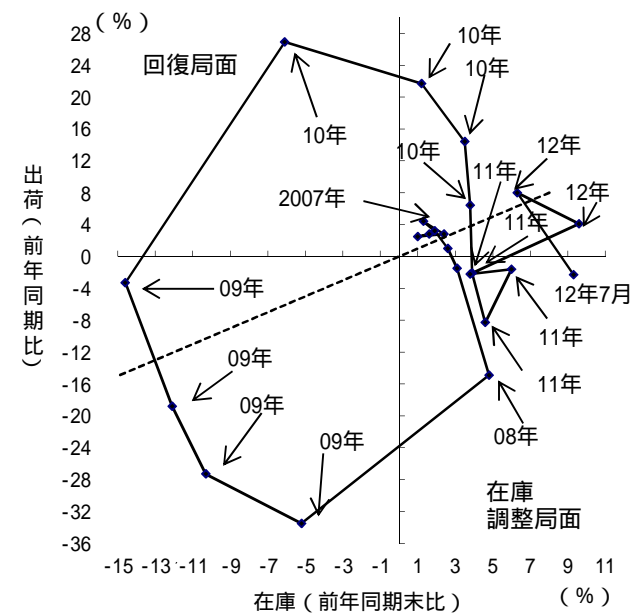


(2005年 = 100)

業種別の動向

	6月	7月
生産が増加した 主な業種 (寄与度順)	<ul style="list-style-type: none"> 化学工業 電子部品・デバイス工業 一般機械工業 	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信機械工業 化学工業(除.医薬品) 電気機械工業
生産が減少した 主な業種 (寄与度順)	<ul style="list-style-type: none"> 輸送機械工業 電気機械工業 鉄鋼業 	<ul style="list-style-type: none"> 電子部品・デバイス工業 一般機械工業 精密機械工業

在庫循環図



- (備考) 1. 経済産業省「鋳工業指数」により作成。
2. 季節調整指数(2005年 = 100)。シャドー部は景気後退期を表す。

8.(1) 企業

企業収益は、持ち直しているが、頭打ち感がみられる。
企業の業況判断は、大企業を中心に小幅改善となっている。

日本銀行 「全国企業短期経済観測調査」

(2012年6月調査、%)

経常利益(前年同期比)		2009年度	2010年度	2011年度 実績			2012年度 計画		
		実績	実績		上期	下期		上期	下期
全規模	全産業	4.3	38.3	3.2	4.4	2.0	3.4	5.5	12.0
大企業	製造業	3.7	67.9	11.7	8.5	15.3	10.1	10.1	34.7
	非製造業	7.7	33.2	7.2	7.2	7.2	1.8	8.8	5.4
中小企業	製造業	7.2	61.6	1.7	10.7	15.2	11.5	10.3	12.6
	非製造業	1.8	5.2	17.5	8.6	24.7	5.7	10.9	2.0

財務省「法人企業統計季報」

(前年同期比、()内は季調済前期比、%)

経常利益	2010年	2011年	2010年度	2011年度	2011年7-9月	10-12月	2012年1-3月	4-6月
全産業	68.1	6.0	38.9	6.1	8.5(4.7)	10.3(1.9)	9.3(9.2)	11.5(2.5)
製造業	392.0	17.0	66.0	13.5	18.7	21.5	3.6	2.7
非製造業	22.6	0.2	28.1	2.3	2.7	4.3	11.8	16.0
大中堅企業	77.8	4.7	40.2	5.5	9.5	12.3	3.2	0.8
中小企業	50.1	8.9	36.2	7.3	5.7	6.2	20.0	46.5

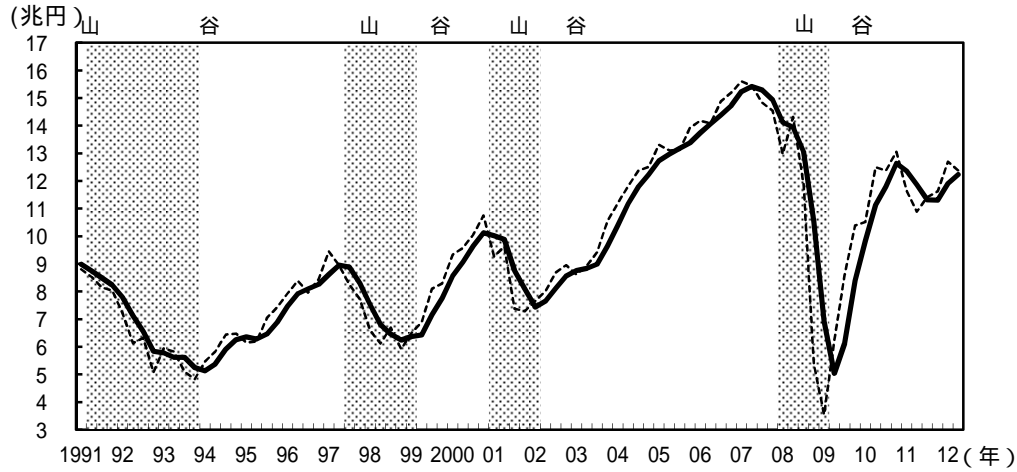
日本銀行 「全国企業短期経済観測調査」

(%ポイント)
見込み

業況判断D.I.		2010年12月	2011年3月	6月	9月	12月	2012年3月	6月	9月
全規模	全産業	11	9	18	9	7	6	4	8
	製造業	4	4	15	5	5	7	8	9
	非製造業	15	11	20	12	7	5	3	7
大企業	製造業	+ 5	+ 6	9	+ 2	4	4	1	+ 1
	非製造業	+ 1	+ 3	5	+ 1	+ 4	+ 5	+ 8	+ 6
中小企業	製造業	12	10	21	11	8	10	12	15
	非製造業	22	19	26	19	14	11	9	15

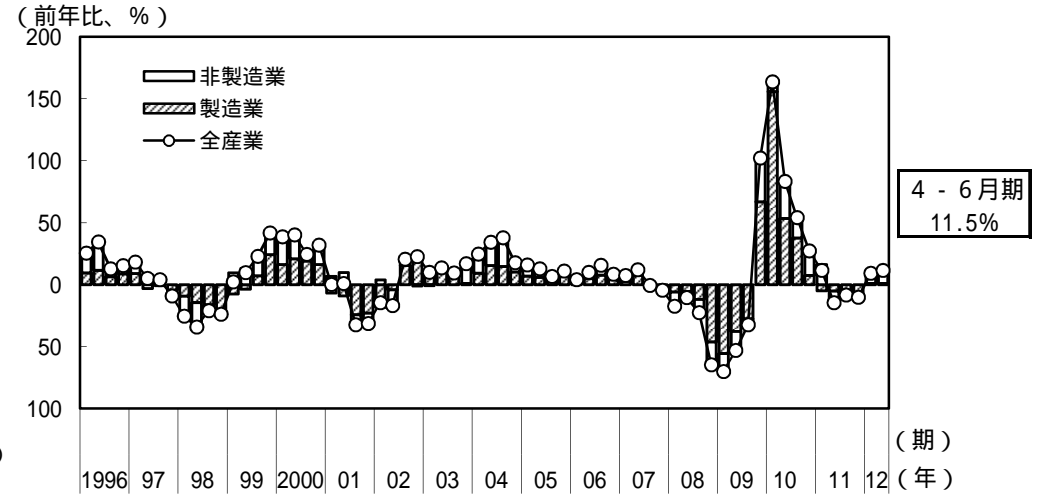
(備考) [D . I . = 「良い」とみる企業の割合(%) - 「悪い」とみる企業の割合(%)]

< 企業収益 >
経常利益額の推移



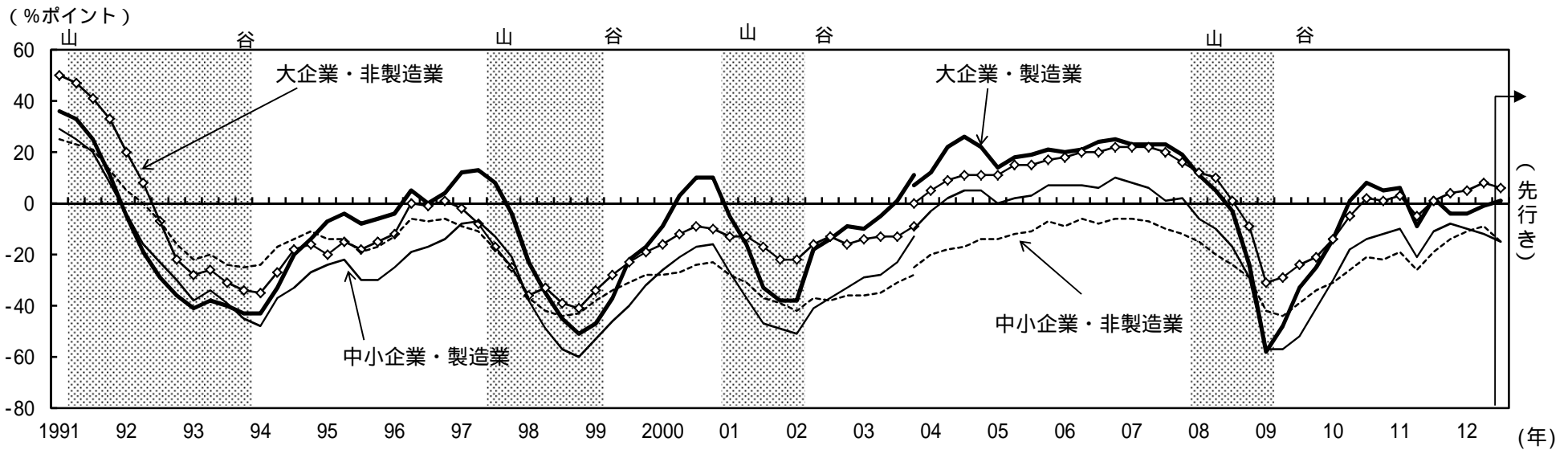
- (備考) 1. 財務省「法人企業統計季報」により作成。
2. 実線は後方3期移動平均。
3. シャドー部は景気後退期。

製造業・非製造業別前年比

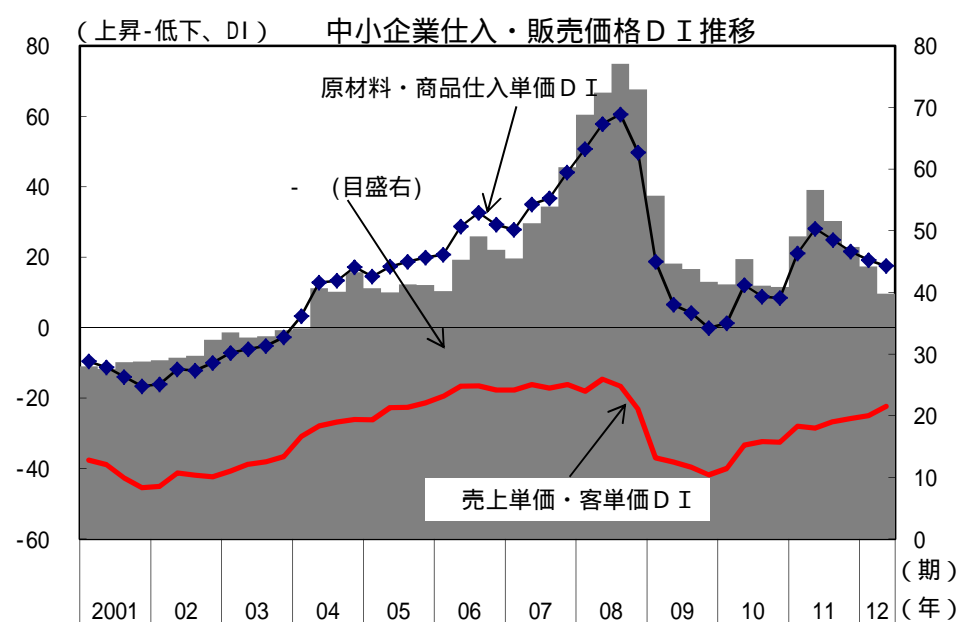
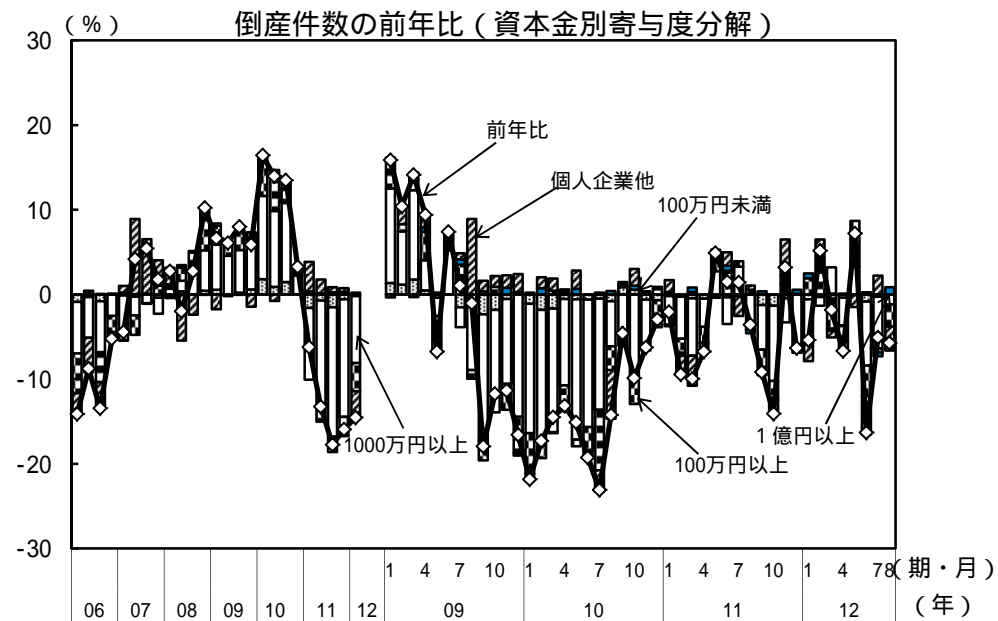
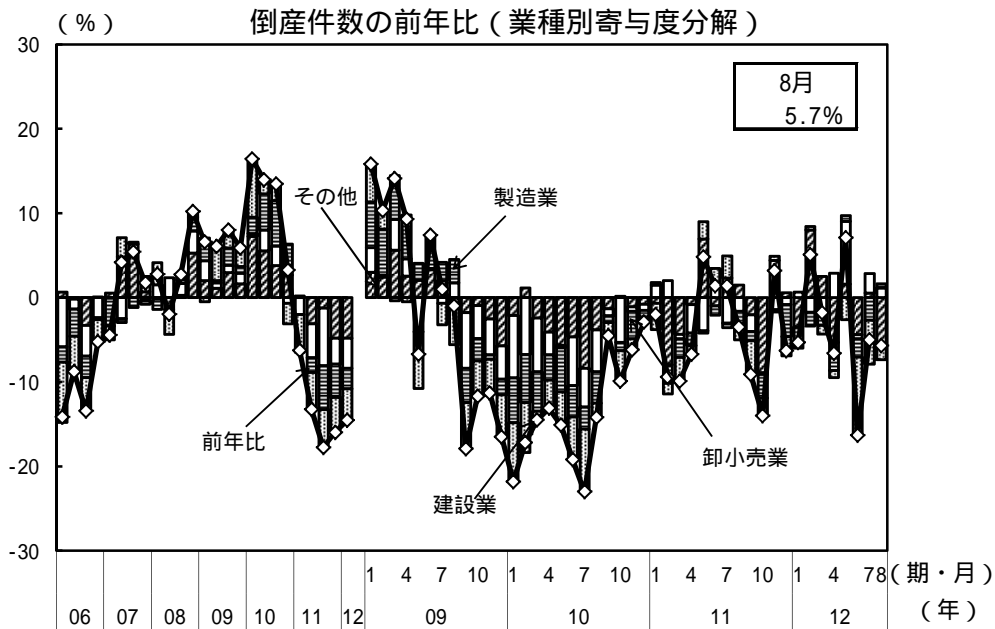


- (備考) 財務省「法人企業統計季報」により作成。

< 企業の景況感 >
日銀短観の業況判断D Iの推移



- (備考) 1. 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」により作成。D.I.は「良い」-「悪い」。
2. シャドー部は景気後退期。
3. 2004年3月調査より調査方法が変更されている。



9. 雇用情勢

雇用情勢は、依然として厳しさが残るものの、改善の動きがみられる。

(前年度比、前年同期(月)比、[]内は暦年前年比、()内は季調済み前期(月)比、%)

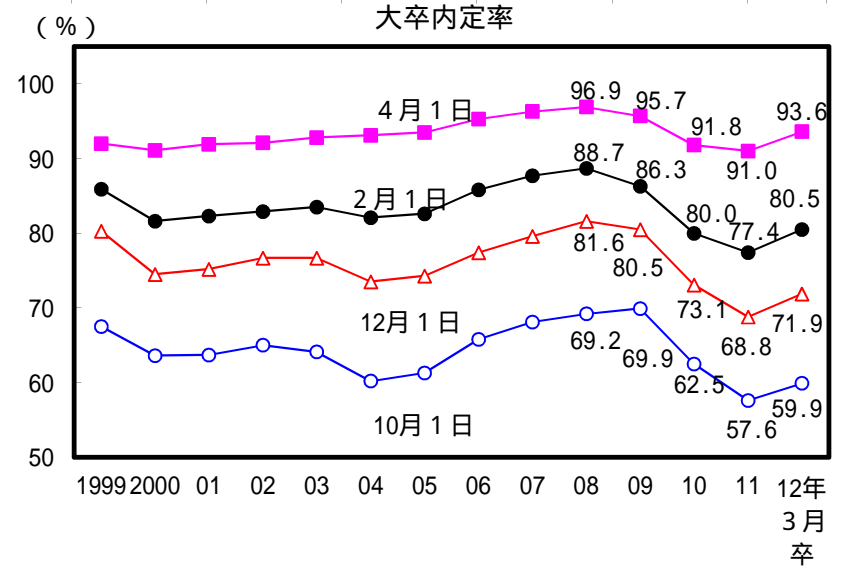
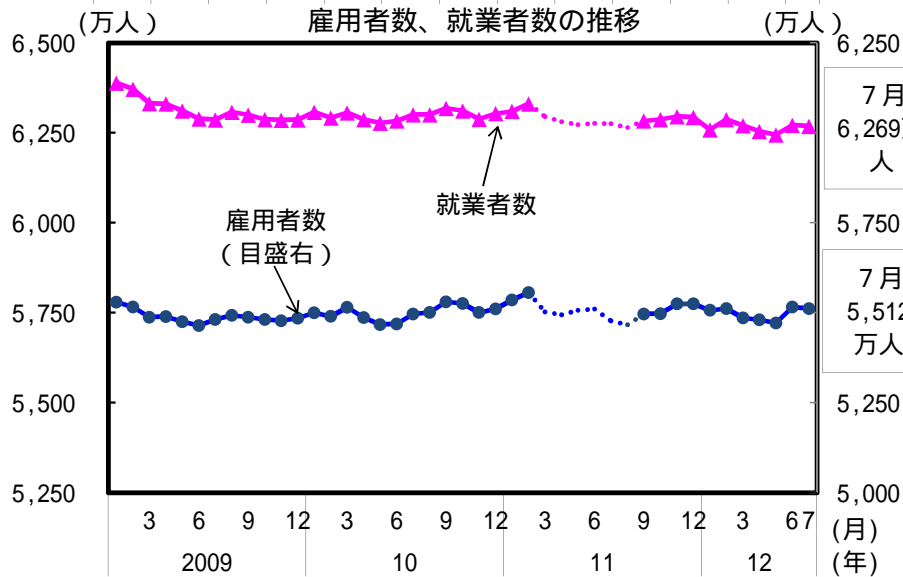
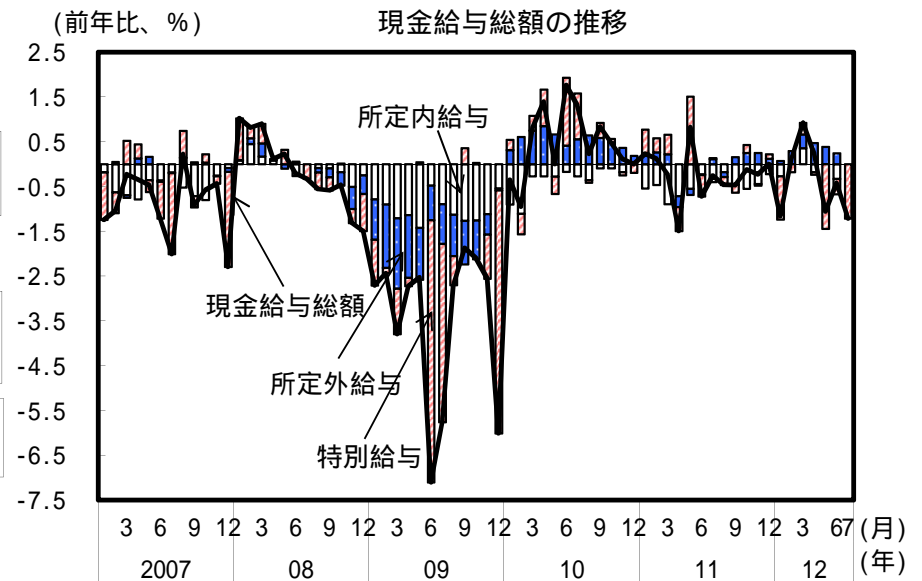
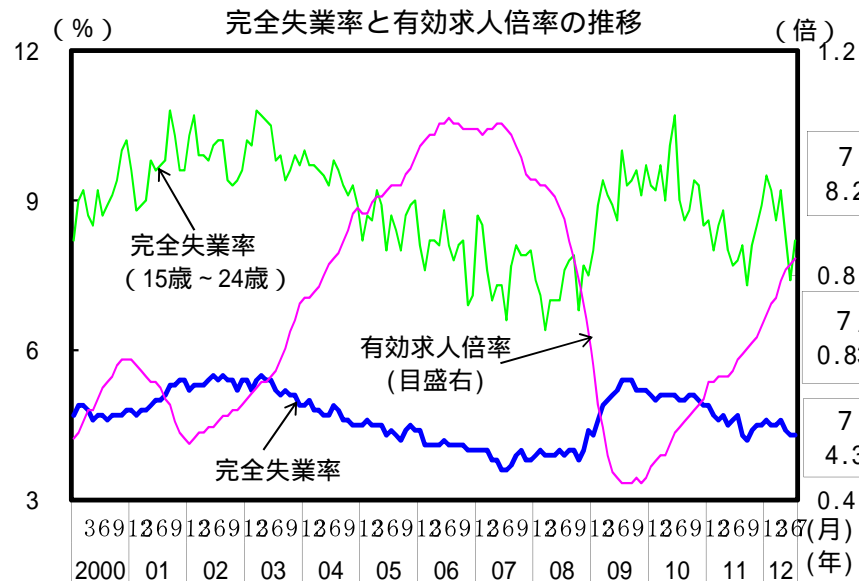
	[2010年] 2010年度	[2011年] 2011年度	2011年10-12月	2012年1-3月	2012年4-6月	2012年5月	2012年6月	2012年7月
完全失業率 (%)	[5.1] 5.0	[4.6] 4.5	(4.5)	(4.5)	(4.4)	(4.4)	(4.3)	(4.3)
うち15～24歳	[9.4]	[8.2]	(8.5)	(9.1)	(8.3)	(8.3)	(7.4)	(8.2)
うち25～34歳	[6.2]	[5.8]	(5.5)	(5.7)	(5.7)	(5.8)	(5.3)	(5.2)
完全失業者数総数 (万人)	[334]	[300]	(292)	(300)	(290)	(289)	(281)	(282)
うち非自発的な離職による者	[137]	[113]	(109)	(105)	(104)	(103)	(103)	(98)
雇用者数	[0.1]	[0.2]	- 0.1	- 0.5	- 0.3	(0.2) 0.7	(0.8) 0.1	(0.1) 0.6
常用労働者数 (労働者計)	[0.4] 0.5	[0.7] 0.6	(0.2) 0.6	(0.2) 0.6	(0.2) 0.9	(0.2) 0.9	(0.2) 0.9	(P)(0.2) (P) 0.6
新規求人数	[9.3] 15.0	[14.7] 14.1	(2.8) 13.4	(2.5) 14.7	(5.9) 16.7	(3.0) 24.5	(2.1) 12.1	(0.6) 12.8
有効求人数	[7.2] 17.4	[19.3] 17.5	(3.4) 16.8	(4.4) 16.5	(6.7) 20.7	(2.4) 23.6	(1.3) 19.5	(0.5) 19.2
有効求人倍率 (倍)	[0.52] 0.56	[0.65] 0.68	(0.69)	(0.75)	(0.81)	(0.81)	(0.82)	(0.83)
求人広告掲載件数	[10.4] 15.1	[21.7] 24.3	25.9	27.0	34.7	34.4	21.7	28.6
所定外労働時間 (残業時間等)	[10.1] 7.9	[1.0] 0.8	(1.4) 2.0	(1.0) 1.8	(0.0) 4.0	(1.9) 5.6	(2.6) 1.2	(P)(2.2) (P) 0.8
製造業	[33.7] 22.7	[1.8] 1.7	(1.5) 3.9	(6.3) 5.0	(0.7) 11.8	(3.1) 12.8	(0.3) 6.1	(P)(3.8) (P) 1.4
現金給与総額 (1人当たり・名目)	[0.5] 0.5	[0.2] 0.3	(0.9) 0.1	(1.4) 0.0	(0.9) 0.5	(0.3) 1.1	(1.8) 0.4	(P)(0.4) (P) 1.2
定期給与(名目)	[0.3] 0.2	[0.4] 0.3	(0.0) 0.2	(0.2) 0.3	(0.1) 0.2	(0.1) 0.4	(0.3) 0.1	(P)(0.1) (P) 0.0

(備考) 1. 常用労働者数、現金給与総額、定期給与及び所定外労働時間は事業所規模5人以上。

2. 求人広告掲載件数は(社)全国求人情報協会資料により作成。なお、前年比の試算にあたっては報告社数の変更を反映した。

3. 定期給与とは、きまって支給する給与のことであり、所定内給与と所定外給与の合計。

4. 斜体は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の値。また、下線を施した箇所は補完推計値による。



(備考) 1. 総務省「労働力調査」、厚生労働省「職業安定業務統計」により作成。季節調整値。
 2. 厚生労働省「毎月勤労統計調査」(2012年3月は速報値)、厚生労働省・文部科学省「大学等卒業者の就職状況調査」により作成。
 3. 総務省「労働力調査」の2011年3～8月は、岩手県、宮城県及び福島県を補完した全国の推計値。

10. 物価

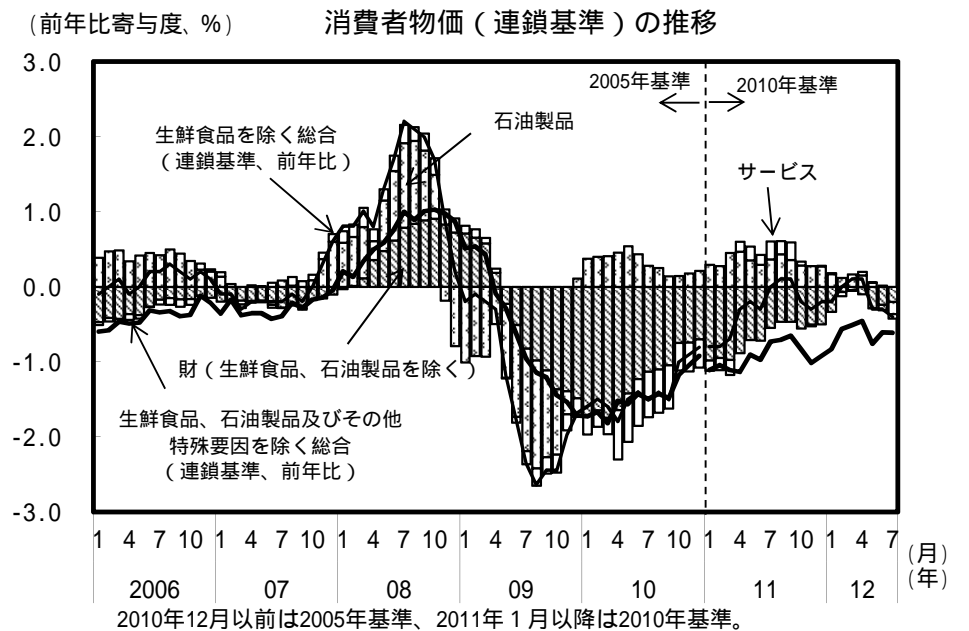
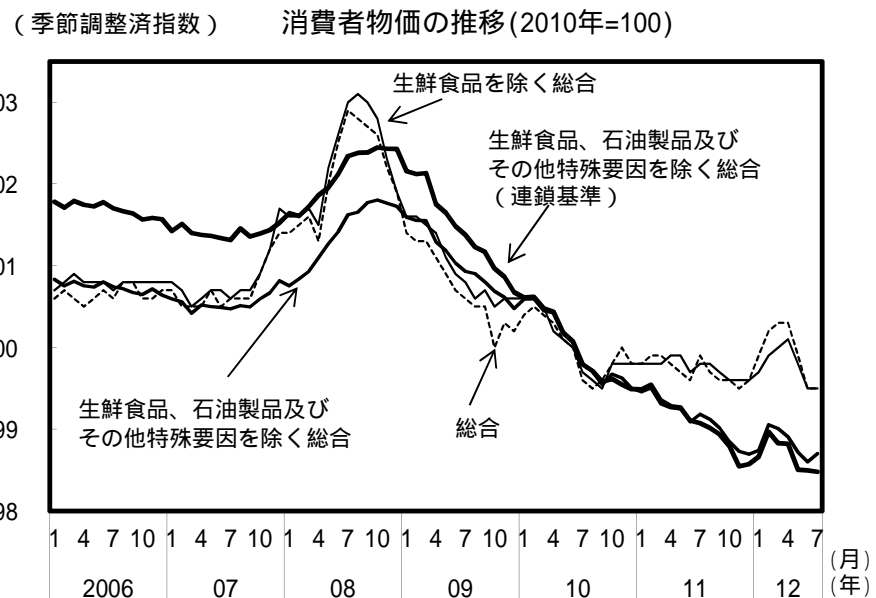
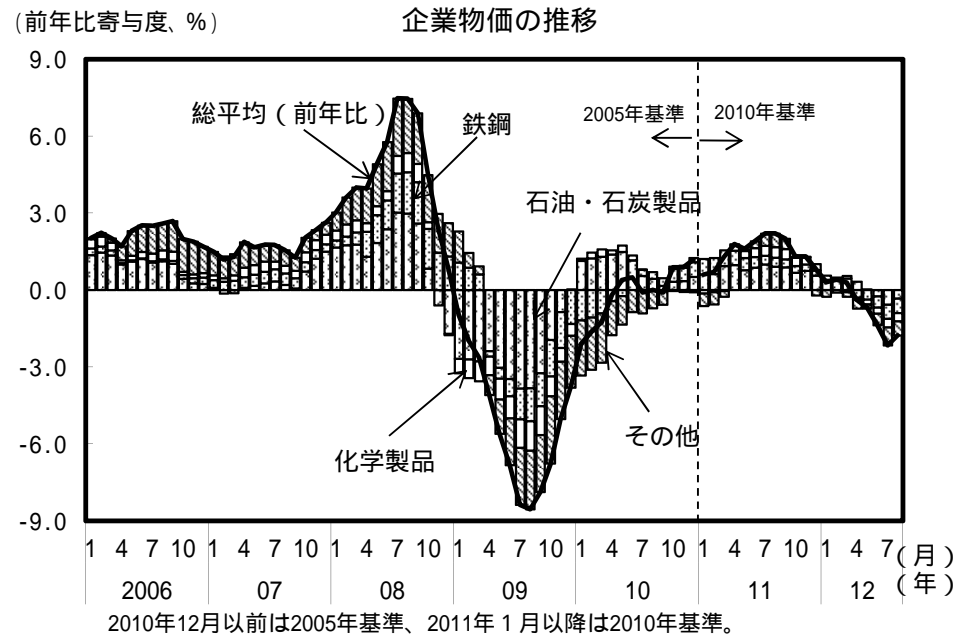
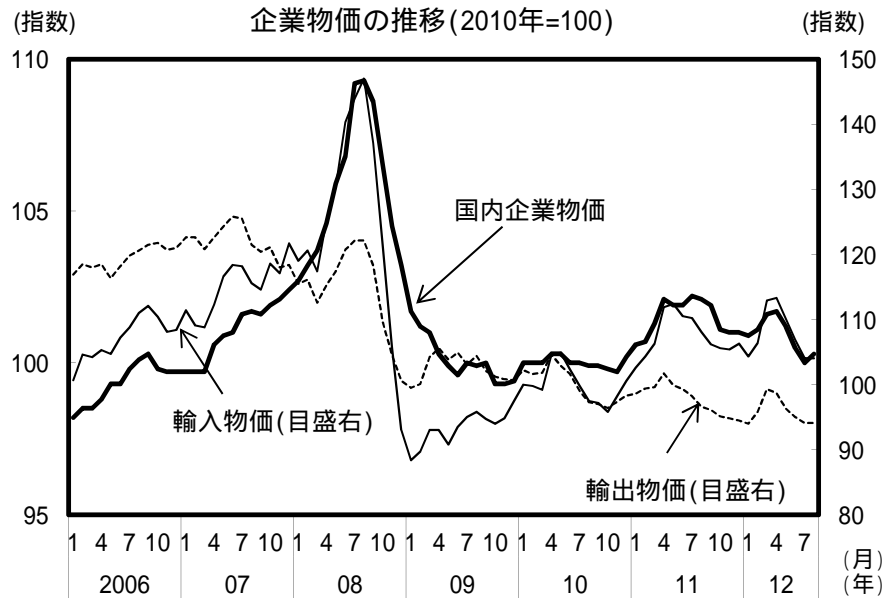
国内企業物価は、このところ下落テンポが鈍化している。消費者物価は、このところわずかながら下落している。

(前年度比、前年同期(月)比、[]内は暦年前年比、()内は前期(月)比、< >内は季節調整済前期(月)比、%)

		[2010年] 2010年度	[2011年] 2011年度	2012年 1 - 3 月	4 - 6 月	2012年 6 月	7 月	8 月		
国内企業物価		[0.1] 0.7	[1.5] 1.4	(0.2) 0.3	(0.1) 0.9	(0.7) 1.4	(0.5) 2.2	P (0.3) P 1.8		
	夏季電力料金調整後	[0.1] 0.7	[1.5] 1.3	(0.2) 0.3	(0.1) 0.9	(0.7) 1.4	(0.7) 2.2	P (0.2) P 1.9		
輸入物価		[7.0] 6.8	[7.5] 7.1	(2.0) 3.4	(2.0) 1.3	(2.9) 3.3	(2.7) 5.6	P (0.0) P 3.8		
	契約通貨入	[13.2] 14.4	[15.2] 13.6	(0.2) 6.4	(1.3) 0.3	(2.5) 1.9	(2.4) 4.9	P (0.4) P 4.8		
企業向けサービス価格		[1.3] 1.3	[0.7] 0.5	(0.3) 0.4	(0.3) 0.0	(0.2) 0.4	P (0.1) P 0.2			
	国際運輸を除くベース	[1.5] 1.4	[0.7] 0.5	< 0.3 > 0.5	< 0.5 > 0.1	< 0.4 > 0.1	P < 0.2 > P 0.0			
消費者物価	総合	固定基準	[0.7] 0.4	[0.3] 0.1	< 0.6 > 0.3	< 0.2 > 0.2	< 0.4 > 0.2	< 0.0 > 0.4	< 0.1 > 0.8	< 0.1 > 0.7
		連鎖基準	[1.0] 0.8	[0.3] 0.0	< 0.3 > 0.1	< 0.1 > 0.0	< 0.3 > 0.2	< 0.0 > 0.3	< 0.0 > 0.6	< 0.1 > 0.5
	生鮮食品を除く総合	固定基準	[1.3] -	[0.3] -	-	-	< 0.2 > 0.3	< 0.1 > 0.4		
		連鎖基準	[1.0] 0.8	[0.9] 0.7	< 0.2 > 0.5	< 0.2 > 0.5	< 0.1 > 0.5	< 0.1 > 0.5		
	生鮮食品、石油製品及びその他特殊要因を除く総合	固定基準	[1.4] -	[0.8] -	-	-	< 0.0 > 0.6	< 0.0 > 0.6		
		連鎖基準	[1.4] -	[0.8] -	-	-	< 0.0 > 0.6	< 0.0 > 0.6		

消費者物価
(東京都区部)
7月 8月(P)

- (備考) 1. 企業向けサービス価格は2005年基準。消費者物価及び企業物価の2011年(度)、四半期及び月次は2010年基準、2010年(度)は2005年基準。Pは速報値。
2. 企業向けサービス価格の「国際運輸を除くベース」は、国際航空旅客輸送、定期船、不定期船、外航タンカー、外航貨物用船料、国際航空貨物輸送、国際郵便を除いたもの。
3. 消費者物価の「生鮮食品、石油製品及びその他特殊要因を除く総合」は、「生鮮食品を除く総合」から、石油製品、電気代、都市ガス代、米類、切り花、鶏卵、固定電話通話料、診療代、介護料、たばこ、公立高校授業料、私立高校授業料を除いたもの。
4. 企業向けサービス価格の「国際運輸を除くベース」の季節調整済前月比、消費者物価の「生鮮食品を除く総合(連鎖基準)」の季節調整済前月比及び「生鮮食品、石油製品及びその他特殊要因を除く総合」は、内閣府試算値。



11. 金融

株価（日経平均株価）は、8,600円台から9,000円台のレンジで推移している。
対米ドル円レートは、おおむね78円台で推移している。

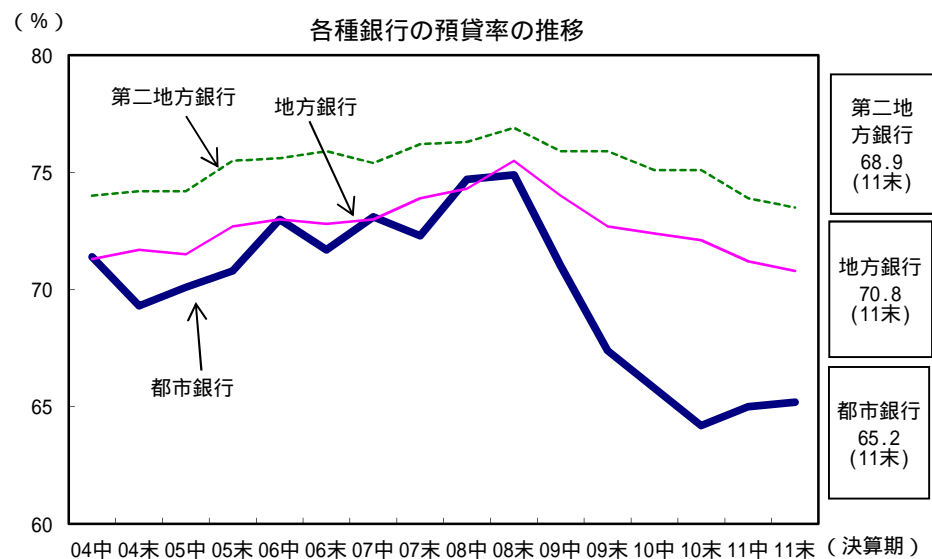
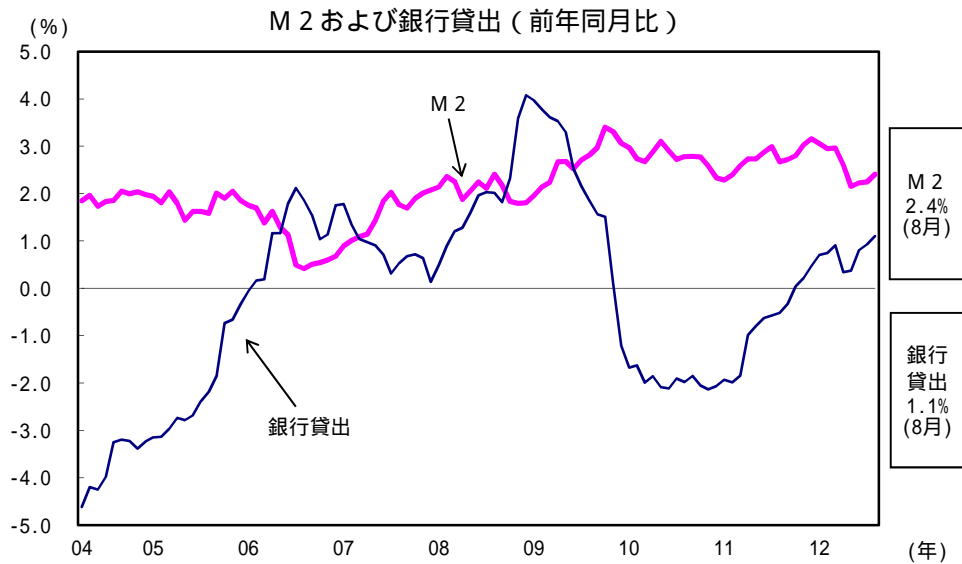
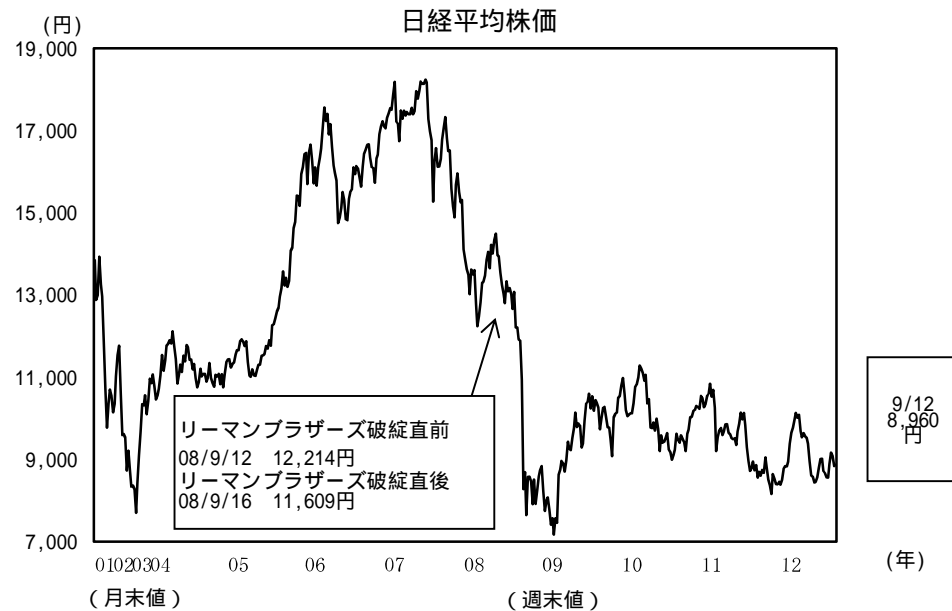
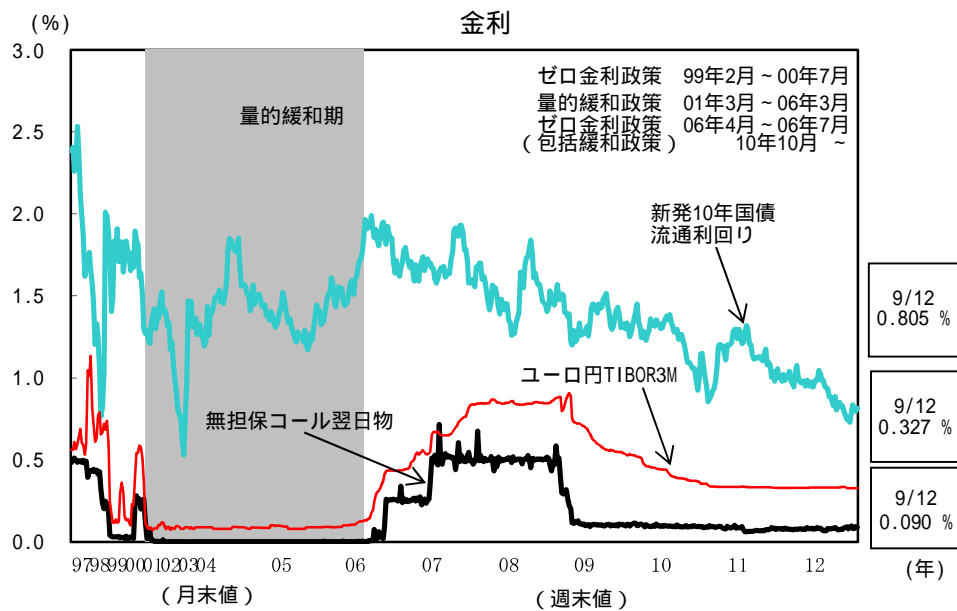
(%、ポイント、円)

	2010年	2011年	2010年度	2011年度	2011年	2012年		2012年			
					10 - 12月	1 - 3月	4 - 6月	6月	7月	8月	
コールレート (無担保翌日物)	0.093	0.078	0.091	0.077	0.079	0.083	0.078	0.076	0.084	0.086	9/12 0.090
ユーロ円TIBOR (3カ月物)	0.386	0.332	0.359	0.331	0.329	0.331	0.332	0.333	0.331	0.327	9/12 0.327
国債流通利回り	1.172	1.115	1.150	1.049	1.000	0.979	0.879	0.835	0.771	0.800	9/12 0.805
東証株価指数(TOPIX)	885	821	884	792	738	800	764	733	746	749	9/12 742
日経平均株価(円)	10,006	9,425	9,951	9,183	8,581	9,295	9,026	8,638	8,761	8,950	8,960
円相場 (対米ドル)	87.75	79.76	85.71	79.05	77.40	79.36	80.15	79.32	79.02	78.66	9/12 77.88
円相場 (対ユーロ)	116.28	111.06	113.14	108.96	104.25	104.16	102.75	99.39	97.15	97.53	100.15
日銀当座預金残高 (億円、前年比)	169,341 28.9	302,315 78.5	194,402 41.8	313,169 61.1	334,032 77.9	295,531 17.2	352,313 12.1	396,740 25.0	357,360 19.5		
マネタリーベース	4.8	15.2	6.4	14.9	(12.1) 16.6	(5.8) 8.4	(10.6) 2.6	(55.8) 5.9	(32.4) 8.6	(14.7) 6.5	
マネーストック (M2)	2.8	2.7	2.7	2.9	(3.2) 3.0	(2.3) 3.0	(1.1) 2.3	(3.9) 2.2	(r3.3) 2.2	(3.3) 2.4	
マネーストック (広義流動性)	1.1	0.0	0.6	0.2	(0.4) 0.1	(0.6) 0.3	(r0.0) 0.2	(r0.5) r0.0	(r0.6) r0.0	(3.2) 0.3	
銀行貸出	1.9	0.7	2.0	0.1	0.2	0.8	0.5	0.8 0.9	r0.9 1.0	1.1 1.2	
普通社債発行額(億円)	114,440	103,395	119,723	104,712	25,700	27,182	23,576	8,676	8,892	4,650	

金融市場調節方針の変更

無担保コールレート(オーバーナイト物)を、0~0.1%程度で推移するよう促す。(2010年10月5日)

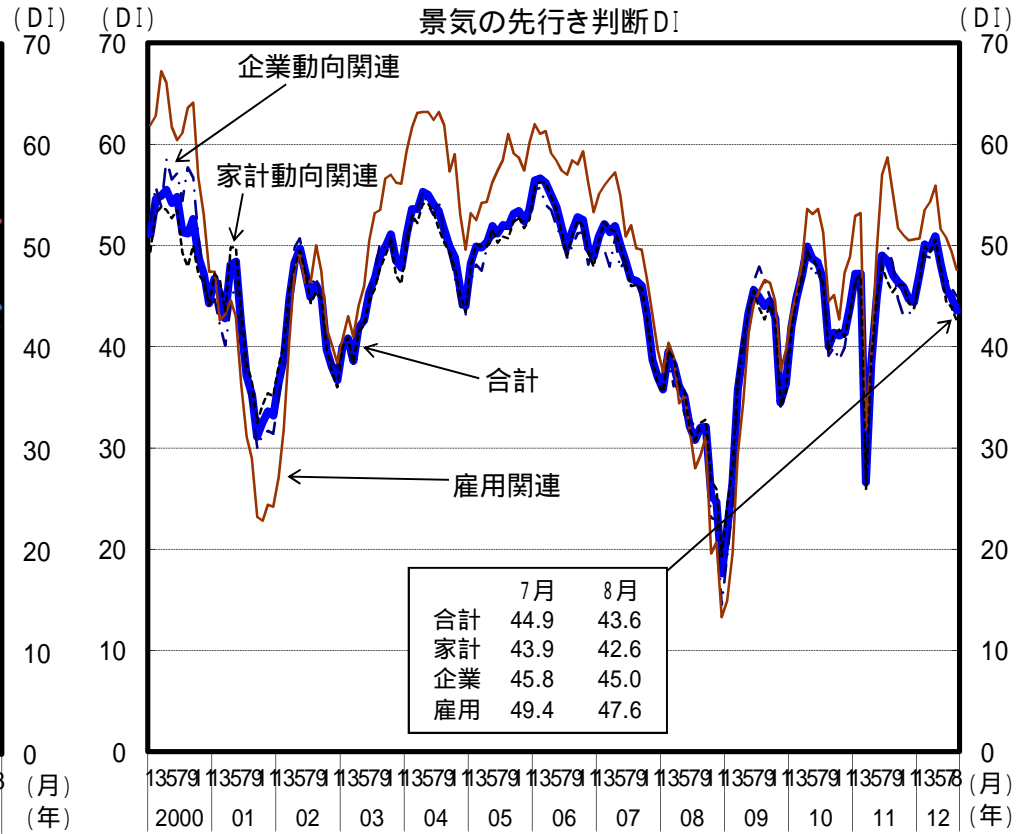
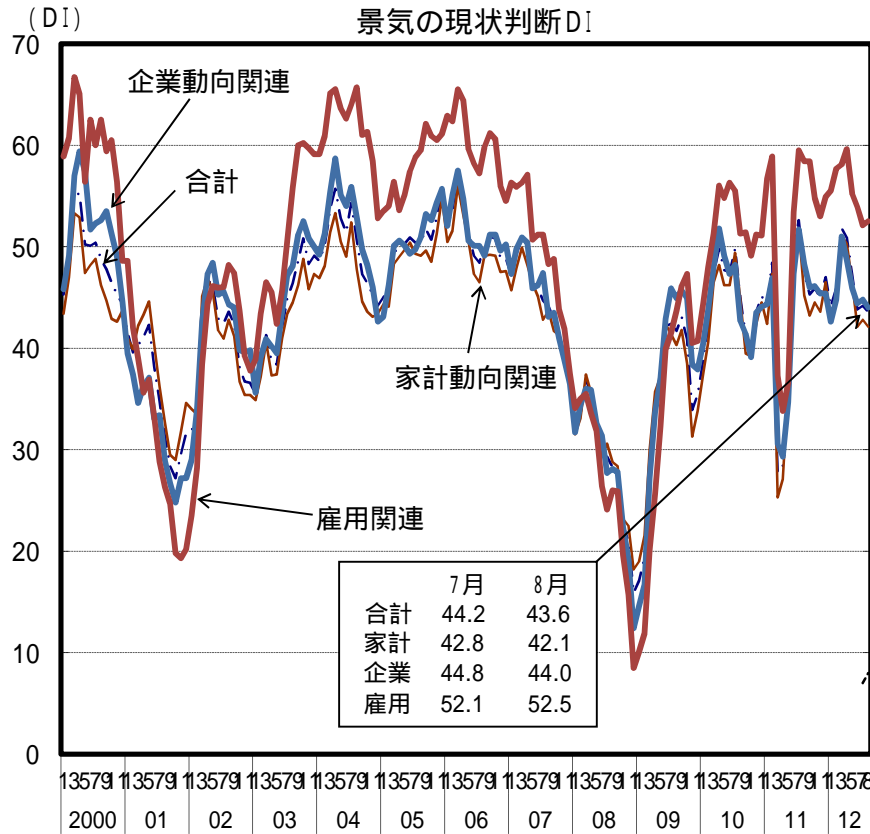
- (備考) 1. コールレート、ユーロ円TIBOR、国債利回り、株価、円相場の年・年度・四半期・月次は、ともに平均値。
2. 国債流通利回りは、新発10年国債流通利回り。
3. 円相場(対米ドル)はインターバンク直物中心相場、円相場(対ユーロ)はインターバンク直物17:00時点。
4. マネー指標のrは、数値改訂を示す。また、前年同期(月)比、()内は季調済前期比年率。月中平均残高ベース。
5. 銀行貸出は、銀行(都市銀行等、地方銀行、第二地方銀行)合計の月中平均残高の前年同期(月)比。
下段は貸出債権流動化・償却要因等を調整した後の計数。
6. 普通社債発行額は国内発行分であり、円建て外債及び資産担保型社債を含む。



(備考) 全国銀行協会「全国銀行決算発表」より作成。

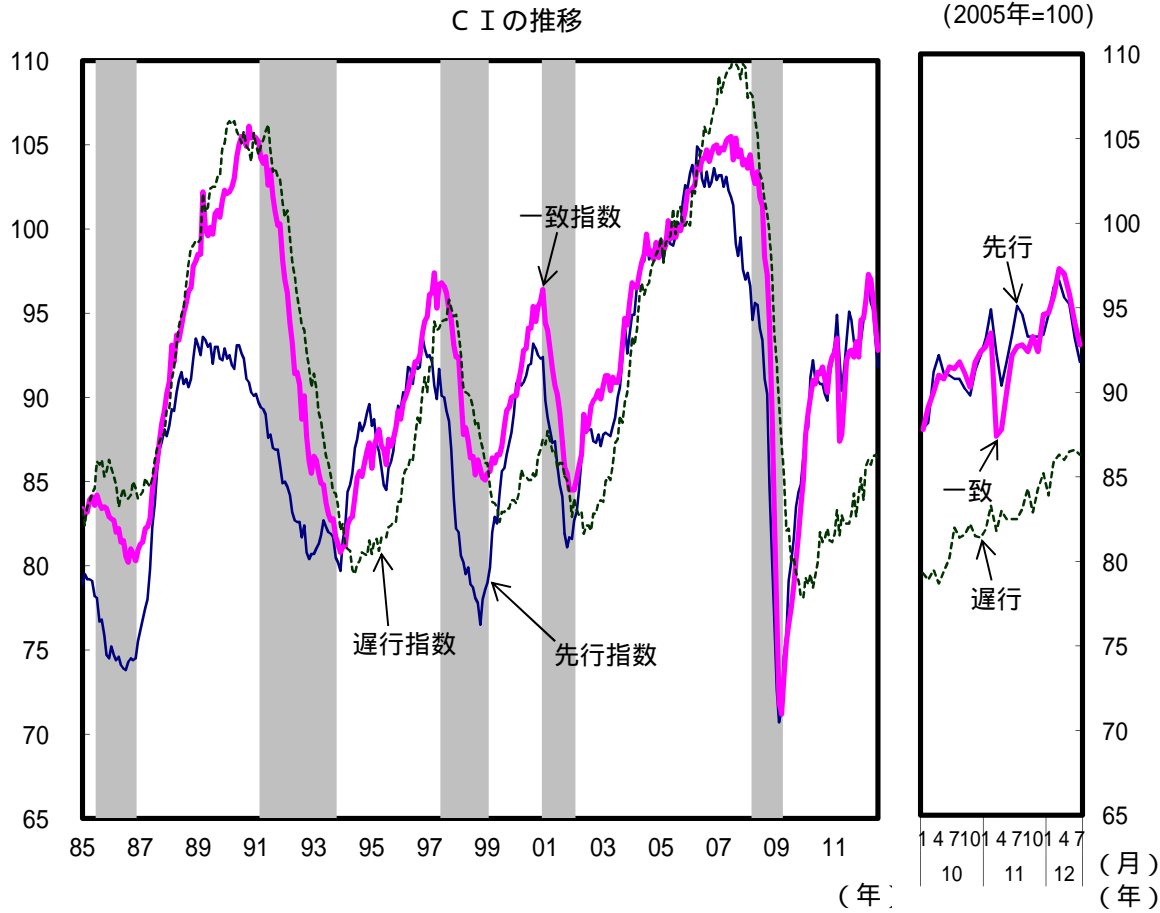
$$\text{預貸率} = \frac{\text{貸出金}}{\text{預金} + \text{譲渡性預金} + \text{債券}} \times 100$$

12. 景気ウォッチャー調査



- (備考) 1. 現状判断DIは、景気ウォッチャーによる3か月前と比較しての景気の良し悪しの評価であり、先行き判断DIは、景気ウォッチャーによる2～3か月前の景気の良し悪しの予測である。
2. DIは、50が景気が横ばいであることを示す。
3. 調査対象は2000年1～9月は600人(一部地域のみ)、2000年10月～2001年7月は1,500人(全国)、2001年8月以降は2,050人(全国)。

(参考1) 景気動向指数



(備考) 内閣府「景気動向指数」により作成。景気基準日付は内閣府による。ただし、「神武(景気)」「岩戸(景気)」等は景気拡張期の通称であり、公式のものではない。グラフのシャドー部分は景気後退期を示す。

一致指数採用系列の寄与度

	12年4月	5月	6月	7月
一致指数	97.0	95.8	94.1	92.8
生産指数(鉱工業)	-0.02	-0.37	0.02	-0.12
鉱工業生産財出荷指数	-0.10	-0.30	-0.06	-0.30
大口電力使用量	-0.03	-0.53	-0.30	-0.13
耐久消費財出荷指数	0.16	-0.24	-0.36	-0.05
寄与度 所定外労働時間指数(調査産業)	-0.22	0.13	-0.21	-0.39
投資財出荷指数(除輸送機械)	-0.03	0.18	-0.18	-0.10
商業販売額(小売業、前年比)	-0.37	-0.17	-0.27	-0.08
商業販売額(卸売業、前年比)	-0.02	0.10	-0.33	-0.01
営業利益(全産業)	-0.05	-0.05	-0.05	-0.05
中小企業出荷指数(製造業)	0.03	-0.22	-0.07	-0.18
有効求人倍率(除学卒)	0.35	0.24	0.14	0.13

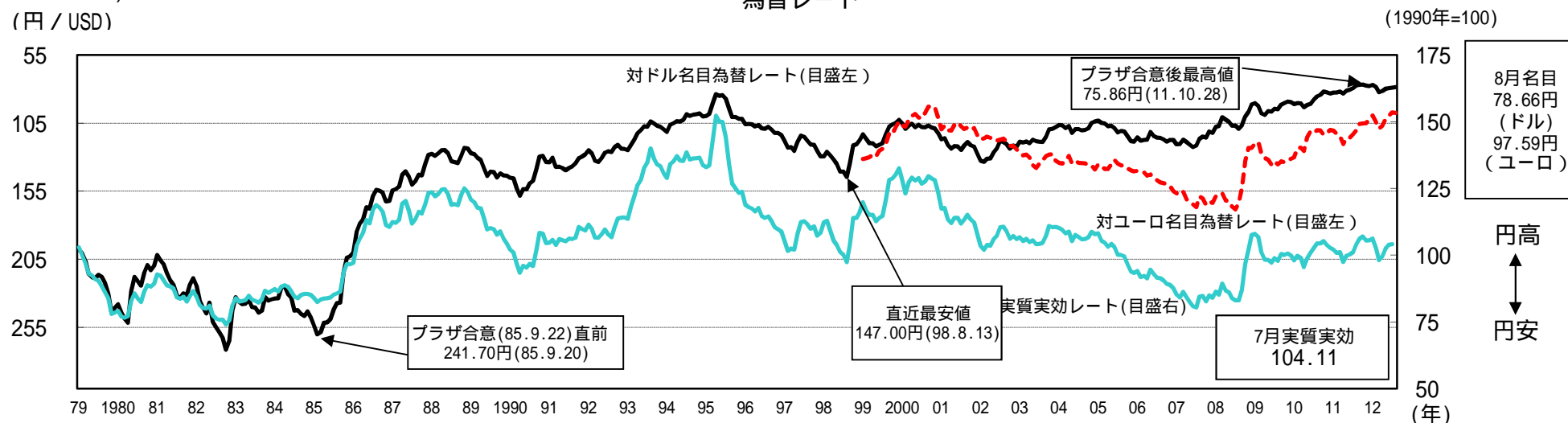
景気基準日付

循環	谷(年/月)	拡張(ヶ月)	山(年/月)	後退(ヶ月)
1			1951/6	4
2	51/10	27	54/1	10
3	54/11	31(神武)	57/6	12
4	58/6	42(岩戸)	61/12	10
5	62/10	24	64/10	12
6	65/10	57(いざなぎ)	70/7	17
7	71/12	23	73/11	16
8	75/3	22	77/1	9
9	77/10	28	80/2	36
10	83/2	28	85/6	17
11	86/11	51(バブル)	91/2	32
12	93/10	43	97/5	20
13	99/1	22	2000/11	14
14	02/1	73	08/2	13
15	09/3			
平均		36		16

(参考2) 為替レート・株式相場の推移

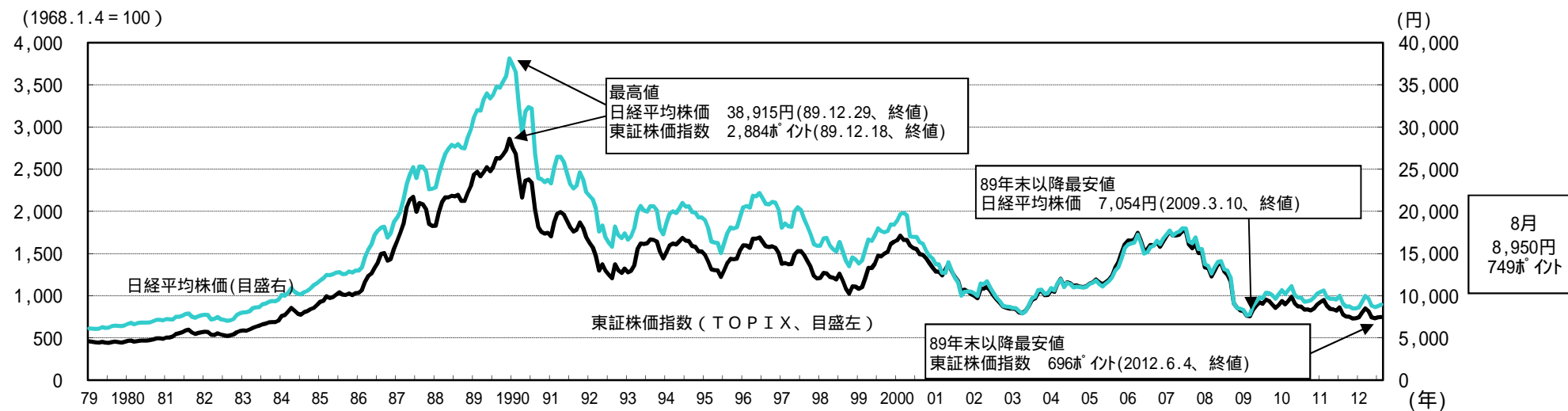
(円 / EURO)
(円 / USD)

為替レート



(備考) 対ドル名目為替レートはインターバンク直物中心相場(月中平均)、実質実効為替レートは日本銀行試算値より作成。
対ユーロ名目為替レートは直物(月中平均)、Bloombergより作成。

株式相場



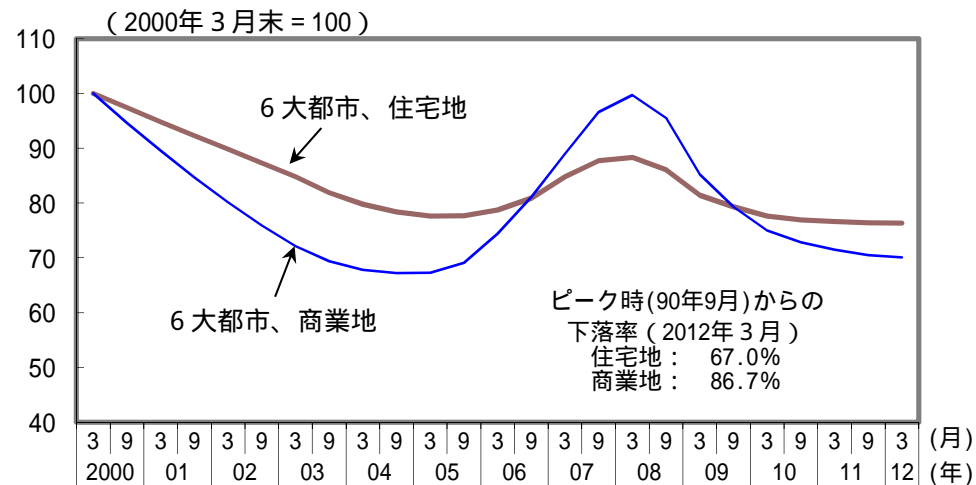
(備考) 1. 日経平均株価、東証株価指数ともに月中平均。
2. 東証株価指数は、1968年1月4日時点をもととして算出。

(参考3) 地価・住宅価格の推移

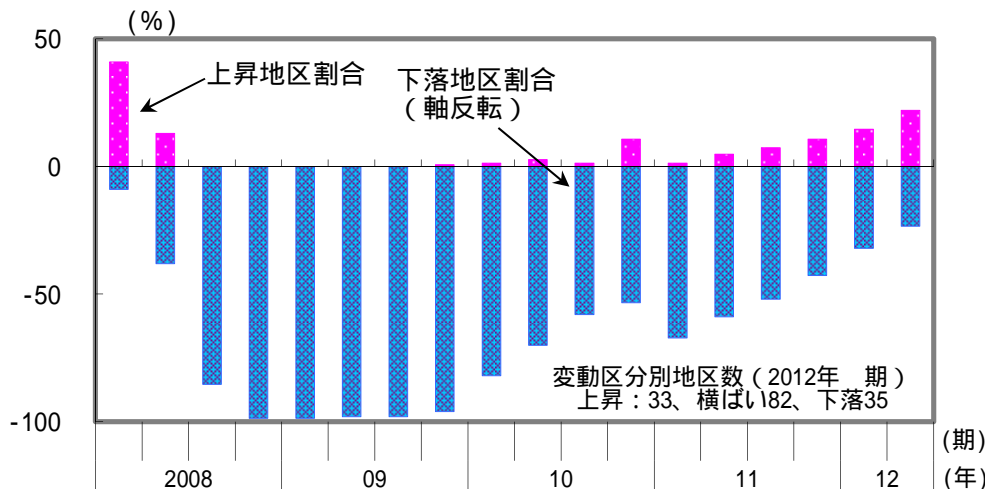
地価公示 (各年1月1日時点)

変動率 (全国平均)	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
全用途平均	1.7	3.5	4.6	3.0	2.6
住宅地	1.3	3.2	4.2	2.7	2.3
商業地	3.8	4.7	6.1	3.8	3.1
工業地	0.5	3.0	4.2	3.2	3.2

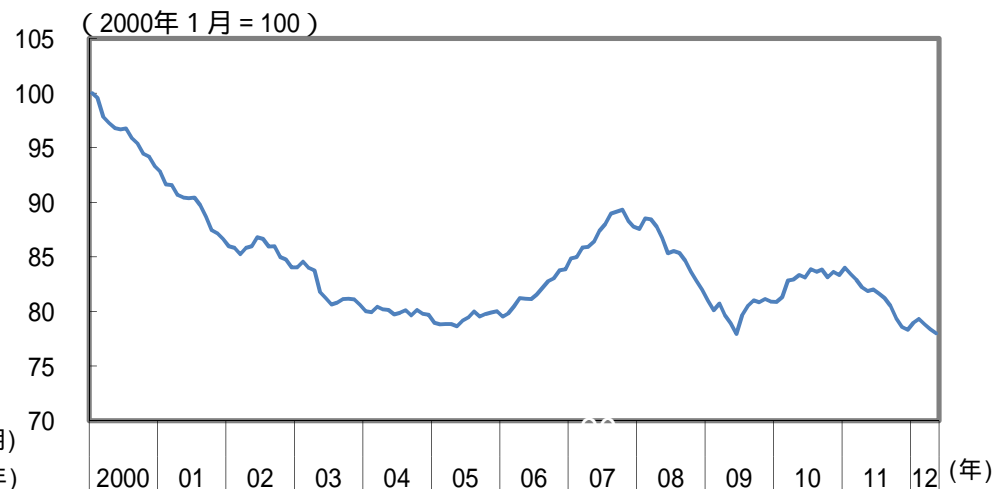
市街地価格指数



主要都市の高度利用地地価



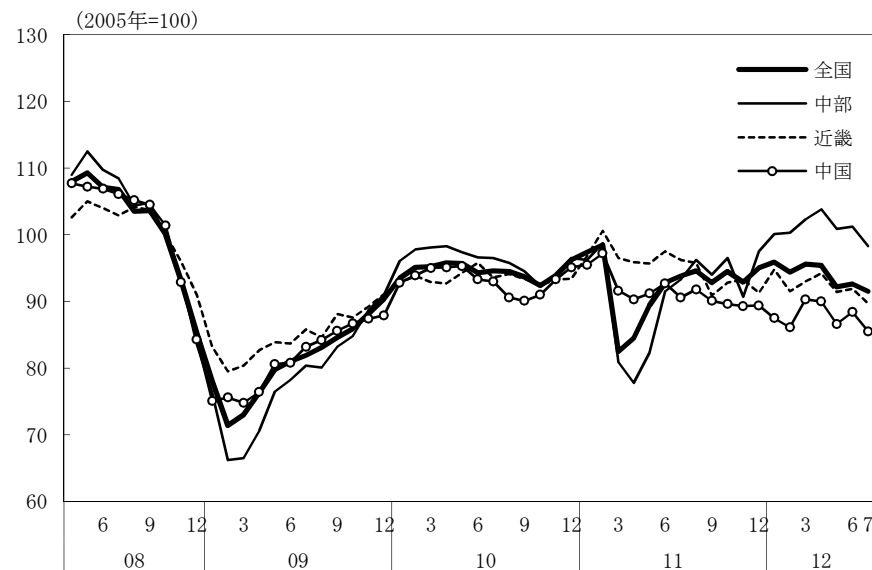
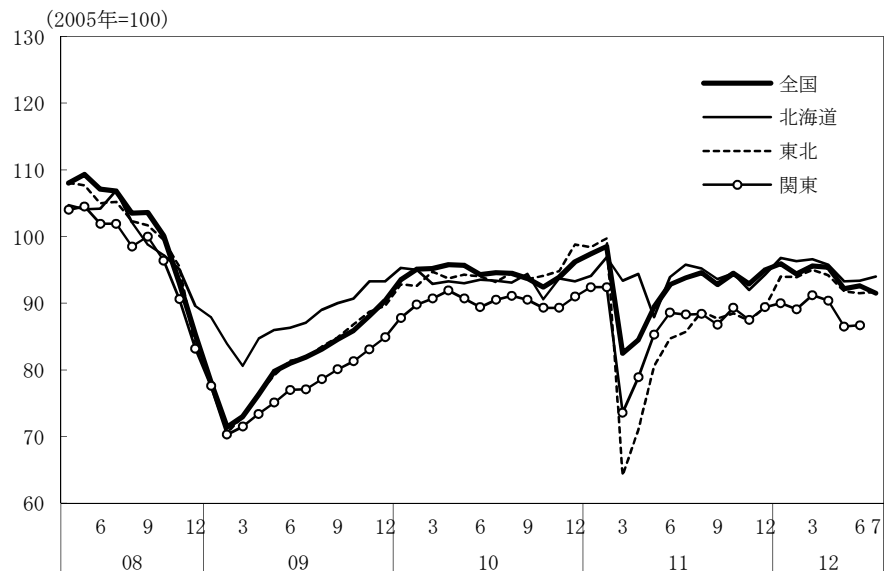
東証住宅価格指数 (既存マンション・首都圏総合)



- (備考) 1. 国土交通省「平成24年地価公示」「主要都市の高度利用地地価動向報告～地価LOOKレポート～」、
(財)日本不動産研究所「市街地価格指数」、(株)東京証券取引所「東証住宅価格指数」により作成。
2. 6大都市とは、東京都区部、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸。市街地価格指数(6大都市)のピークは1990年9月。
3. 四半期は、期: 1/1～4/1、期: 4/1～7/1、期: 7/1～10/1、期: 10/1～1/1。

(参考4) 地域経済

(1) 鉱工業生産

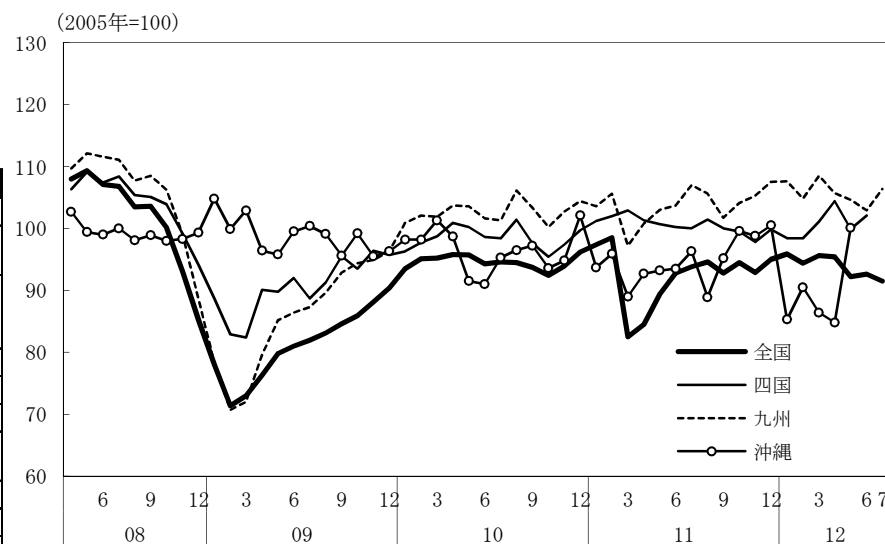


(備考)

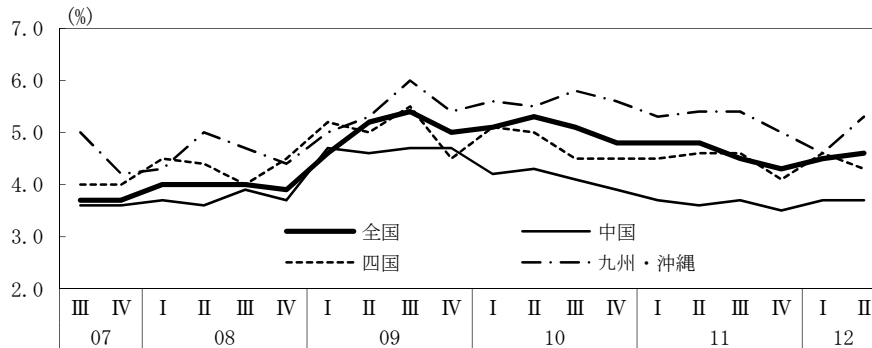
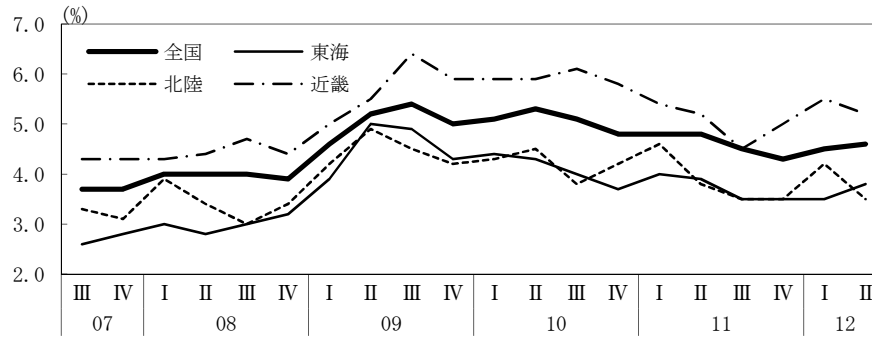
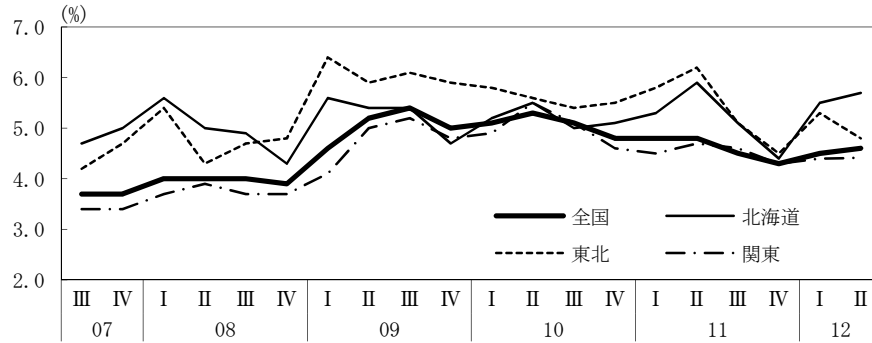
1. 経済産業省「鉱工業指数」、各経済産業局「管内経済動向」等、沖縄県「鉱工業生産動向」により作成。
2. 季節調整済指数
3. 地域区分は下記「地域区分B」による。

(参考) 地域区分

	地域区分A	地域区分B	地域区分C
北海道	北海道	北海道	北海道
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
関東	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野	新潟、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野、静岡	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野
中部	-	富山、石川、岐阜、愛知、三重	-
東海	静岡、岐阜、愛知、三重	-	静岡、岐阜、愛知、三重
北陸	富山、石川、福井	-	新潟、富山、石川、福井
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	鳥取、島根、岡山、広島、山口	鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国	徳島、香川、愛媛、高知	徳島、香川、愛媛、高知	徳島、香川、愛媛、高知
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島
沖縄	沖縄	沖縄	沖縄

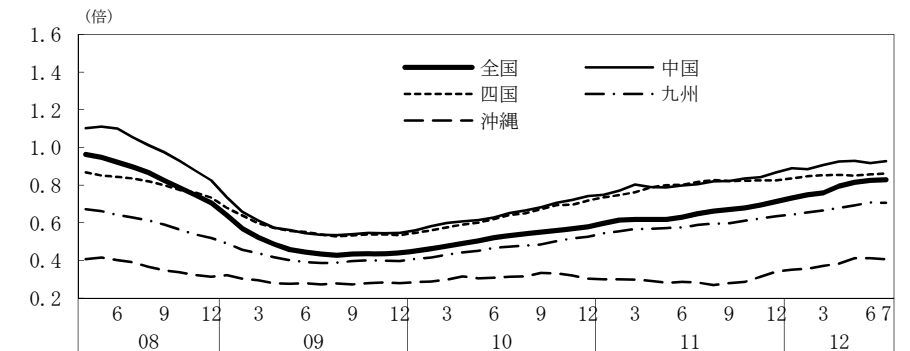
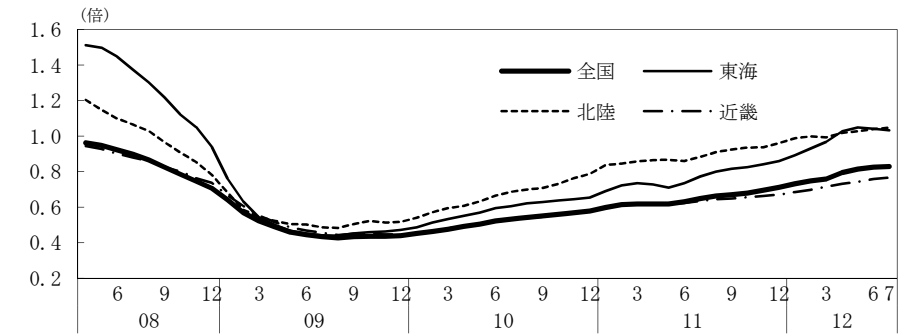
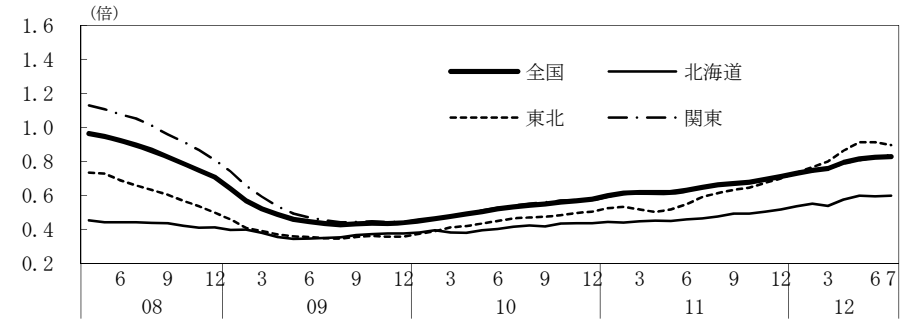


(2) 完全失業率



- (備考) 1. 総務省「労働力調査」により作成。
 2. 地域区分は前頁「地域区分C」による。
 3. データは原数値。

(3) 有効求人倍率



- (備考) 1. 厚生労働省「一般職業紹介状況」により作成。
 2. 地域区分は前頁「地域区分A」による。
 3. 季節調整済 (X-12-ARIMA)。
 4. すべての地域でパートタイムを含む。

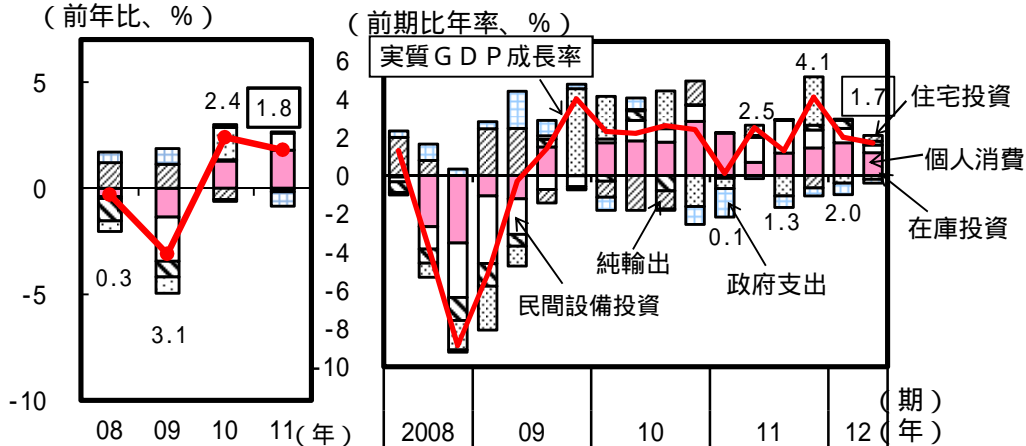
. 海外経済

		8月	9月
世界経済		<p>世界の景気は、減速の動きが広がっており、弱い回復となっている。</p> <p>先行きについては、弱い回復が続くと見込まれる。ただし、ヨーロッパ地域の一部の国々における財政の先行きに対する根強い不安を背景とした金融面への影響等により、景気が下振れするリスクがある。また、このところの一次産品価格の動向に留意する必要がある。</p>	<p>世界の景気は、減速の動きが広がっており、弱い回復となっている。</p> <p>先行きについては、<u>当面、弱い回復が続くものの、各種政策の効果が次第に発現することが期待される。</u>ただし、ヨーロッパ地域の一部の国々における財政の先行きに対する根強い不安を背景とした金融面への影響等により、景気が下振れするリスクがある。また、このところの一次産品価格の動向に留意する必要がある。</p>
アメリカ		<p>アメリカでは、<u>景気の回復テンポがさらに緩やかになっている。</u>先行きについては、<u>緩やかな回復傾向が続くと見込まれる。</u>ただし、雇用環境の改善の遅れや住宅価格の下落等により、景気が下振れするリスクがある。また、財政緊縮の影響に留意する必要がある。</p>	<p>アメリカでは、<u>景気は弱めの回復テンポが続いている。</u>先行きについては、<u>緩やかな回復傾向で推移すると見込まれる。</u>ただし、雇用環境や住宅市場の改善の遅れ等により、景気が下振れするリスクがある。また、財政緊縮の影響に留意する必要がある。</p>
アジア地域	中国	<p>中国では、<u>景気の拡大テンポがやや鈍化している。</u>先行きについては、<u>各種政策効果もあり、緩やかな拡大傾向となることが見込まれる。</u>ただし、輸出や不動産価格の動向に留意する必要がある。</p>	(変更なし)
	インド	<p>インドでは、<u>景気の拡大テンポは弱まっている。</u>先行きについては、<u>当面、低めの成長となることが見込まれる。</u>また、物価上昇によるリスクに留意する必要がある。</p>	(変更なし)
	その他アジア地域	<p>その他アジア地域では、<u>景気は足踏み状態となっている。</u>先行きについては、<u>当面、足踏み状態が続くと見込まれる。</u>また、輸出の動向に留意する必要がある。</p>	(変更なし)
ヨーロッパ地域		<p>ヨーロッパ地域では、<u>景気はこのところ弱含んでいる。</u>ドイツではこのところ持ち直しの動きが緩やかになっている。</p> <p>先行きについては、<u>弱い動きとなることが懸念される。</u>また、一部の国々における財政の先行きに対する根強い不安を背景とした金融面への影響により、景気が低迷するリスクがある。さらに、各国の財政緊縮による影響や、高い失業率が継続すること等に留意する必要がある。</p>	(変更なし)

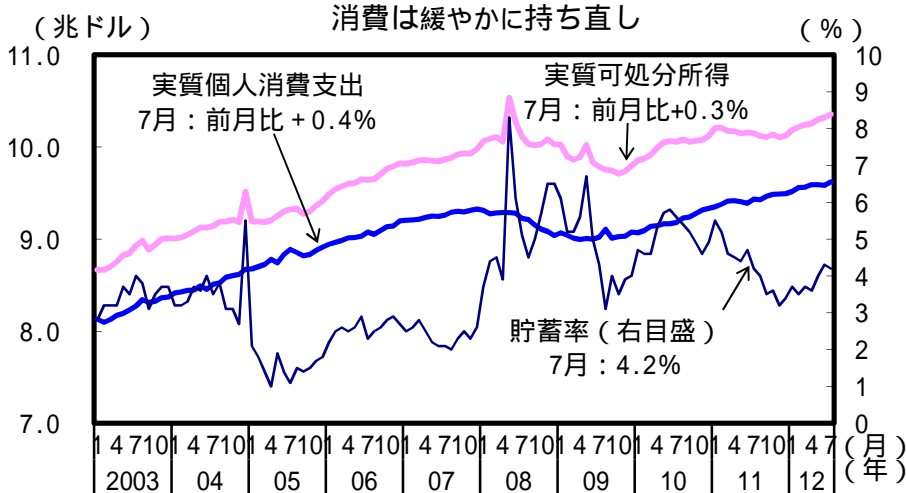
1. アメリカ

アメリカでは、景気は弱めの回復テンポが続いている。先行きについては、緩やかな回復傾向で推移すると見込まれる。ただし、雇用環境や住宅市場の改善の遅れ等により、景気が下振れるリスクがある。また、財政緊縮の影響に留意する必要がある。

実質GDP成長率（2次推計値）
2012年4～6月期は前期比年率1.7%成長

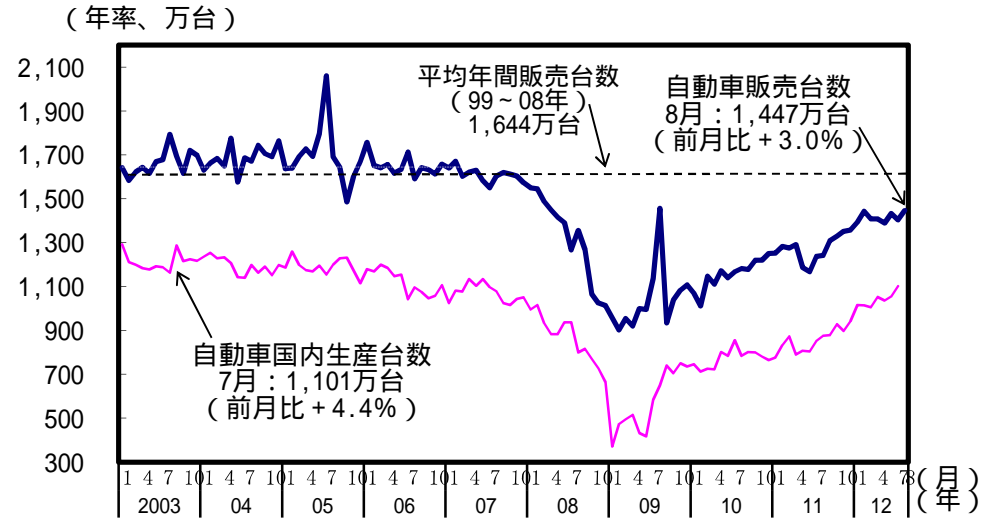


(備考) 1. アメリカ商務省より作成。
2. 2012年4～6月期の寄与度(%)は以下のとおり。個人消費：1.2、民間設備投資：4.5、住宅投資：0.2、在庫投資：0.2、政府支出：0.2、純輸出：0.3。



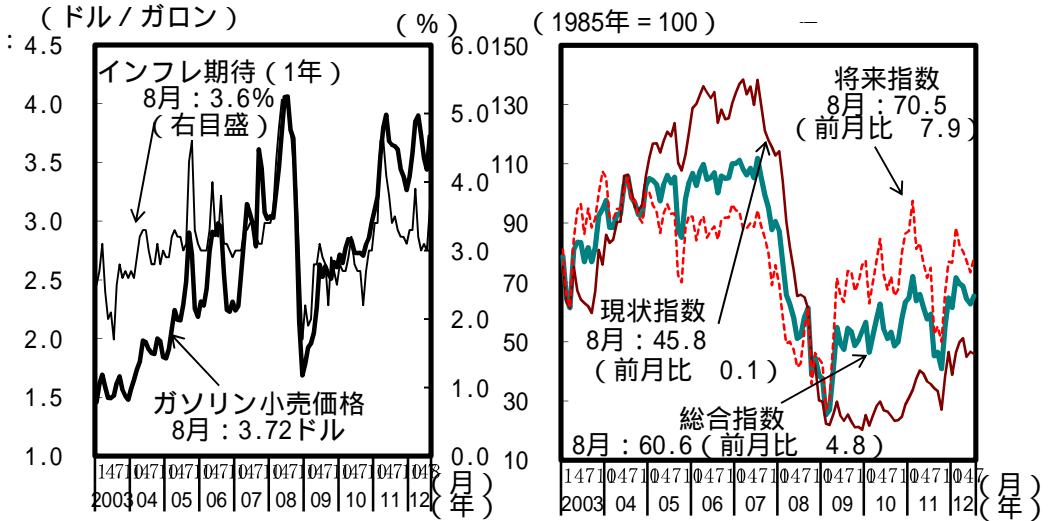
(備考) アメリカ商務省より作成。

自動車販売台数は横ばい



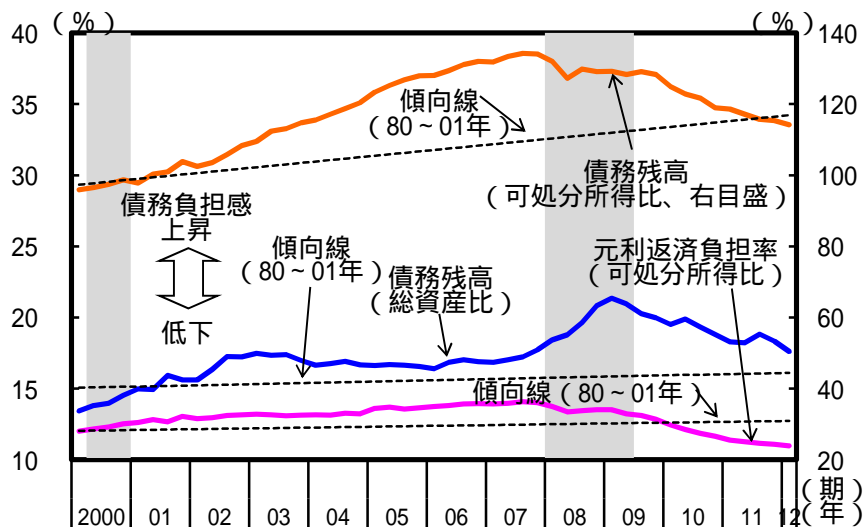
(備考) アメリカ商務省、連邦準備制度理事会(FRB)より作成。

消費者信頼感指数はこのところ低下



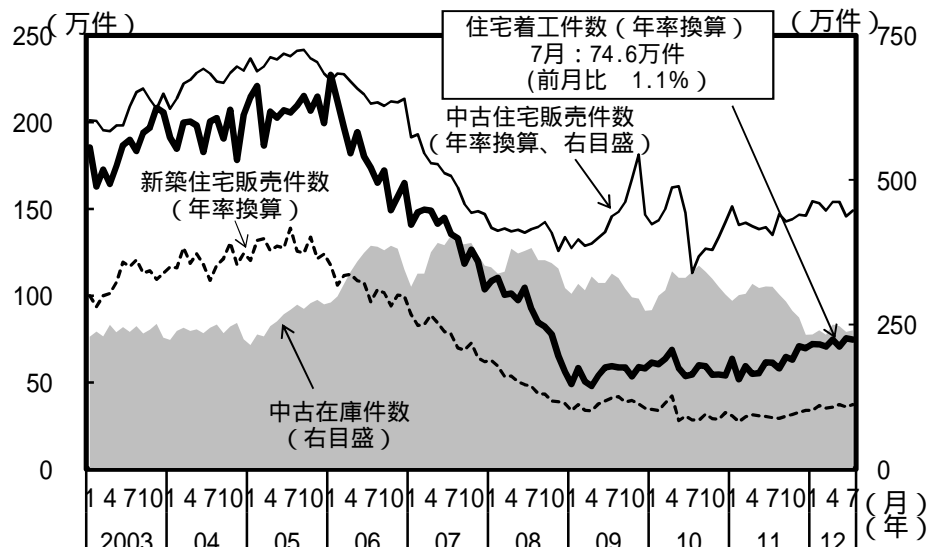
(備考) 1. コンフェレンス・ボード、アメリカ・エネルギー省、ミシガン大学より作成。
2. 将来指数は6か月後の見通し。ガソリン小売価格は月平均価格。インフレ期待は、今後1年後における物価上昇率予測回答の中央値。

家計のバランスシート調整は継続



- (備考) 1. アメリカ商務省、連邦準備制度理事会 (FRB) より作成。
 2. 網掛け部分は景気後退期を指す。
 3. 「元利返済負担」は、住宅ローン及び消費者ローンの返済負担を示す。

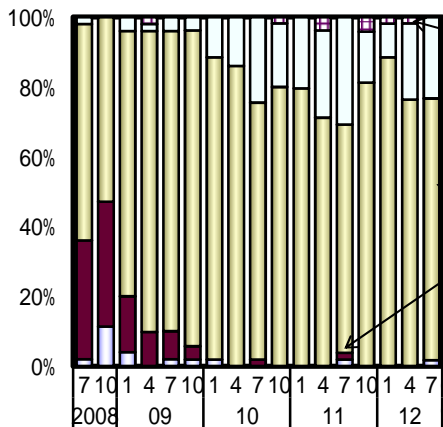
住宅着工は低水準にあるものの、持ち直しに向けた動き



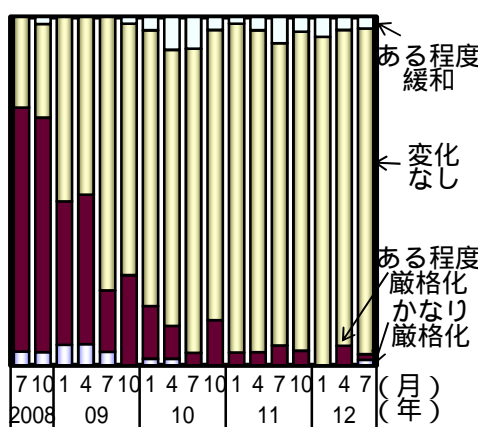
- (備考) 1. アメリカ商務省、全米不動産業者協会 (NAR) より作成。
 2. 2012年7月の販売件数に対する中古在庫件数の割合は6.4ヵ月分に相当。

金融機関の消費者向けローンに対する貸出態度はやや緩和

(1) 消費者向けローン

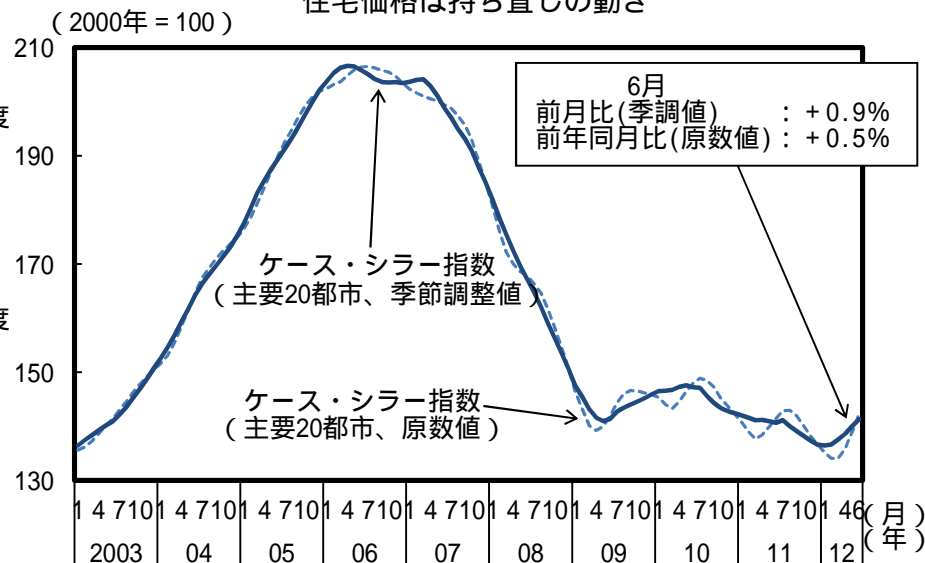


(2) 住宅ローン (プライム)



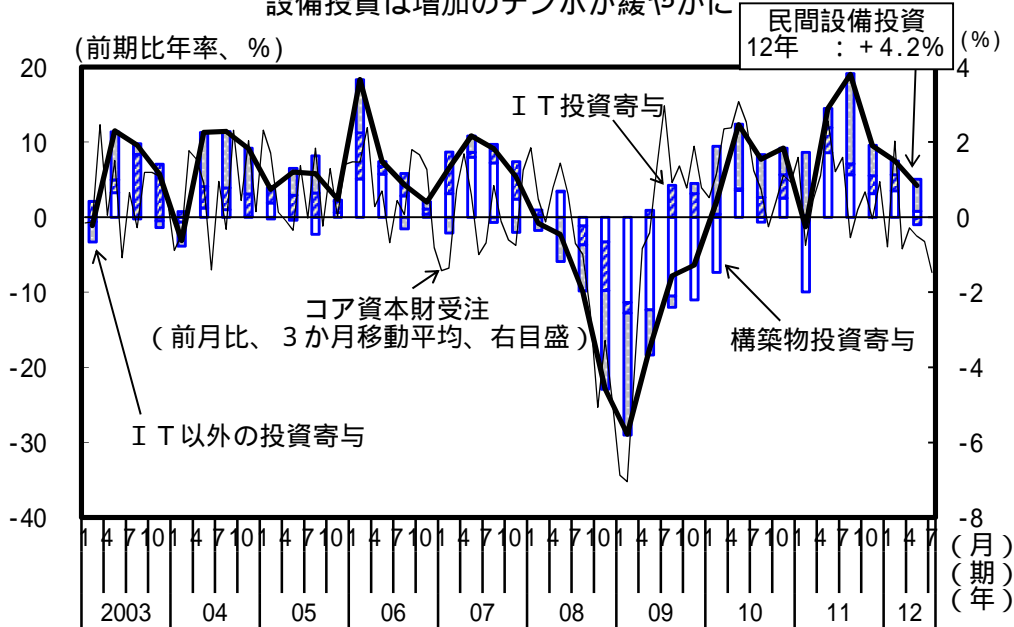
- (備考) 1. 連邦準備制度理事会 (FRB) より作成。
 2. 金融機関に対し、(1) 過去3か月間で消費者向けローンに対する貸出態度をどのように変化させたか、(2) 住宅ローン (プライム) の申請に対する貸出基準をどのように変化させたか、それぞれアンケート調査を行ったもの。
 3. 消費者向けローンは住宅ローンを含まない。

住宅価格は持ち直しの動き



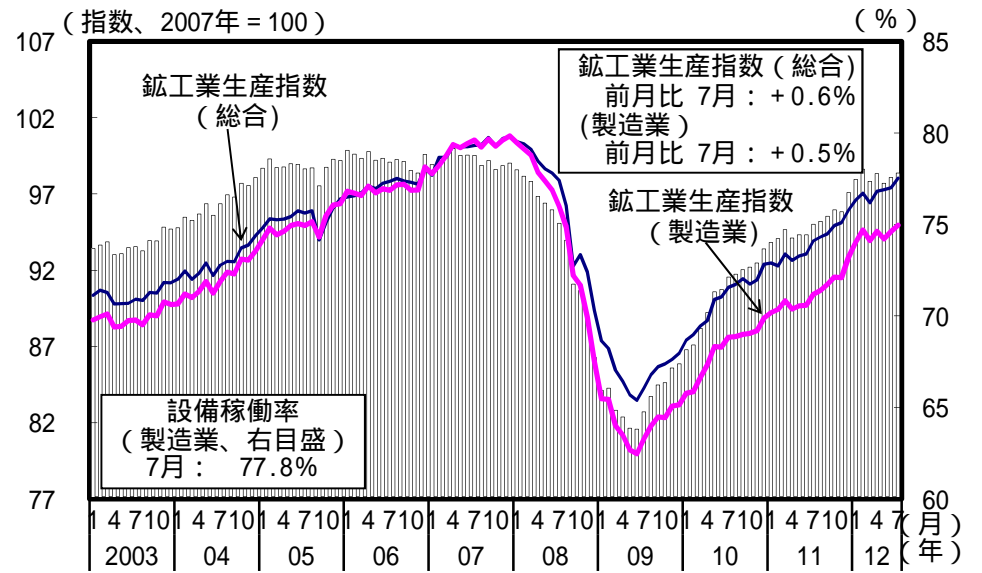
- (備考) スタンダード・アンド・プアーズより作成。

設備投資は増加のテンポが緩やかに



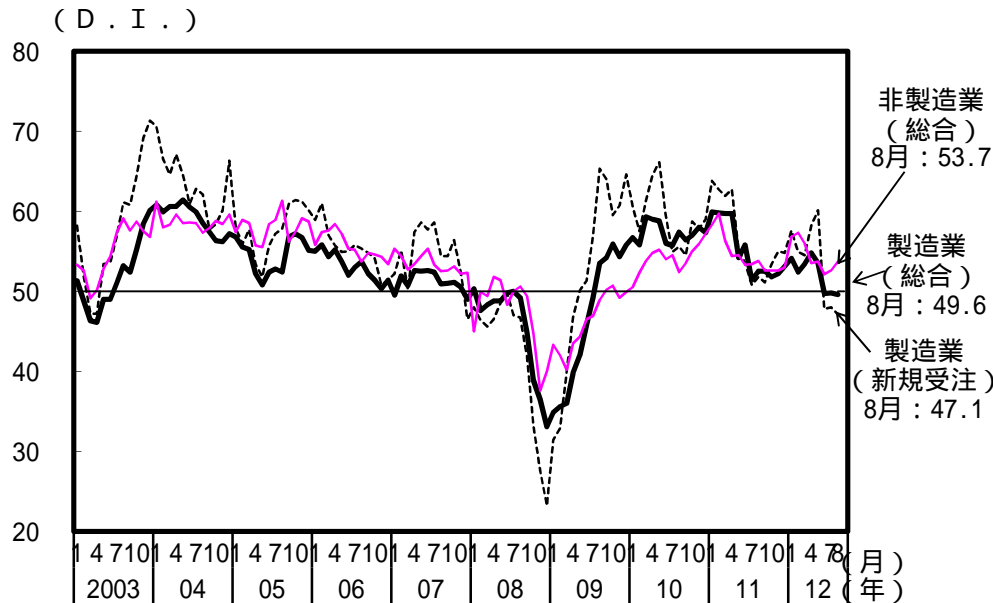
(備考) アメリカ商務省より作成。

生産は緩やかに増加



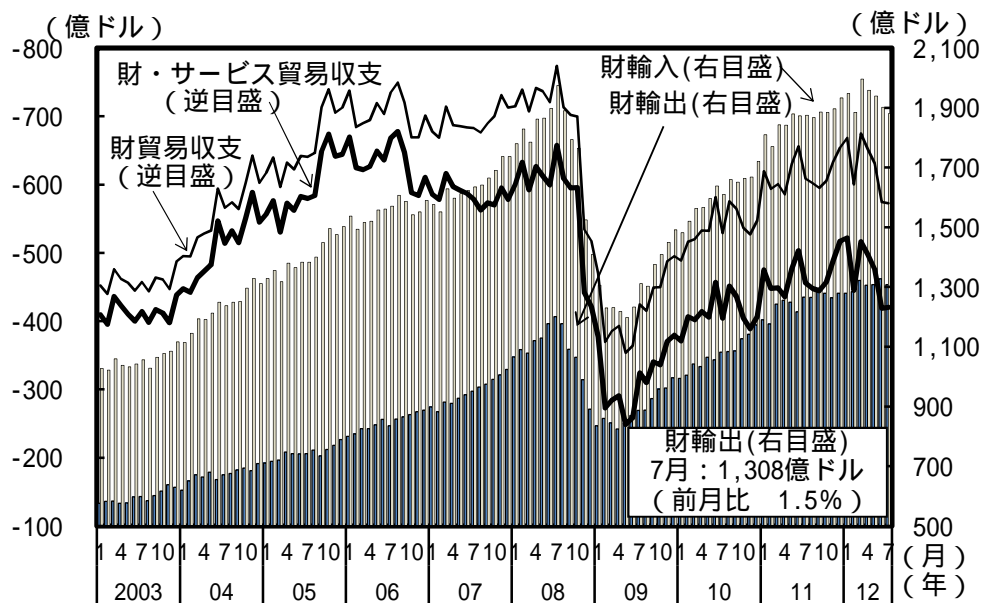
(備考) 連邦準備制度理事会 (F R B) より作成。

景況指数は弱い動き



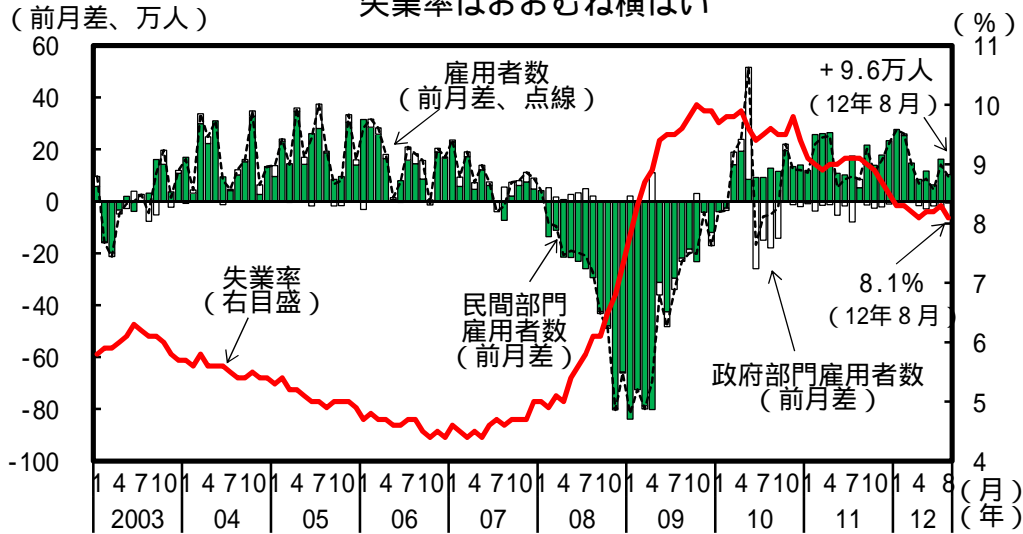
(備考) 全米供給管理協会 (I S M) より作成。

財輸出はおおむね横ばい



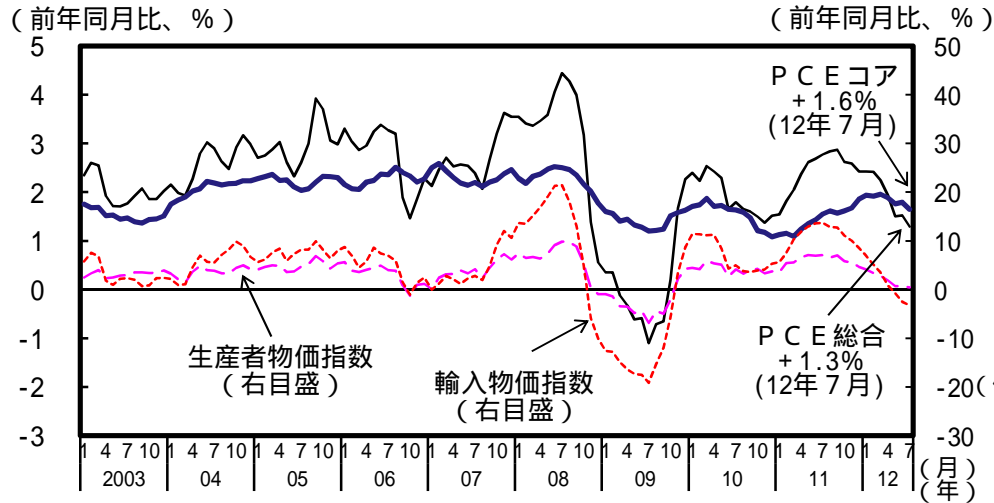
(備考) アメリカ商務省より作成。

雇用者数の増加は緩やかになっており、失業率はおおむね横ばい



(備考) 1. アメリカ労働省より作成。雇用者数は非農業部門。
2. 2008～09年の雇用者数の増減は 866.3万人、10年以降の雇用者数の増減は +398.1万人。

コア物価上昇率は安定



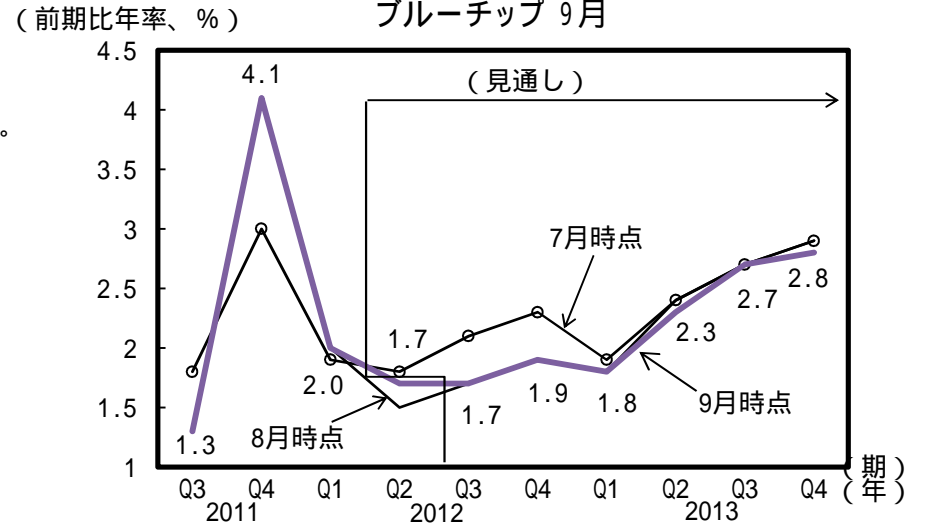
(備考) 1. アメリカ労働省、商務省より作成。
2. コア指数は、総合指数からエネルギーと食品を除いた指数である。

主要機関等による実質経済成長率の見通し

		(前年比、%)	
		12年	13年
ブルーチップ (民間見通し平均) (12年9月10日)	上位10社	2.3 (2.2)	2.7 (2.7)
	平均	2.2 (2.2)	2.1 (2.1)
	下位10社	2.1 (2.0)	1.6 (1.6)

		(前年比、%)	
		12年	13年
OECD (12年5月22日)		2.4	2.6
IMF (12年7月16日)		2.0	2.3
行政管理予算局 (OMB) (12年7月27日)		2.3	2.7
議会予算局 (CBO) (12年8月22日)		2.1	0.3
連邦公開市場委員会 (FOMC) (12年6月20日)		1.9~2.4 (10-12月期の前年同期比)	2.2~2.8 (同左)

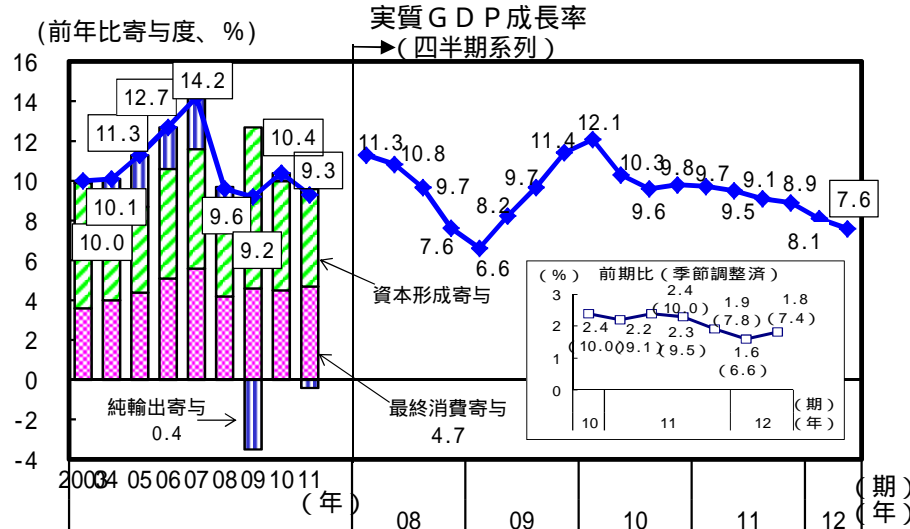
ブルーチップ 9月



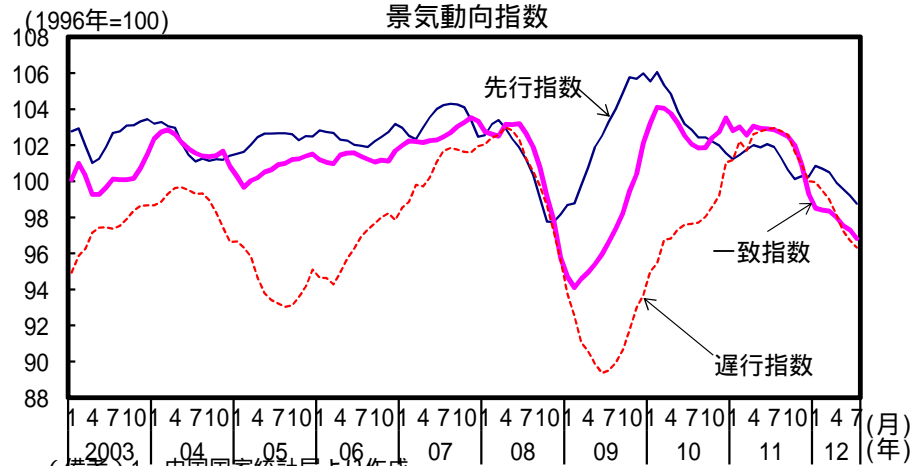
(備考) 1. ブルーチップ・インディケータ (12年9月10号、8月10日号、7月10日号)、OECD “Economic Outlook 91” (12年5月22日)、IMF “World Economic Outlook” (12年7月16日)、アメリカ行政管理予算局 (12年7月27日)、アメリカ議会予算局 (12年8月22日)、連邦公開市場委員会 (12年6月20日) より作成。
2. ブルーチップのカッコ内は、12年9月10日時点の見通し。

2. アジア地域

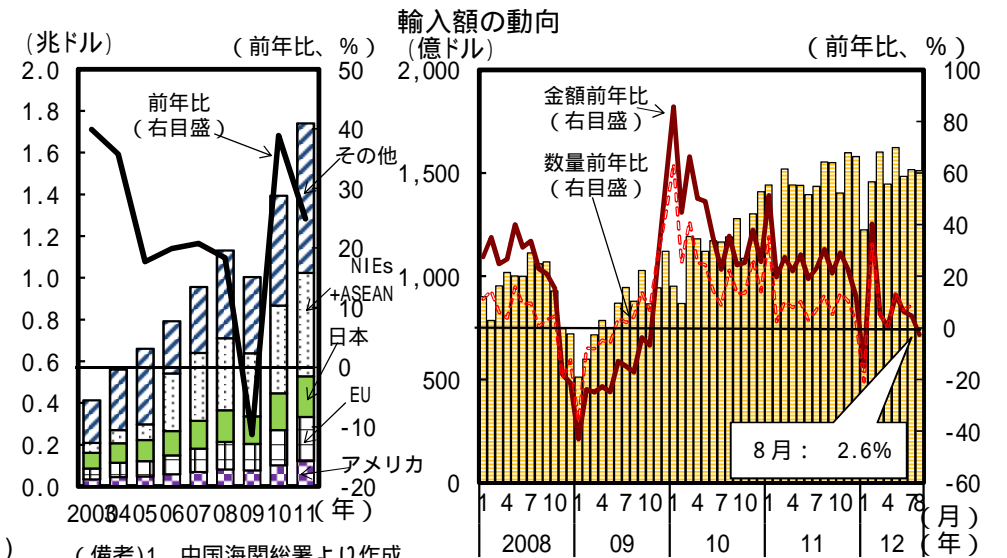
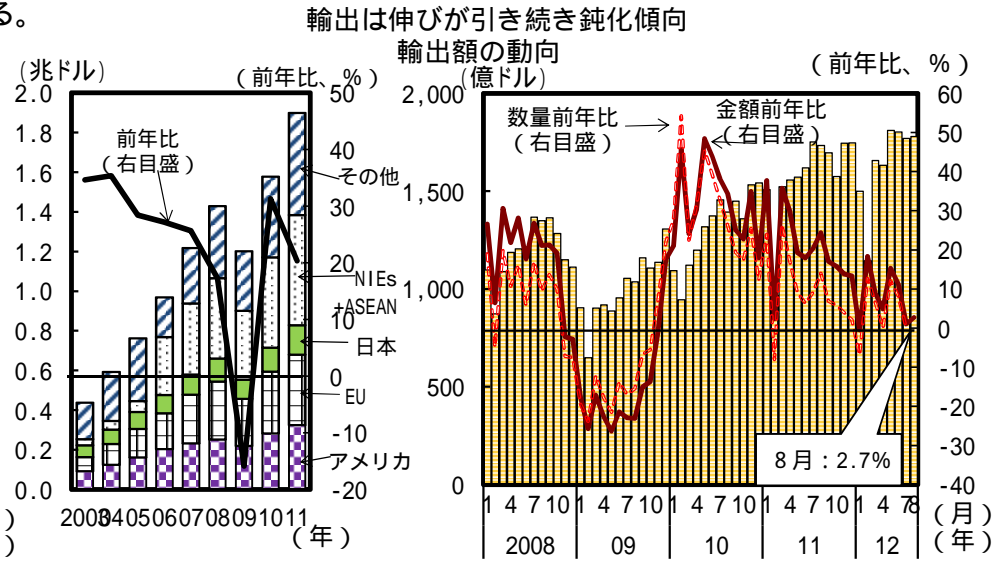
中国： 中国では、景気の拡大テンポがやや鈍化している。
 先行きについては、各種政策効果もあり、緩やかな拡大傾向となることが見込まれる。
 ただし、輸出や不動産価格の動向に留意する必要がある。



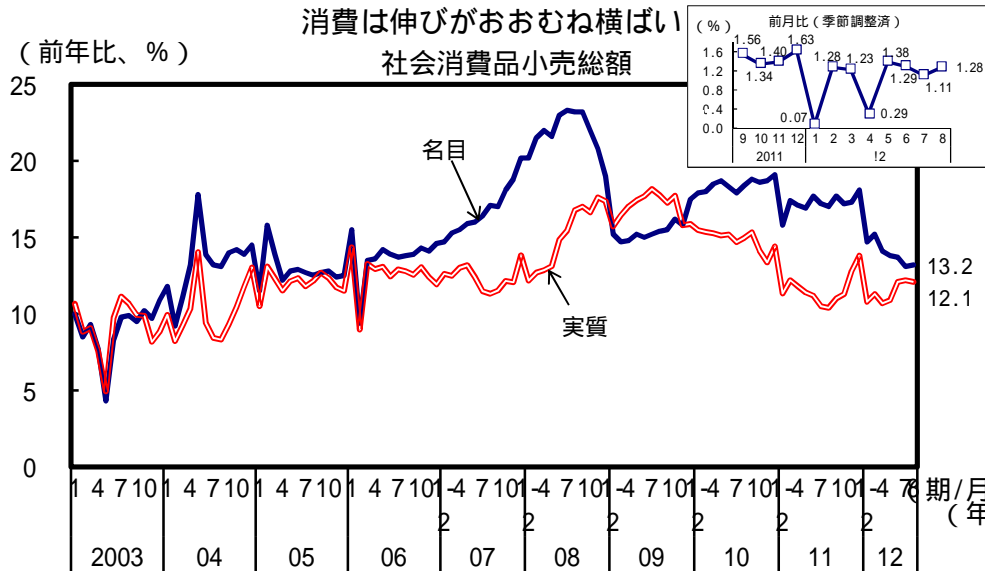
(備考) 1. 中国国家統計局より作成。
 2. 前期比のグラフの()内の数値は内閣府試算による前期比年率。
 3. 11年9月に10年暦年の成長率及び純輸出寄与度の改定値が公表されたが(改定前は、それぞれ10.3%と1.0%)、それ以外については未公表のため、ここでは改定前の数値を掲載している。



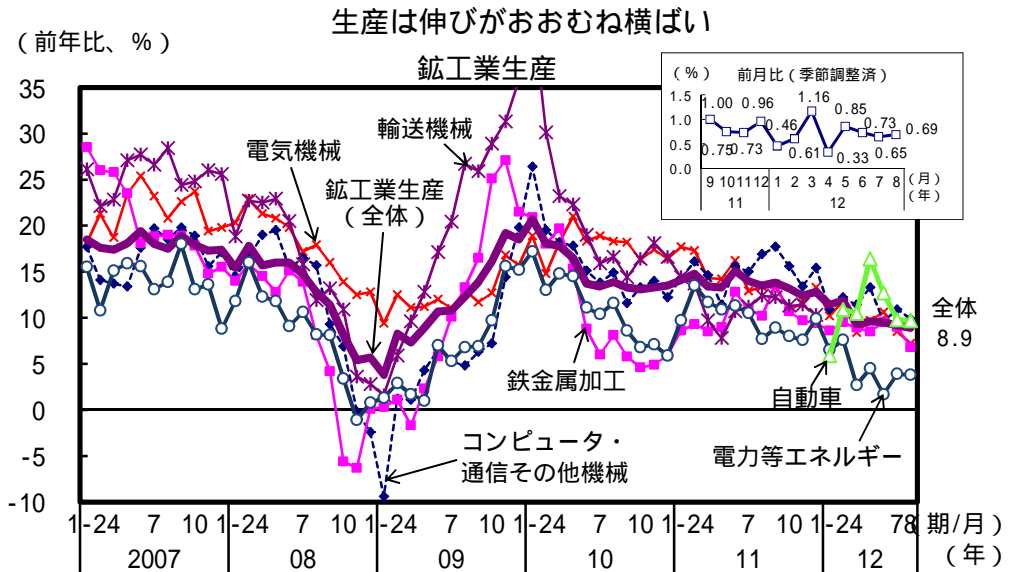
(備考) 1. 中国国家統計局より作成。
 2. 一致指数は鉱工業生産等の8指標、先行指数は消費者期待指数等の8指標、遅行指数は個人預金残高等の5指標から構成されている。



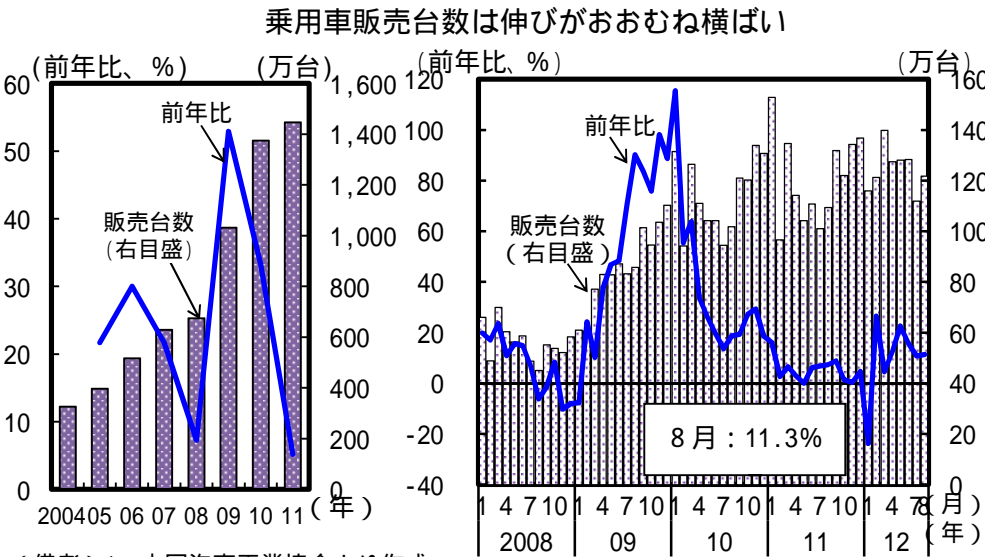
(備考) 1. 中国海関総署より作成。
 2. 月次の値は原数値。
 3. 春節(旧正月)休暇は、08年2月6~12日、09年1月25~31日、10年2月13~19日、11年2月2~8日、12年1月22~28日。



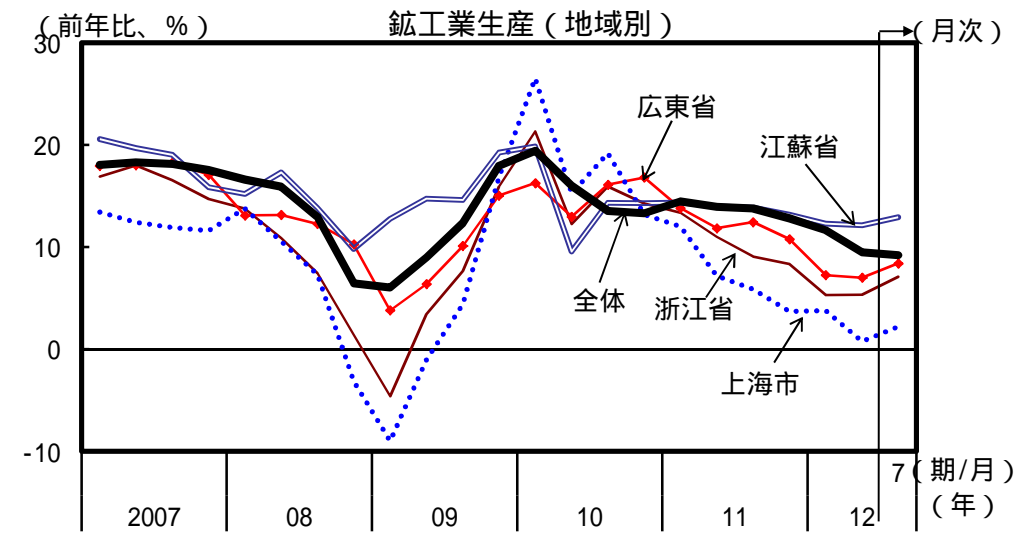
- (備考) 1. 中国国家統計局より作成。
 2. 実質伸び率は、11年8月までは小売物価指数を用いて試算。9月以降は国家統計局公表値。
 3. 中国では、消費刺激策として農村における家電の普及政策(「家電下郷」)の全国展開(09年2月～、11年11月一部地域で終了)、小型の低燃費車購入に対する補助金支給(10年6月～、11年10月より一部基準を厳格化)を実施している。加えて、12年には省エネ家電購入に対する補助金支給(12年6月～13年5月)等が実施されている。



- (備考) 1. 中国国家統計局より作成。
 2. 11年1-2月期より、統計対象範囲に変更があったため、厳密には11年1-2月前後では接続しない。
 3. 12年1-2月期より、「輸送機械」が「自動車」と「鉄道・船舶他」に分かれたため、08年～11年12月までは「輸送機械」、12年1-2月からは「自動車」とした。

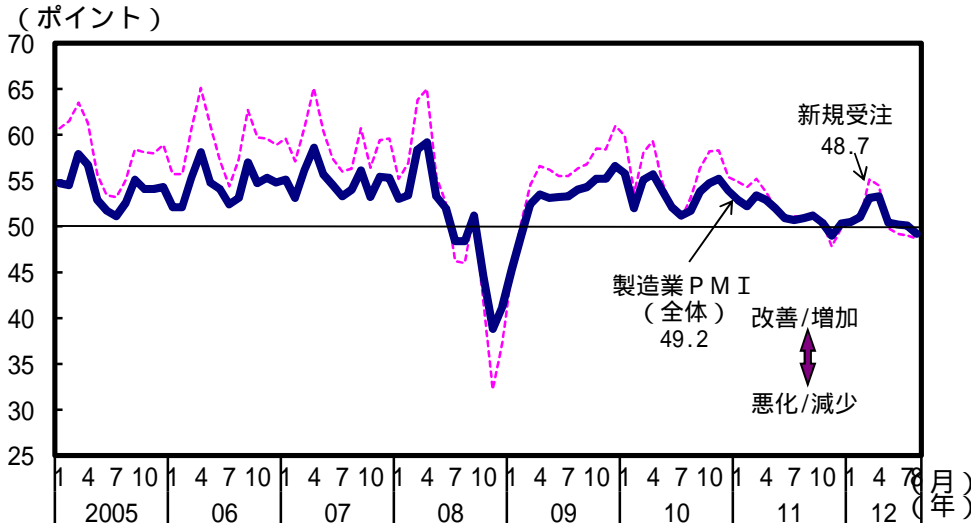


- (備考) 1. 中国汽车工業協会より作成。
 2. 春節(旧正月)休暇は、08年2月6～12日、09年1月25～31日、10年2月13～19日、11年2月2～8日、12年1月22～28日。



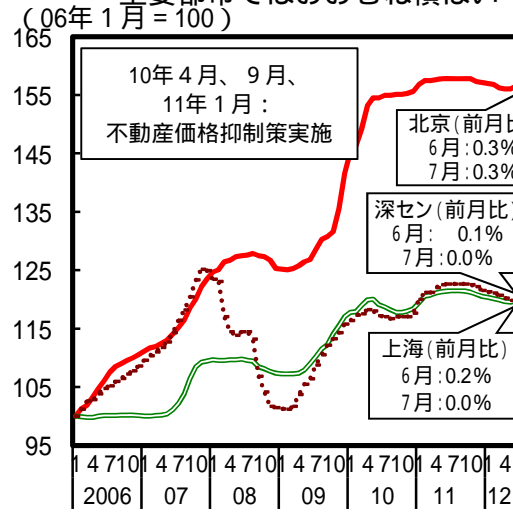
- (備考) 1. 中国国家統計局より作成。
 2. 地域別の伸び率は2006年以前は公表されていない。10年6月は数値が公表されていない。

製造業購買担当者指数 (PMI) は低下



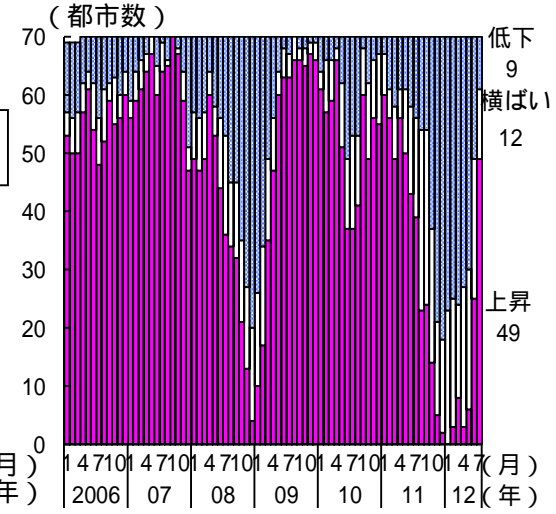
- (備考) 1. 中国国家統計局より作成。
 2. 製造業 PMI は、製造業の業況に関わる11の項目について企業調査を行い、各々が前月に比べてどう変わったのかを集計したもの。製造業 PMI (全体) は、生産高、新規受注、原材料在庫、雇用、サプライヤー納期の5つの指標から合成される。50より高ければ、「改善/増加」と回答した企業の割合が多いことを表す。

新築住宅販売価格：
 主要都市ではおおむね横ばい

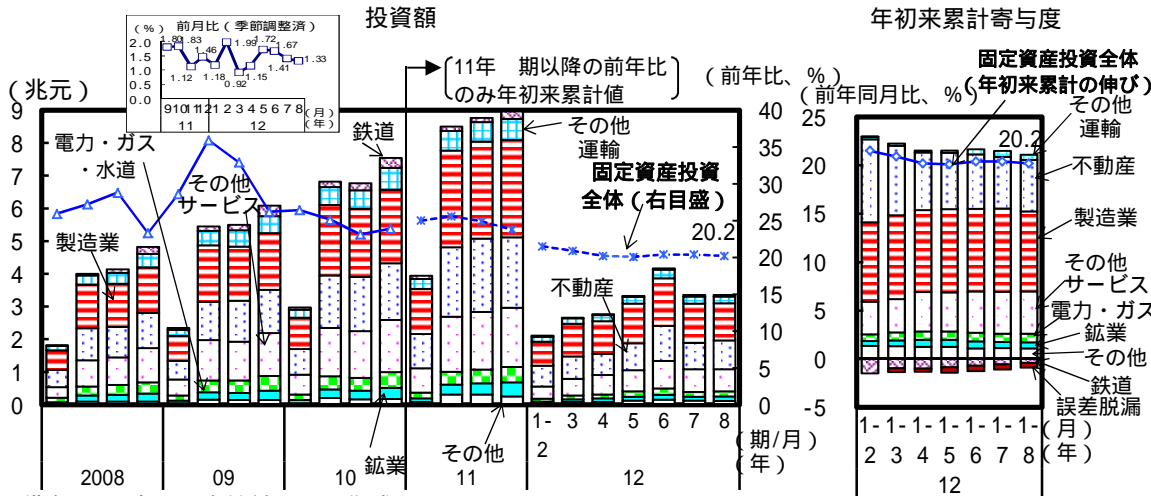


- (備考) 1. 中国国家統計局より作成。
 2. 価格水準は、06年1月の1㎡当たりの価格を100として指数化。動向は、前月比で、プラスの都市を「上昇」、0.0%の都市を「横ばい」、マイナスの都市を「低下」とした。
 3. 11年1月に基準改定があったため、厳密には11年1月前後で接続しない。なお、全国70都市の平均価格は、11年1月から公表されていない。

動向：上昇した都市数が大幅に増加

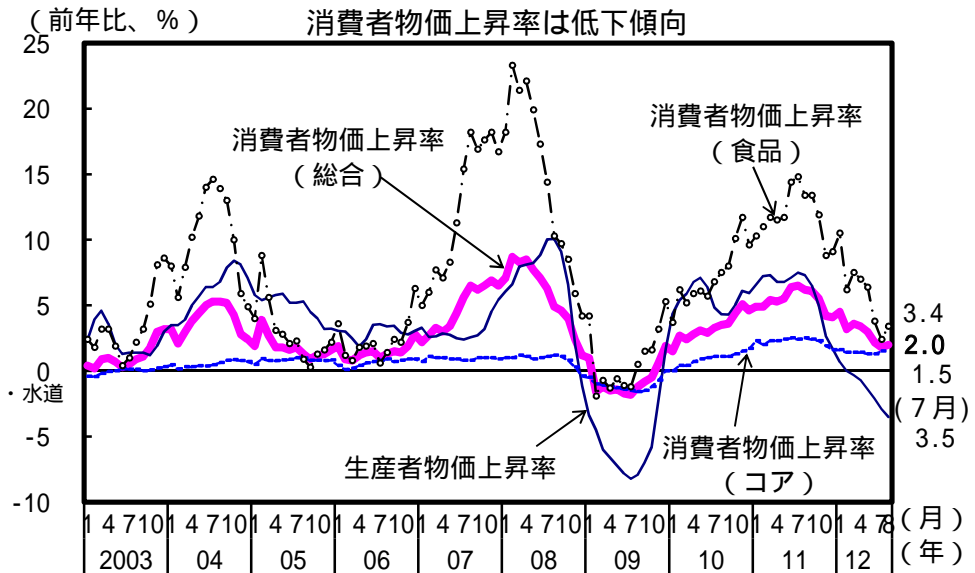


固定資産投資は緩やかな伸びとなっている



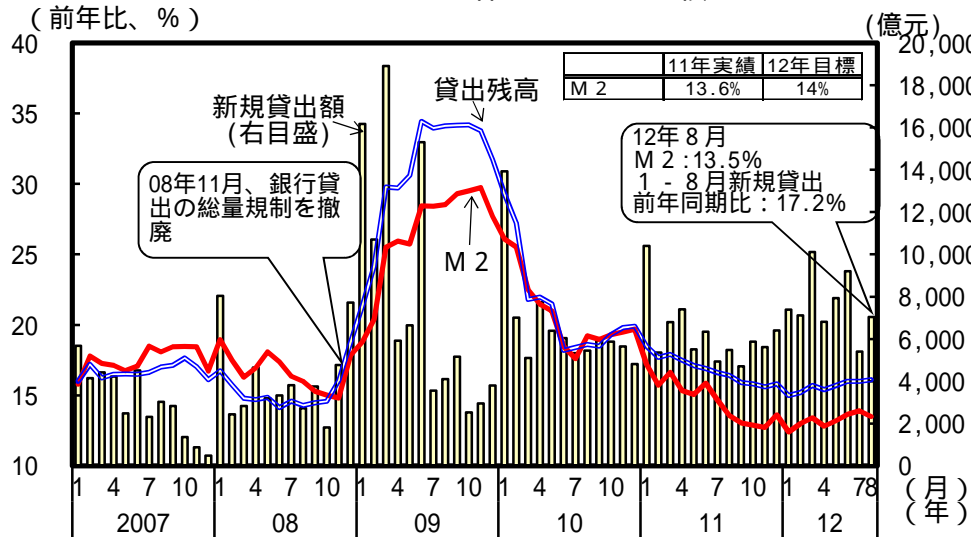
- (備考) 1. 中国国家統計局より作成。
 2. 11年1-2月期より、統計対象範囲に変更があったため、厳密には11年1-2月前後では接続しない。
 3. 当局は累積額のみ公表。四半期及び単月の値は、内閣府試算。

消費者物価上昇率は低下傾向



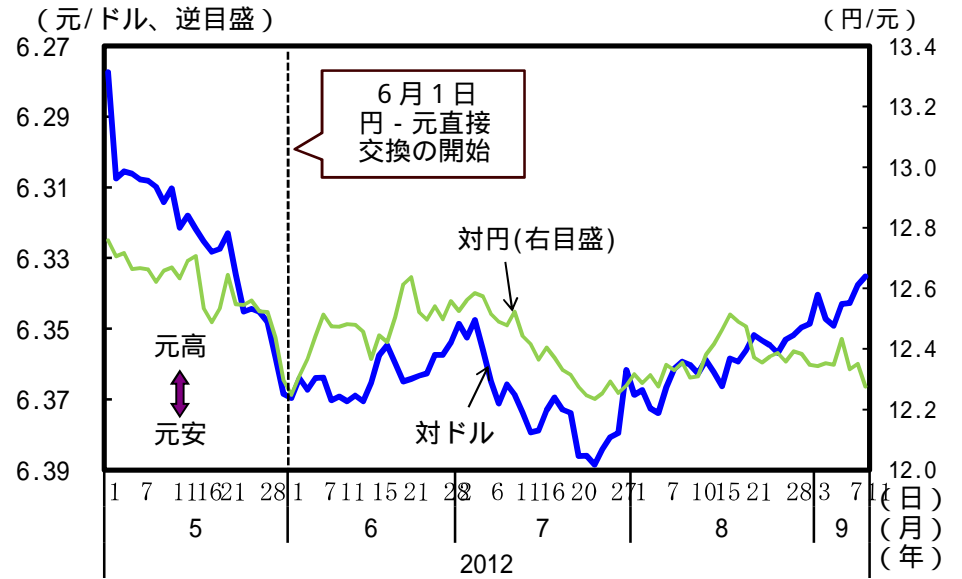
- (備考) 1. 中国国家統計局より作成。
 2. コア消費者物価は、総合から食品とエネルギーを除いたもの。
 3. 中国政府は、12年の目標を4%前後としている。

マネーサプライの伸びはおおむね横ばい



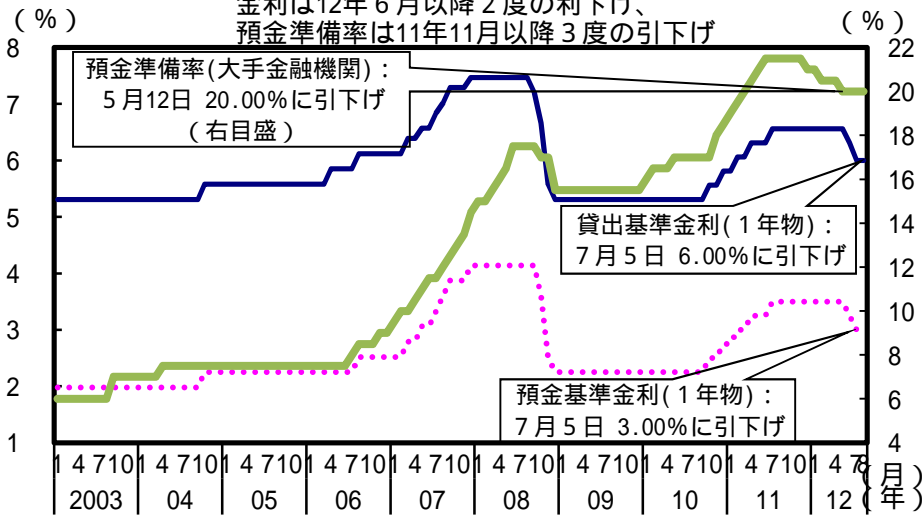
(備考) 1. 中国人民銀行より作成。
2. 11年10月統計より、統計対象範囲に変更があったため、厳密には11年10月前後では接続しない。

人民元名目為替レート(短期) : おおむね横ばい



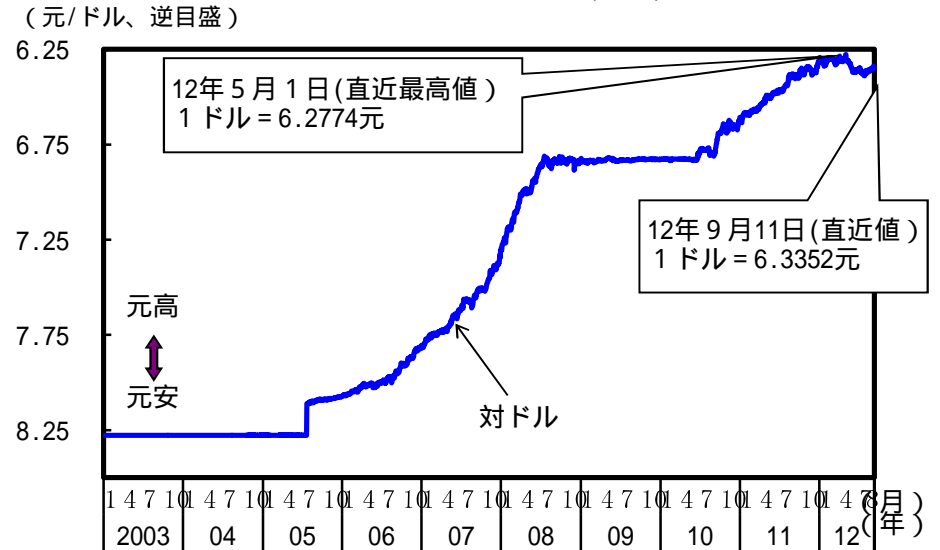
金融政策の動向

金利は12年6月以降2度の利下げ、
預金準備率は11年11月以降3度の引下げ



(備考) 1. 中国人民銀行より作成。
2. 日付は政策金利及び預金準備率の引上げ/引下げ発表日。
3. 08年7月以前は、大手金融機関の預金準備率が公表されていないため、全体の預金準備率としている。
4. 11年1月30日に中国人民銀行が発表した2010年第4四半期貨幣政策執行報告によると、マクロ・ブーデンス強化及び貸出と流動性の総量調節のため、差別的な預金準備率を実施されている。

人民元名目為替レート(長期)

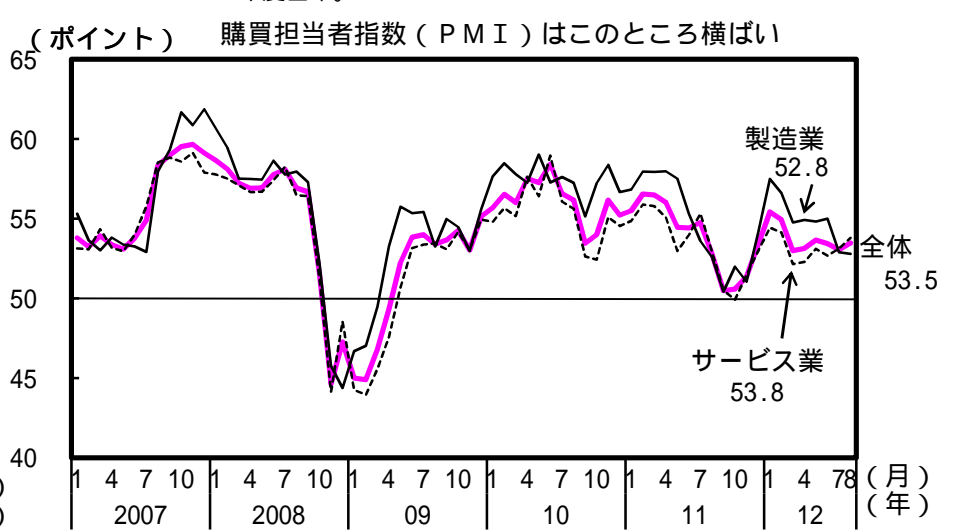
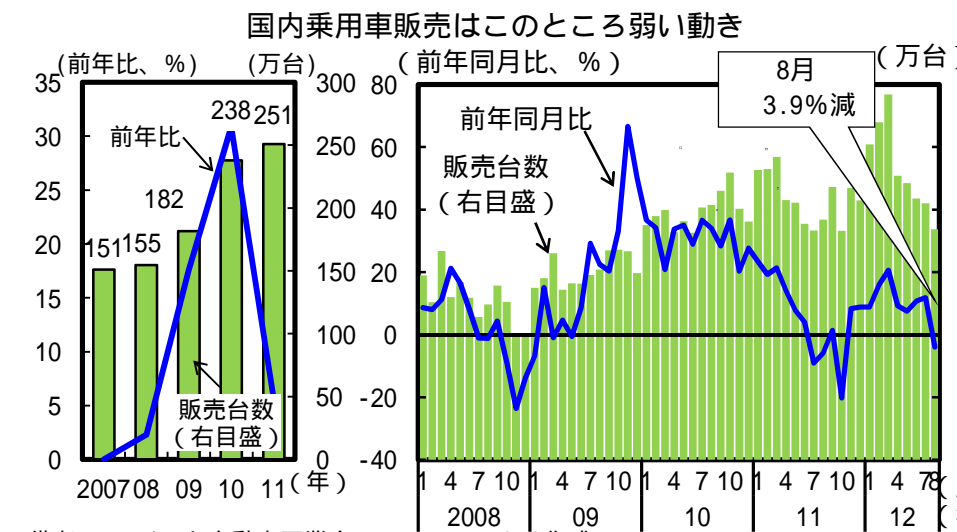
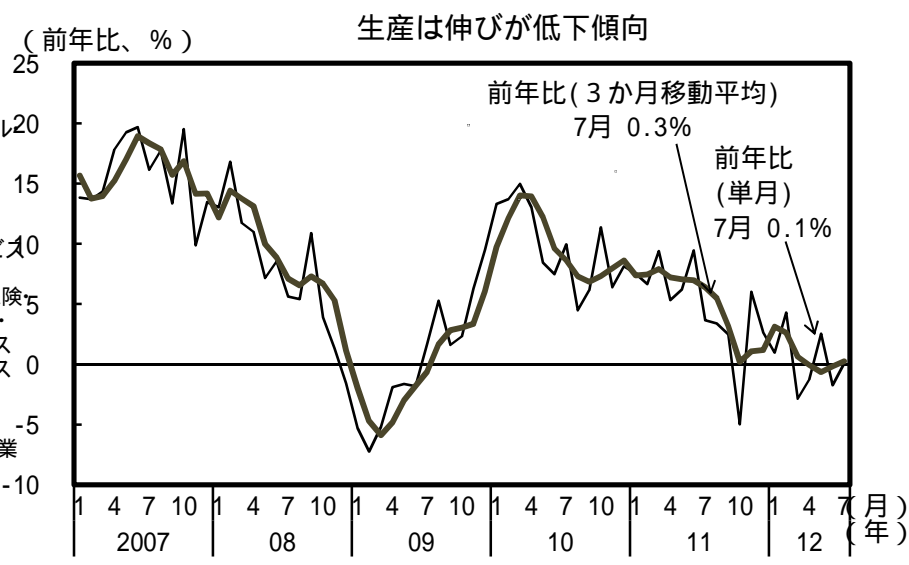
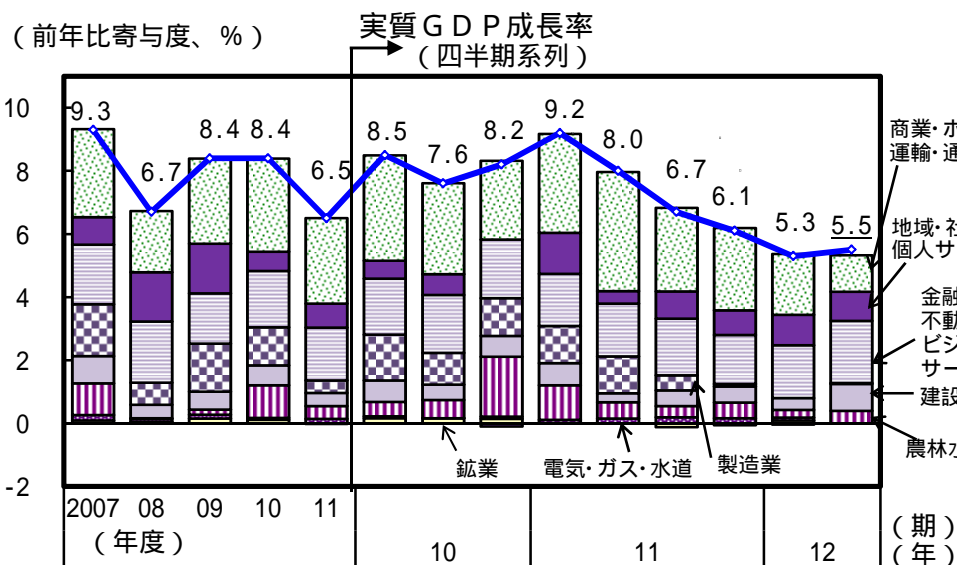


(備考) ブルームバーグより作成。

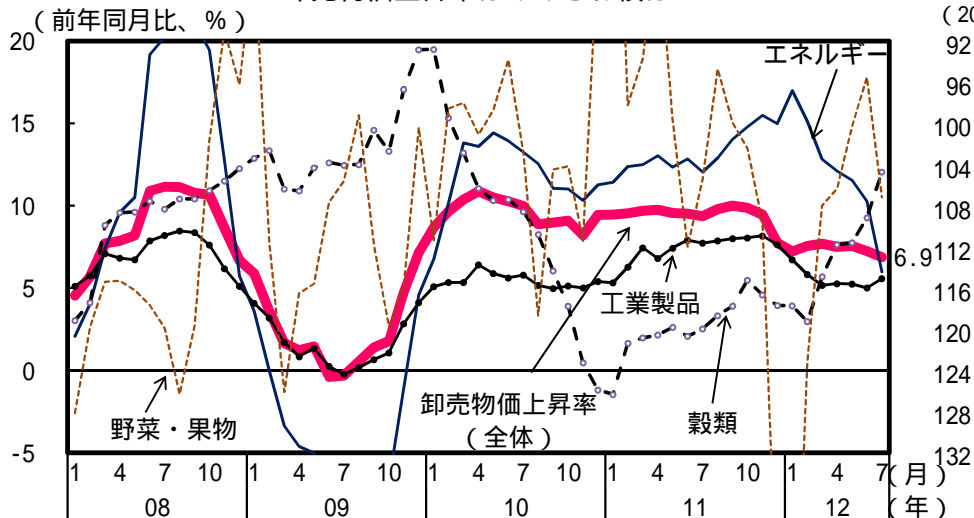
インド:

インドでは、景気の拡大テンポは弱まっている。

先行きについては、当面、低めの成長となることが見込まれる。また、物価上昇によるリスクに留意する必要がある。

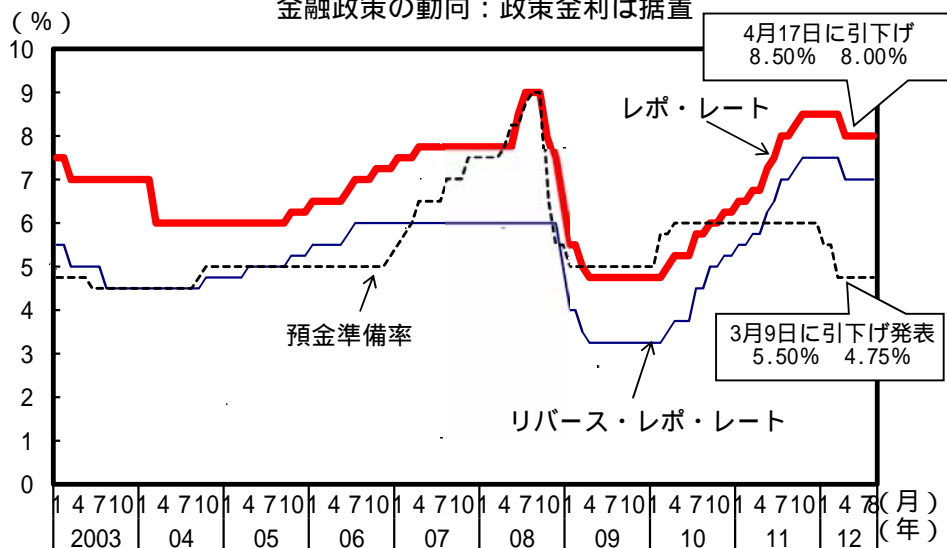


卸売物価上昇率はおおむね横ばい



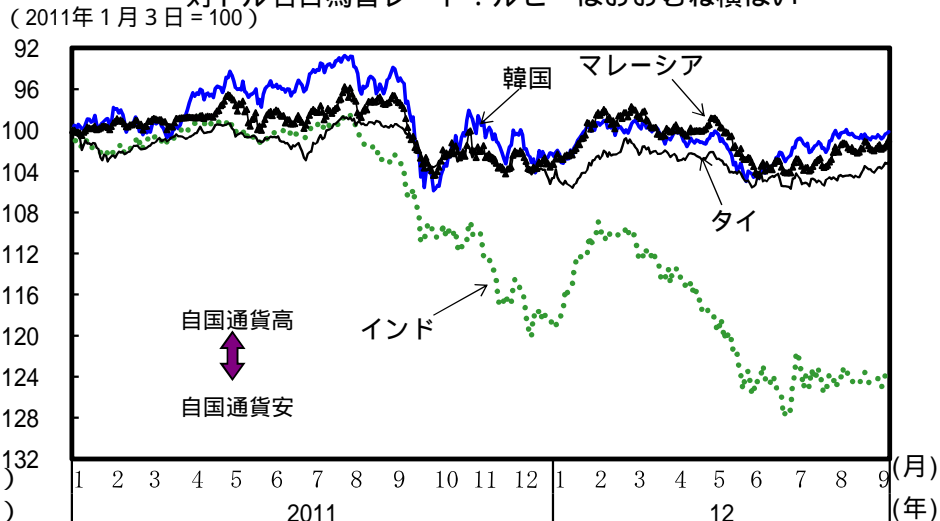
- (備考) 1. インド商工省より作成。
 2. 卸売物価上昇率はインド政府・金融当局が最も重視する物価指標。なお、インド準備銀行(中央銀行)は、当面の目標を4.0~4.5%、中期的な目標を3.0%としている。
 3. 12年7月の消費者物価上昇率(全国)は、前年同月比9.9%。

金融政策の動向：政策金利は据置



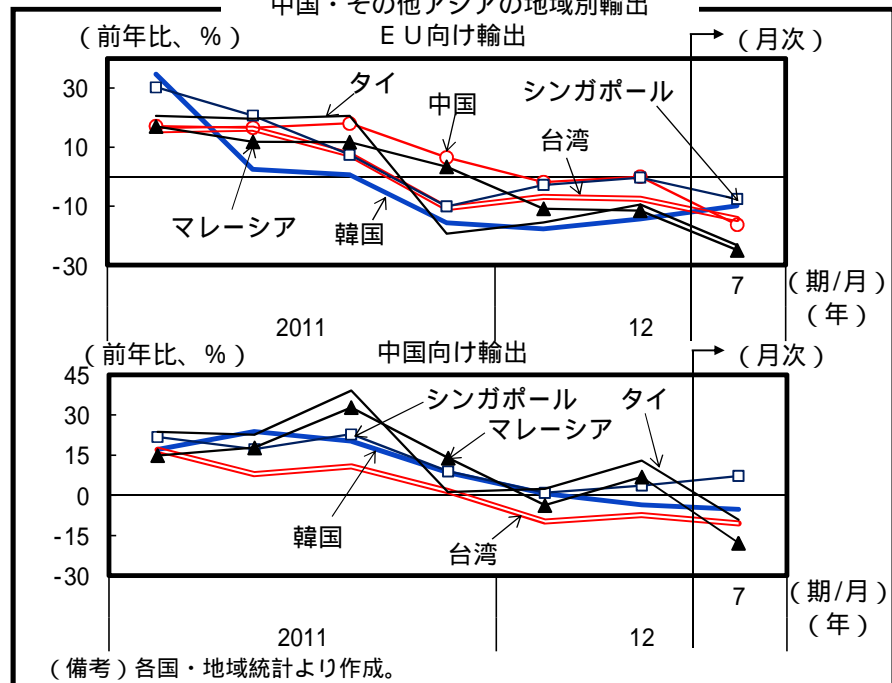
(備考) インド準備銀行より作成。

対ドル名目為替レート：ルピーはおおむね横ばい



(備考) ブルームバーグより作成。

中国・その他アジアの地域別輸出



その他アジア地域：

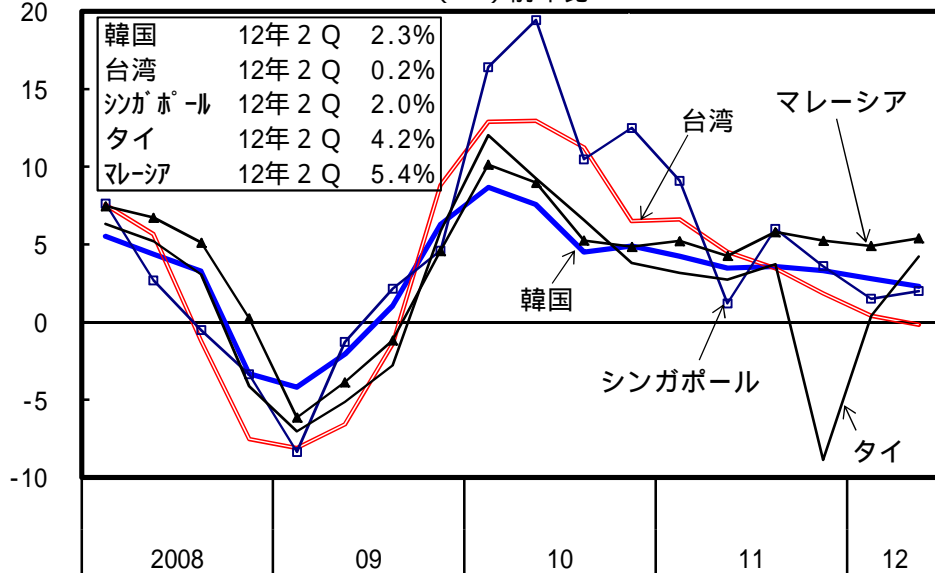
その他アジア地域では、景気は足踏み状態となっている。

先行きについては、当面、足踏み状態が続くと見込まれる。また、輸出の動向に留意する必要がある。

実質GDP成長率

(前年同期比、%)

(1) 前年比

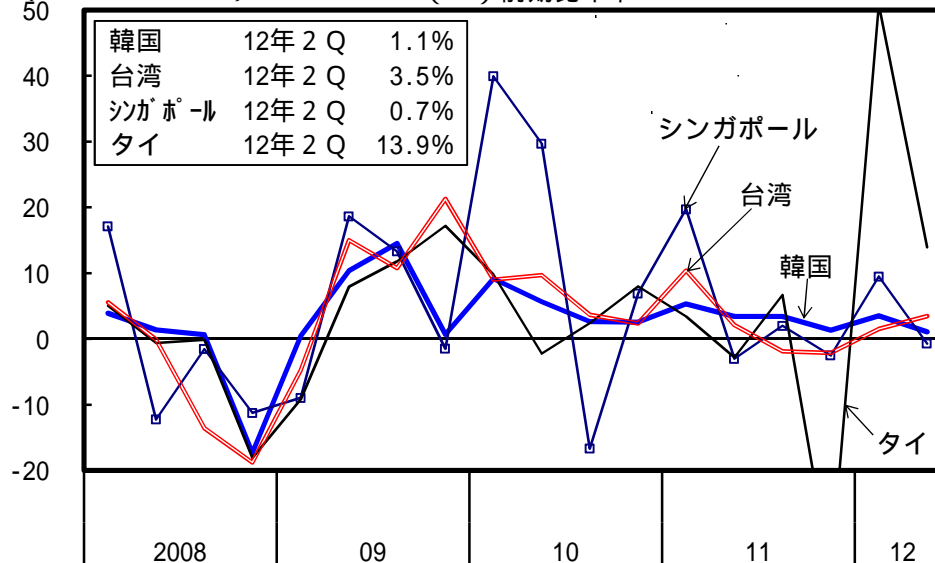


(期)

(年)

(前期比年率、%)

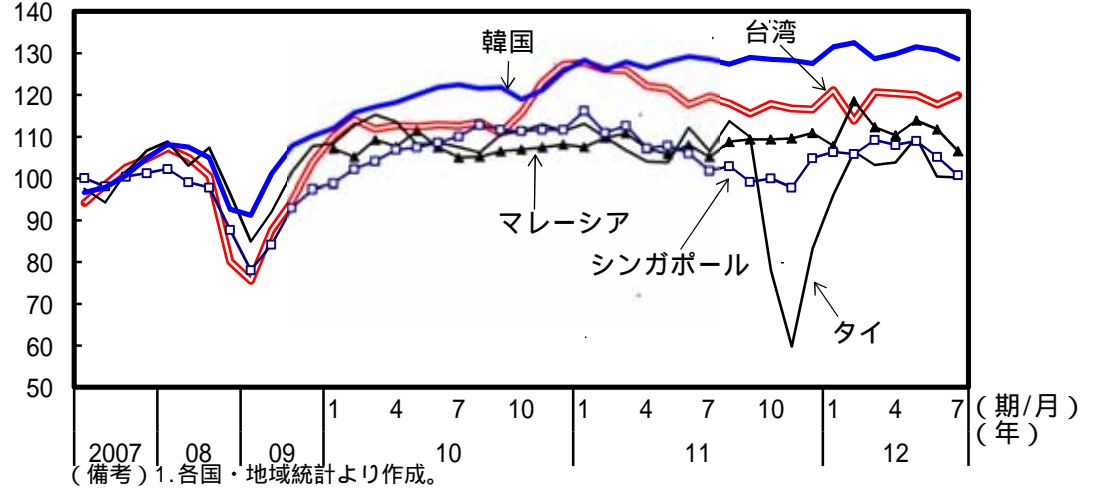
(2) 前期比年率



(備考) 各国・地域統計より作成。

鉱工業生産：弱い動き

(指数、2007年=100)



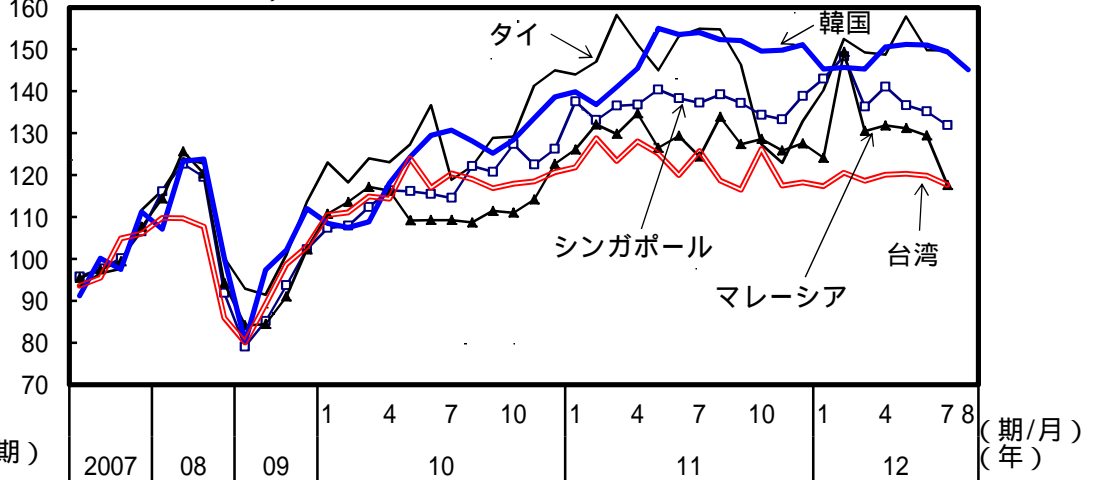
(備考) 1. 各国・地域統計より作成。

2. シンガポール及びタイは製造業の数値。ただし、シンガポールは振れが大きいバイオ・メディカルを除いたもの。

3. 各国の数値は季節調整値。マレーシアは05年=100の数値で、09年からのみ公表。

輸出：弱い動き

(指数、2007年=100)

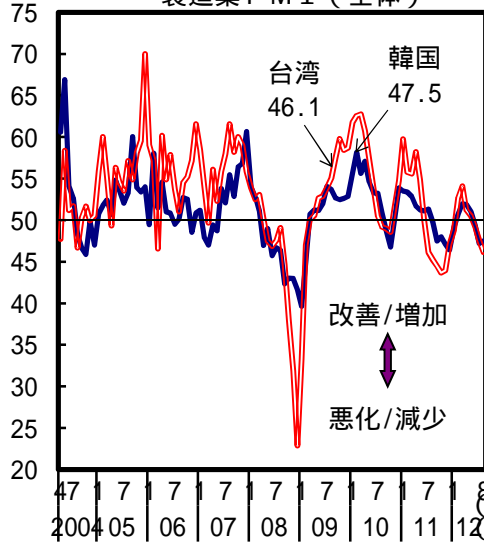


(備考) 1. 各国・地域統計より作成。

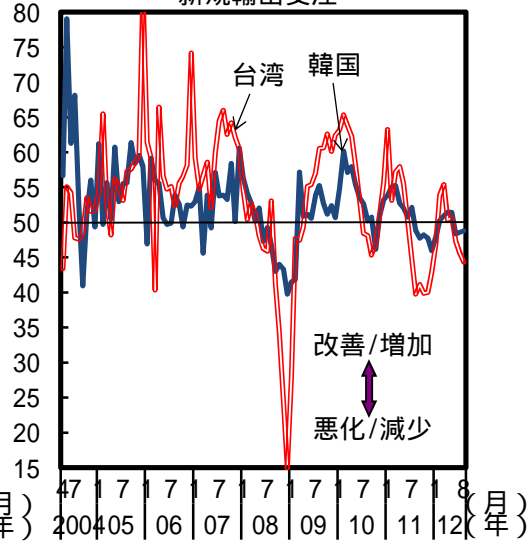
2. 米ドルベース。台湾、シンガポール、タイ及びマレーシアは季節調整値。韓国は原数値の3か月移動平均値。

製造業購買担当者指数 (PMI) : 低下

(ポイント) 製造業PMI (全体)



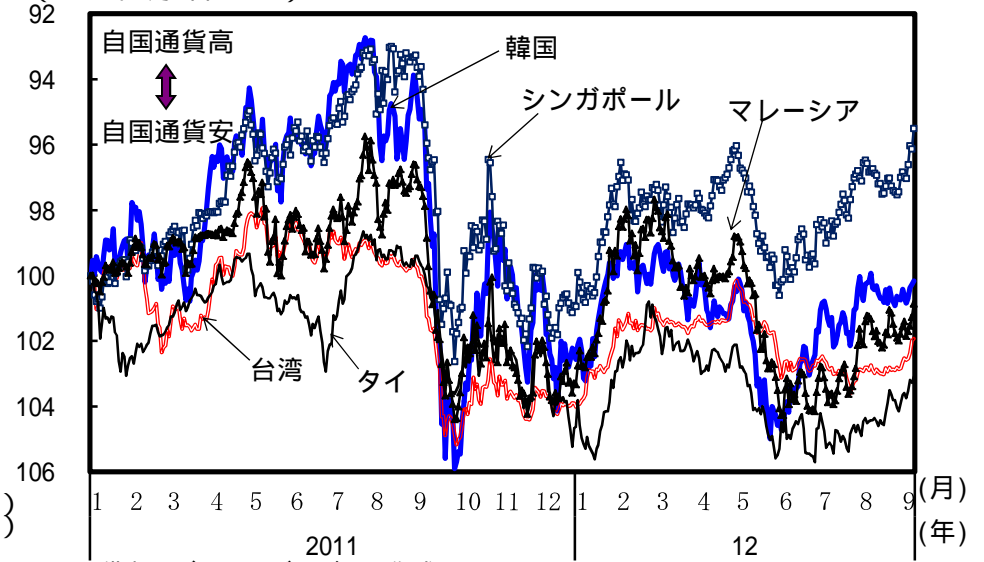
(ポイント) 新規輸出受注



(備考) 1. マークイット社より作成。
2. 50より高ければ、「改善/増加」と回答した企業の割合が多いことを表す。

対ドル名目為替レート

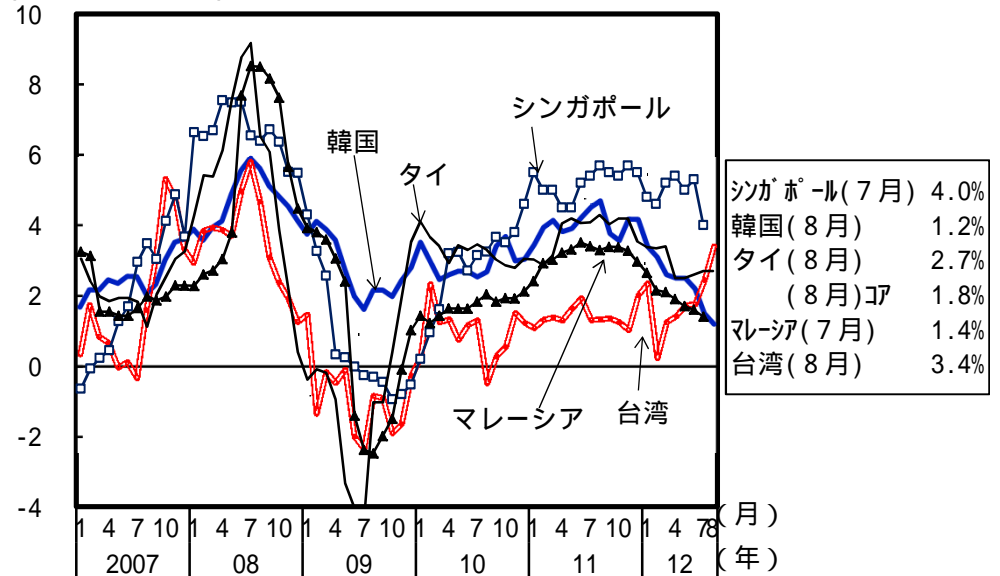
(2011年1月3日 = 100)



(備考) ブルームバーグより作成。

消費者物価上昇率：韓国、マレーシアでは低下

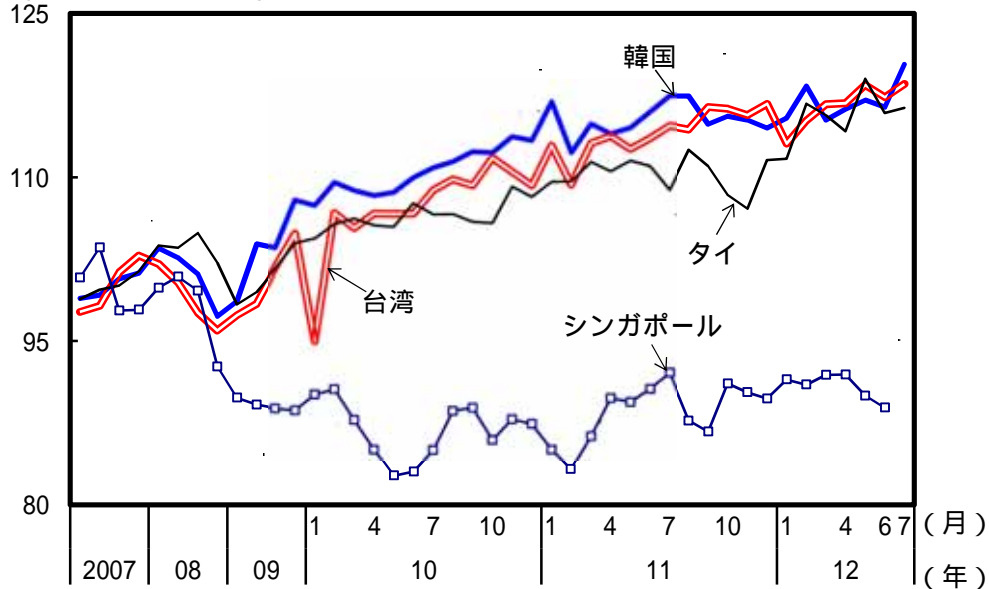
(前年同月比、%)



(備考) 1. 各国・地域統計より作成。
2. 韓国とタイはインフレ目標を採用しており、目標値は、韓国ではCPI総合で3±1%、タイではコアCPIで0.5~3.0%となっている。

(指数、2007年=100)

小売売上

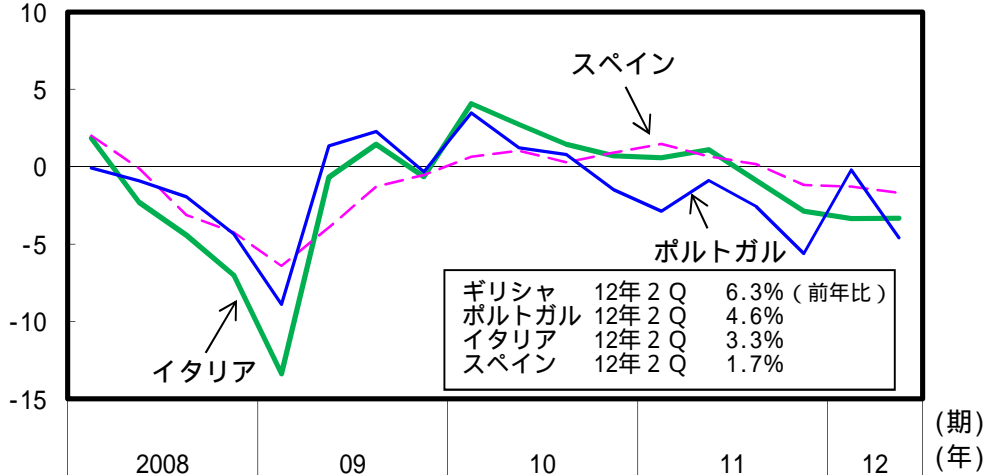
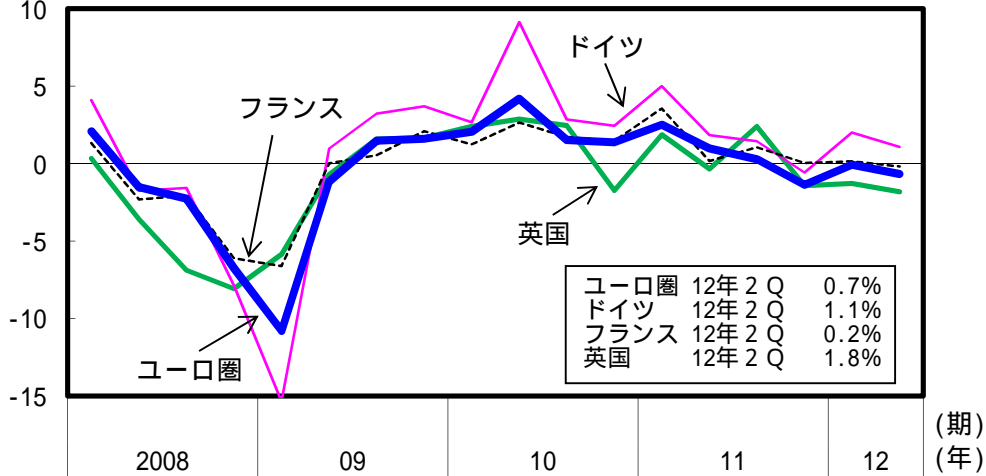


(備考) 1. 各国・地域統計より作成。
2. 各国の数値は季節調整値。タイは民間消費の季節調整値。

3. ヨーロッパ地域

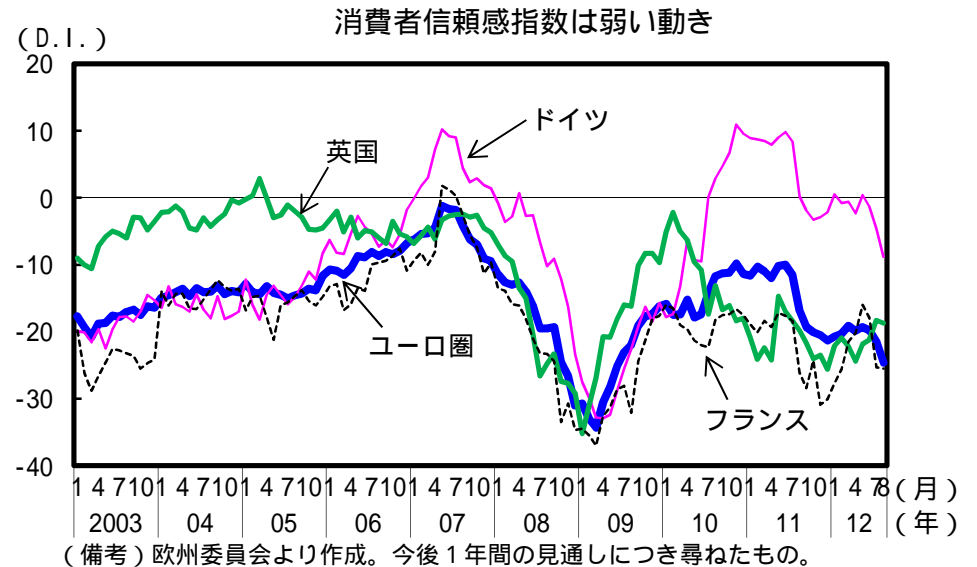
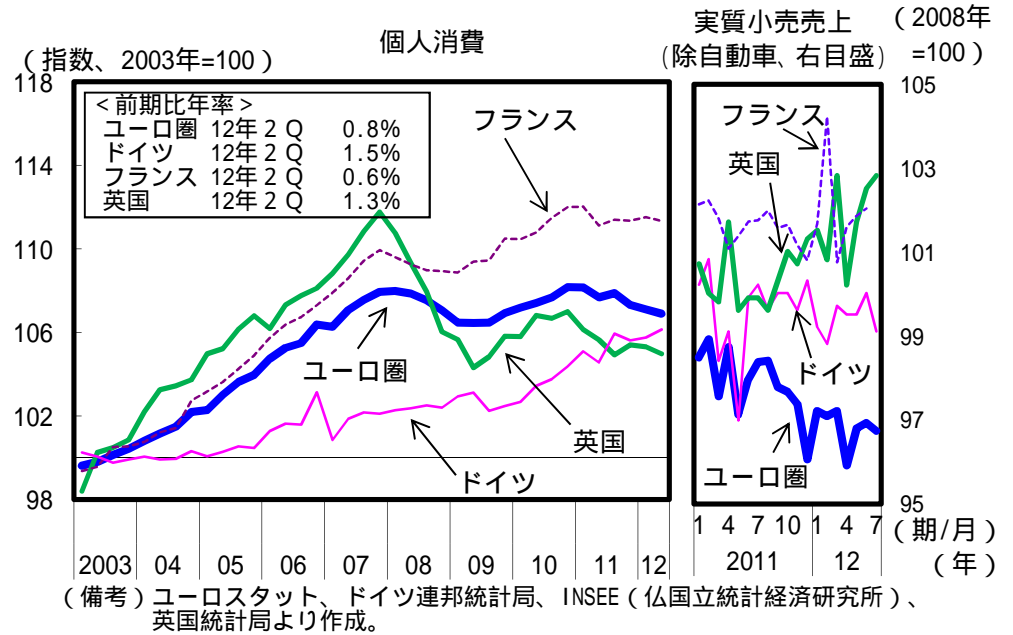
ヨーロッパ地域では、景気はこのところ弱含んでいる。ドイツではこのところ持ち直しの動きが緩やかになっている。
先行きについては、弱い動きとなることが懸念される。
また、一部の国々における財政の先行きに対する根強い不安を背景とした金融面への影響により、景気が低迷するリスクがある。さらに、各国の財政緊縮による影響や、高い失業率が継続すること等に留意する必要がある。

GDP (前期比年率、%)
 ユーロ圏：2012年4-6月期は前期比年率 0.7%成長
 英国：2012年4-6月期は前期比年率 1.8%成長



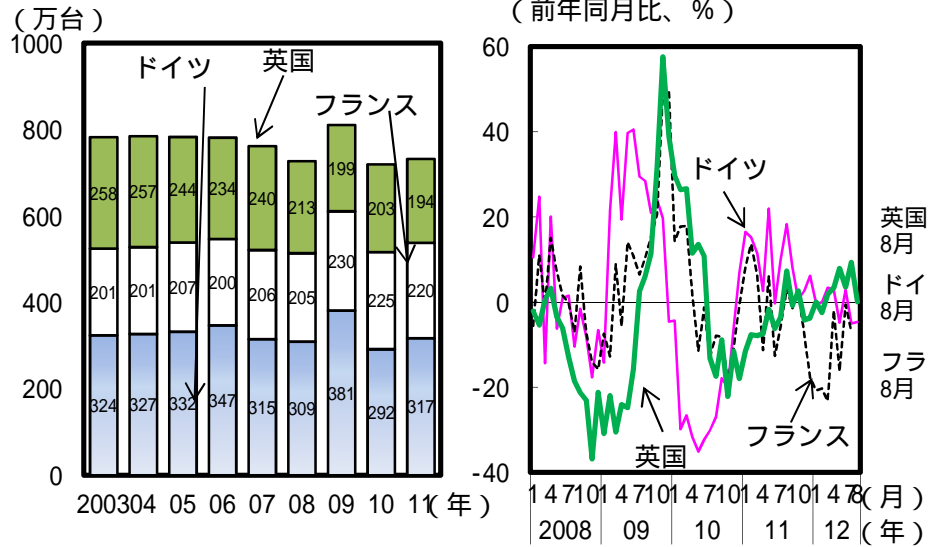
(備考) 1. ユーロスタット、ドイツ連邦統計局、INSEE (仏国立統計経済研究所)、英国統計局、イタリア国家統計局、スペイン国家統計局、ポルトガル統計局より作成。
 2. ギリシャでは、季節調整値が計算されていない。

個人消費 ユーロ圏：弱い動き
 (ドイツ：おおむね横ばい)
 (フランス：このところ弱い動き)
 英国：おおむね横ばい



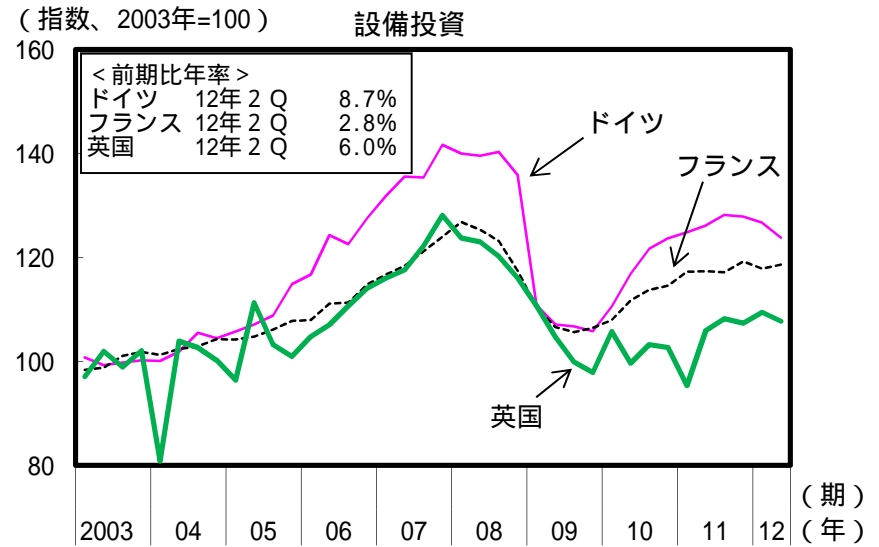
(備考) 欧州委員会より作成。今後1年間の見通しにつき尋ねたもの。

自動車登録台数



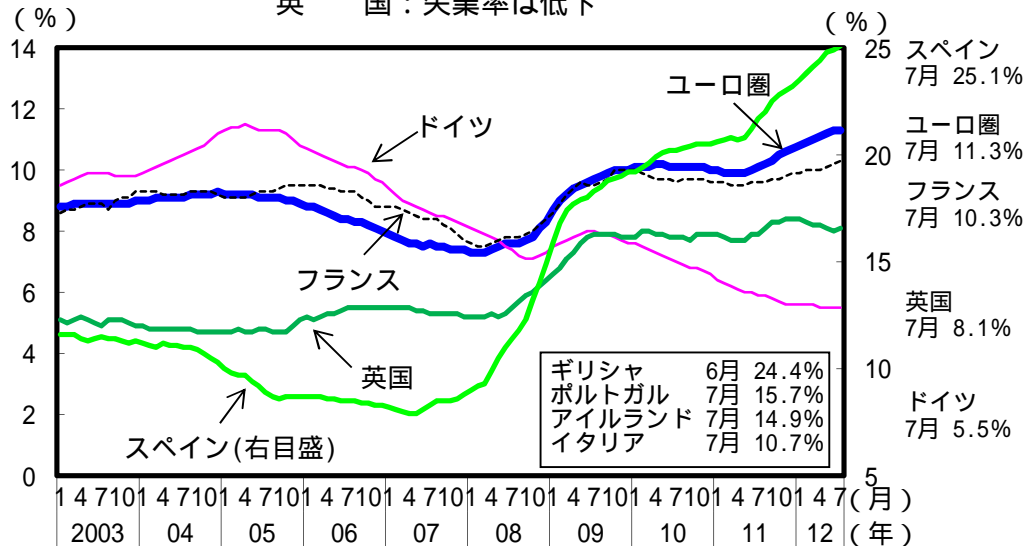
(備考) ドイツ自動車工業会 (VDA)、フランス自動車工業会 (CCFA)、英国自動車工業会 (SMMT) より作成。

設備投資 ドイツ：機械設備投資は弱い動き
フランス：設備投資は弱い動き
英国：設備投資はこのところ弱い動き



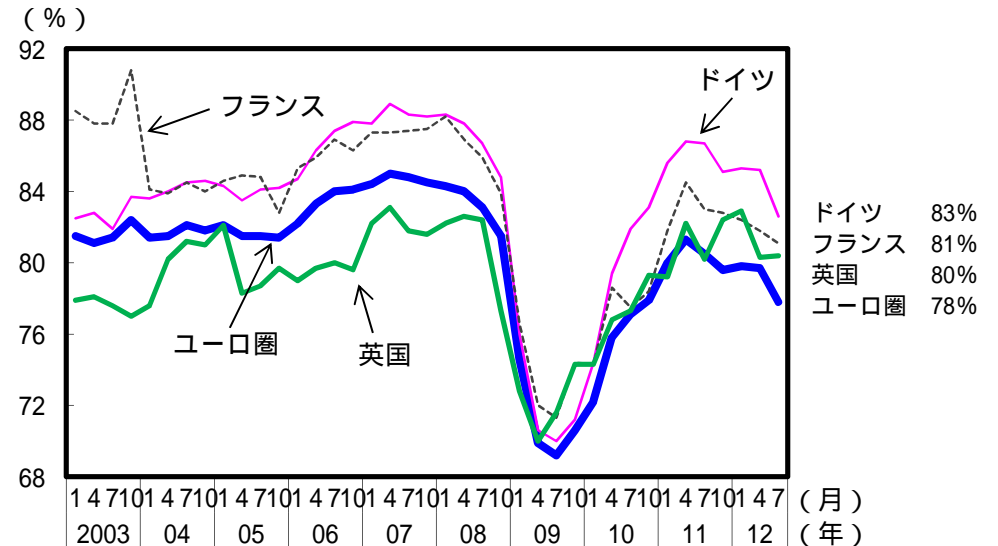
(備考) ドイツ連邦統計局、INSEE (仏国立統計経済研究所)、英国統計局より作成。

雇用 ユーロ圏：失業率は上昇
(ドイツでは低水準で横ばい)
英国：失業率は低下



(備考) ユーロスタット、英国統計局、ギリシャ政府統計局より作成。

製造業設備稼働率は低下

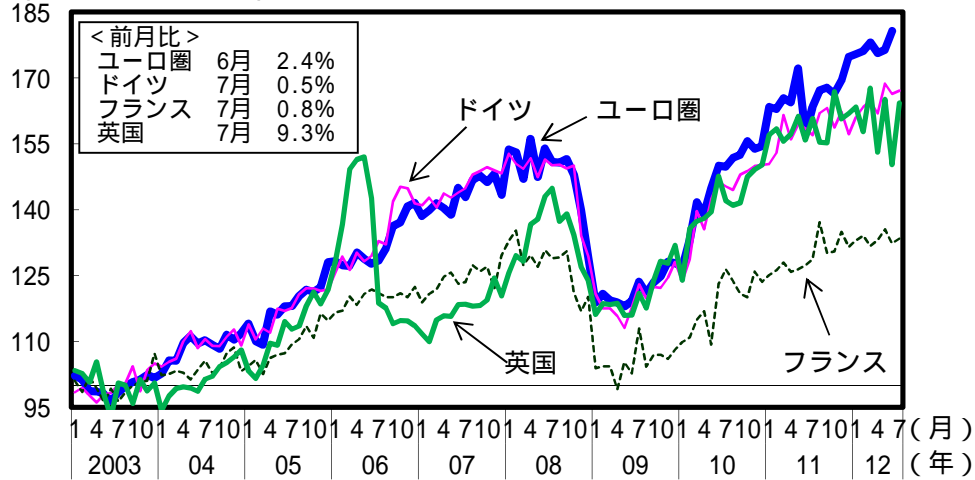


(備考) 欧州委員会より作成。年4回の企業へのアンケート調査。

輸出 ユーロ圏：輸出はこのところ足踏み状態
 (ドイツ・フランス：持ち直し)
 英 国：輸出はこのところ横ばい

(指数、2003年=100)

輸出額

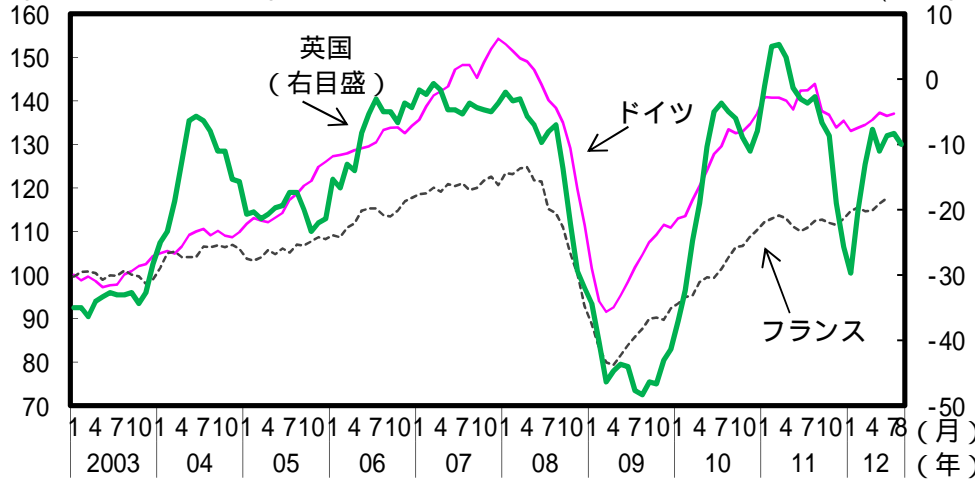


- (備考) 1. ユーロスタット、ドイツ連邦統計局、INSEE (仏国立統計経済研究所)、英国統計局より作成。
 2. ユーロ建て及びポンド建て輸出額を指数化したもの。
 3. 有効数字の関係で当局発表の数字と完全には一致しないことがある。

国外向け製造業受注はおおむね横ばい

(指数、2003年 = 100)

(D.I.)

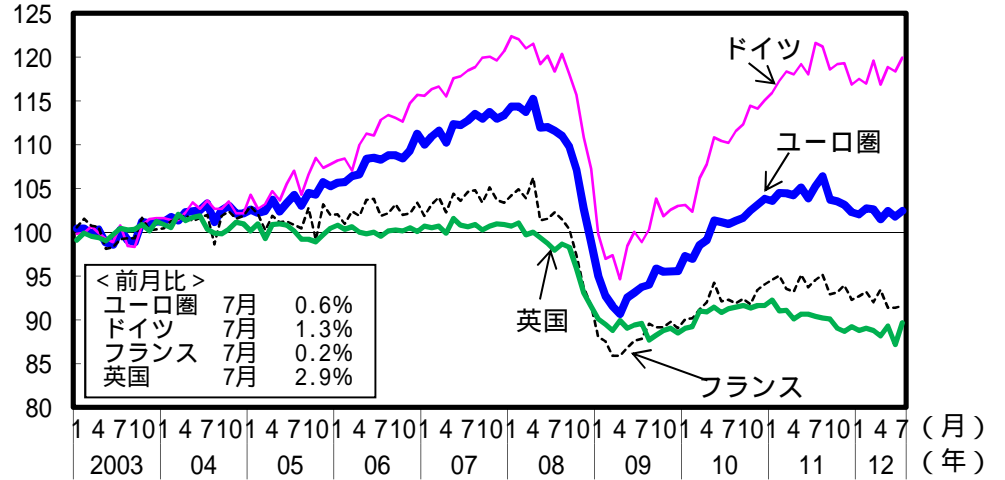


- (備考) 1. ドイツ連邦統計局、INSEE (仏国立統計経済研究所)、CBI (英国産業連盟) より作成。
 2. 後方3か月移動平均値。
 3. フランスは、大型受注を除いたもの。

生産 ユーロ圏：生産は弱い動き
 (ドイツ：おおむね横ばい)
 英 国：生産はこのところ横ばい

(指数、2003年=100)

鉱工業生産

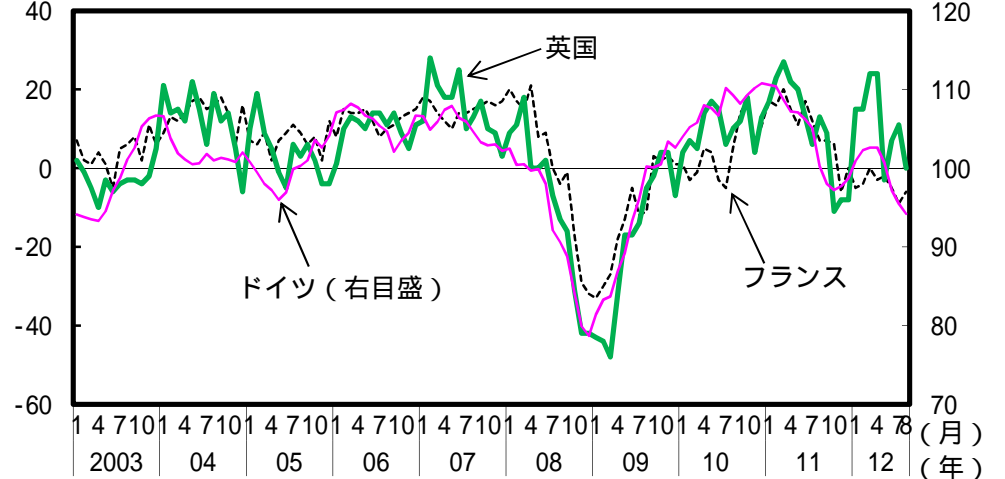


- (備考) 1. ユーロスタット、ドイツ連邦統計局、INSEE (仏国立統計経済研究所)、英国統計局より作成。
 2. ドイツは、建設業を含む。
 3. 有効数字の関係で当局発表の数字と完全には一致しないことがある。

企業の先行き見通しは弱い動き

(D.I.)

(指数、2005年=100)



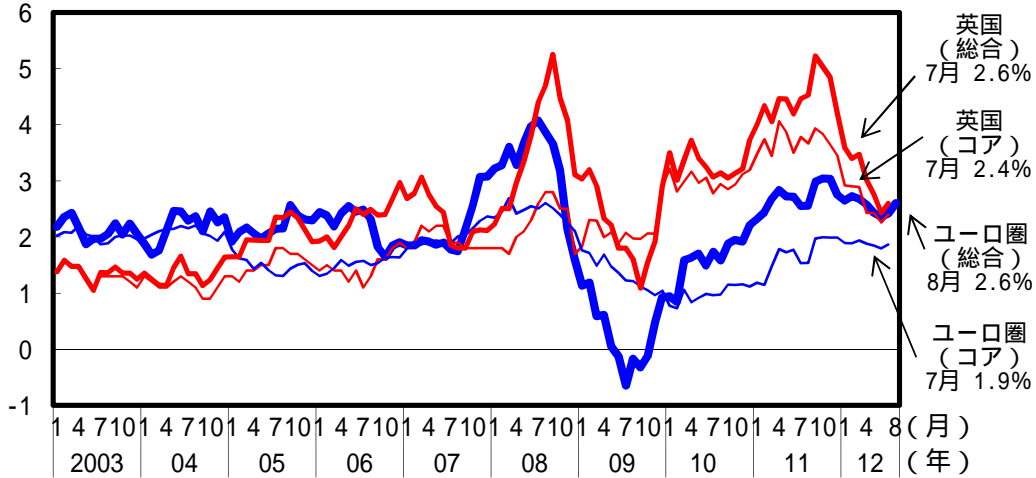
- (備考) 1. IFO経済研究所、INSEE (仏国立統計経済研究所)、CBI (英国産業連盟) より作成。
 2. ドイツは6か月先の業況見通し(サービス業除く)、フランスは3か月先の生産見通し(自社、製造業)、英国は3か月先の生産見通し(鉱工業)につき尋ねたもの。

物価 ユーロ圏：消費者物価上昇率はおおむね横ばい
 英国：消費者物価上昇率は低下

財政状況・格付け

(前年同月比、%)

消費者物価上昇率



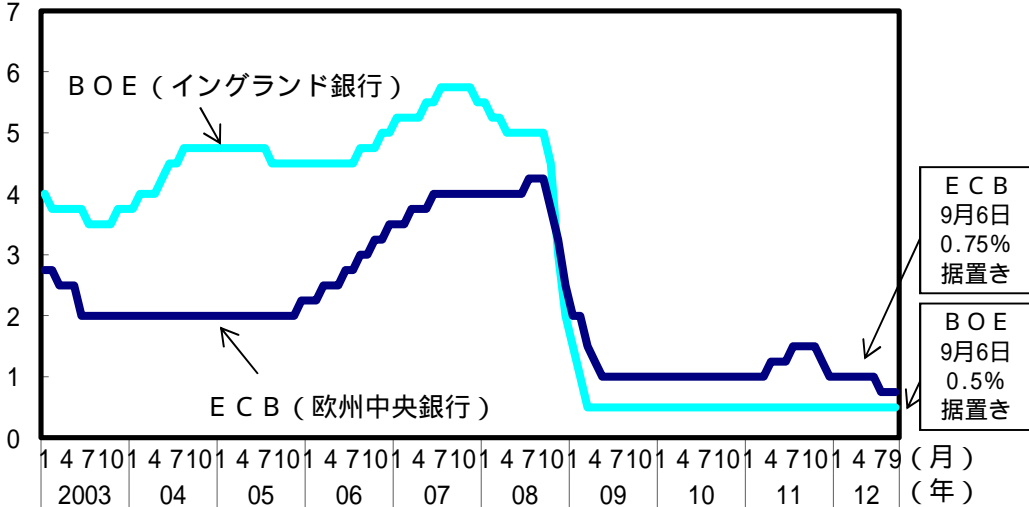
(備考) 1. ユーロスタット、英国統計局より作成。
 2. ECBのインフレ参照値は2%を下回りかつ2%近傍。BOEのインフレ目標は2%。
 3. コア消費者物価は、総合からエネルギー、生鮮食品を除いたもの。

	主要格付け機関による格付け									一般政府 財政収支 GDP比	一般政府 債務残高 GDP比
	ムーディーズ			S & P			フィッチ				
	格付け	クレジット ウォッチ	格付け 見通し	格付け	クレジット ウォッチ	格付け 見通し	格付け	クレジット ウォッチ	格付け 見通し		
ポルトガル	Ba3	[S]	[N]	BB	[S]	[N]	BB+	[S]	[N]	4.2	107.8
イタリア	Baa2	[S]	[N]	BBB+	[S]	[N]	A-	[S]	[N]	3.9	120.1
アイルランド	Ba1	[S]	[N]	BBB+	[S]	[N]	BBB+	[S]	[N]	13.1	108.2
ギリシャ	C	[S]	-	CCC	[S]	[N]	CCC	[S]	-	9.1	165.3
スペイン	Baa3	[N]	-	BBB+	[S]	[N]	BBB	[S]	[N]	8.5	68.5
日本	Aa3	[S]	[S]	AA-	[S]	[N]	A+	[S]	[N]	9.5	205.5
アメリカ	Aaa	[S]	[N]	AA+	[S]	[N]	AAA	[S]	[N]	9.7	102.7

(備考) 1. ブルームバーグ、欧州委員会、OECDより作成。
 2. 格付けは、自国通貨建て長期債務のもの。また、クレジットウォッチは、自国通貨建て長期債務の格付けの短期的な方向性を示す。[N]、[S]、[P]は、それぞれ"Negative Watch"、"Stable"、"Positive Watch"を示す。
 3. 格付け見通し(アウトック)は、格付けの中期的な方向性を示す。[N]、[S]、[P]は、それぞれ"Negative"、"Stable"、"Positive"を示す。例えば、S & Pでは通常6か月間から2年間を念頭に置いている。
 4. シャド一部分は、前月例経済報告時点からの変更を示す。

政策金利 ユーロ圏：欧州中央銀行 (ECB) は据置き
 英国：イングランド銀行 (BOE) は据置き

(%)

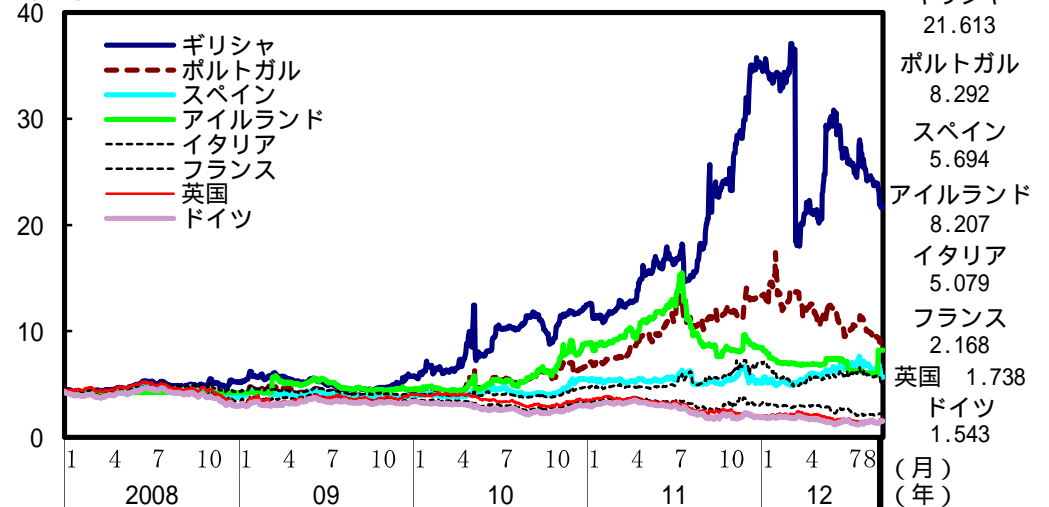


(備考) 欧州中央銀行 (ECB)、イングランド銀行 (BOE) より作成。

国債 (10年物) 利回り

9/11 時点

(%)

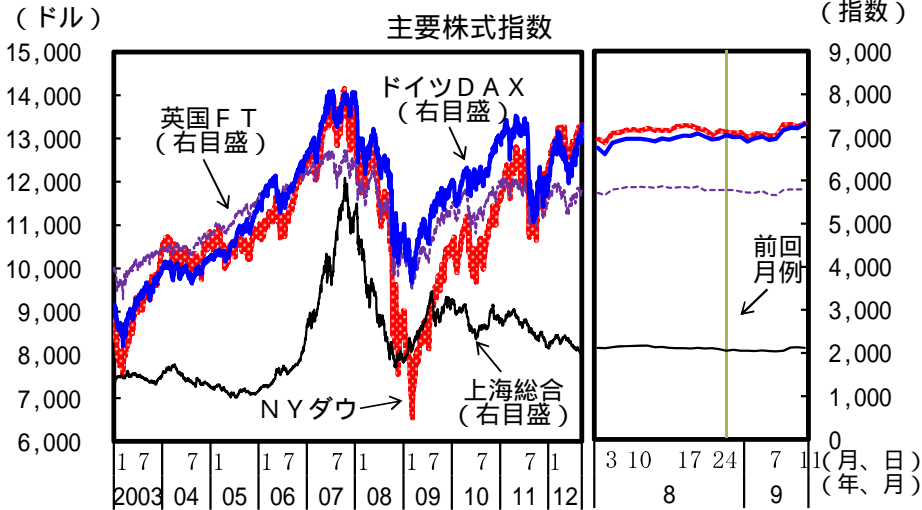


(備考) 1. ブルームバーグより作成。
 2. アイルランド国債は、国債 (9年物) 利回りの値。

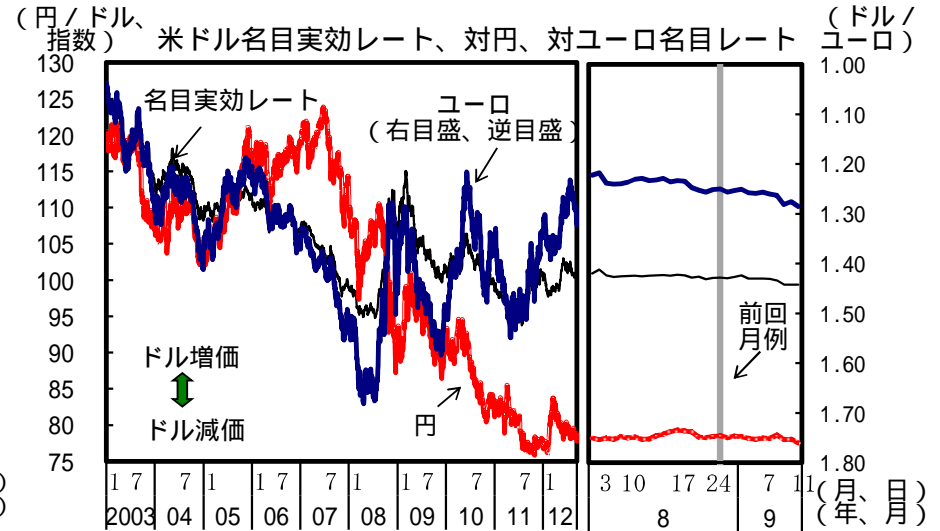
ギリシャ 21.613
 ポルトガル 8.292
 スペイン 5.694
 アイルランド 8.207
 イタリア 5.079
 フランス 2.168
 英国 1.738
 ドイツ 1.543

4. 国際金融

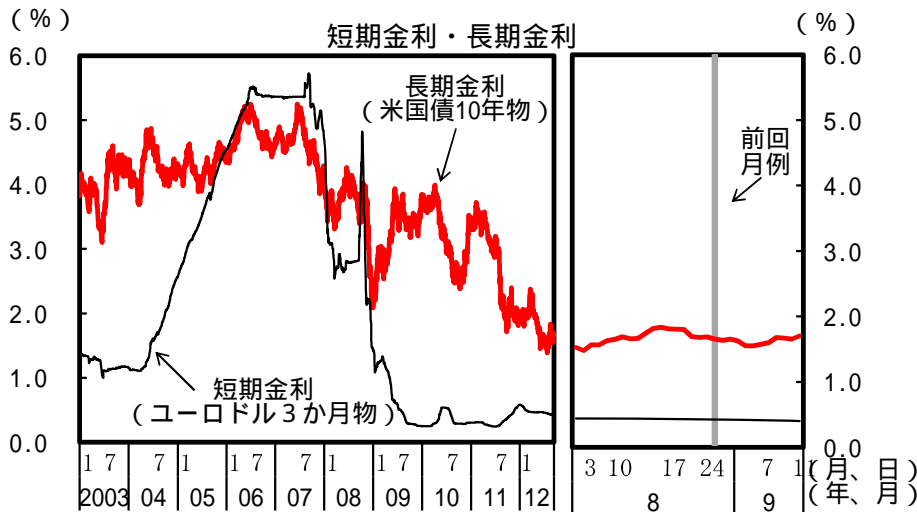
株価：アメリカ及び英国ではおおむね横ばい、ドイツ及び中国ではやや上昇



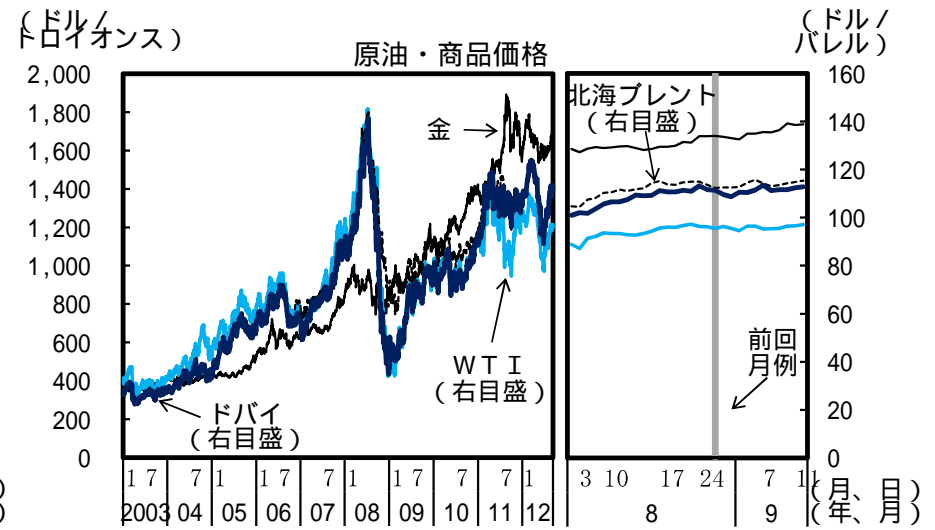
為替：ドルは主要通貨に対してやや減価



**短期金利：おおむね横ばい
長期金利：アメリカ及び英国ではおおむね横ばい、ドイツではやや上昇**



**原油価格：やや上昇
金価格：やや下落した後、上昇**



(備考) データストリーム、ブルームバーグより作成。

5. 各国・地域の指標

(1) アメリカ

(季節調整値、%)

	年平均成長率			前期比年率								
	2009年	2010年	2011年	2010年			2011年			2012年		
				4 - 6月	7 - 9月	10 - 12月	1 - 3月	4 - 6月	7 - 9月	10 - 12月	1 - 3月	4 - 6月
実質GDP	3.1	2.4	1.8	2.2	2.6	2.4	0.1	2.5	1.3	4.1	2.0	1.7
個人消費	1.9	1.8	2.5	2.6	2.5	4.1	3.1	1.0	1.7	2.0	2.4	1.7
民間設備投資	18.1	0.7	8.6	12.3	7.7	9.2	1.3	14.5	19.0	9.5	7.5	4.2
民間住宅投資	22.4	3.7	1.4	23.1	28.6	1.5	1.4	4.1	1.4	12.1	20.5	8.9
在庫投資*	0.8	1.5	0.1	0.1	2.0	1.6	0.5	0.0	1.1	2.5	0.4	0.2
政府支出	3.7	0.6	3.1	2.8	0.3	4.4	7.0	0.8	2.9	2.2	3.0	0.9
内需	4.0	2.8	1.7	3.9	3.5	1.1	0.0	1.9	1.2	4.6	1.8	1.4
外需*	1.1	0.5	0.1	1.8	1.0	1.2	0.0	0.5	0.0	0.6	0.1	0.3
輸出	9.1	11.1	6.7	9.6	9.7	10.0	5.7	4.1	6.1	1.4	4.4	6.0
輸入	13.5	12.5	4.8	20.2	13.9	0.0	4.3	0.1	4.7	4.9	3.1	2.9
企業収益 (在庫評価・資本減耗調整済)	7.5	26.8	7.3	1.4	7.5	2.4	3.7	4.5	1.6	6.7	2.7	0.5

(備考) *は、前期比年率寄与度。企業収益は前期比。

アメリカの 主要経済指標	単位	2008年	09年	10年	11年	2011年		12年		2012年				
						7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	4月	5月	6月	7月	8月
実質個人消費*	前期比%	0.6	1.9	1.8	2.5	0.4	0.5	0.6	0.4	0.3	0.0	0.1	0.4	
貯蓄率*	%	5.4	4.7	5.1	4.2	3.8	3.4	3.6	4.0	3.6	4.0	4.3	4.2	
乗用車販売* (商務省統計)	前期比% 年率万台	(18.0) 1,320	(21.2) 1,040	(11.1) 1,155	(10.2) 1,273	(3.9) 1,263	(6.6) 1,346	(5.1) 1,415	(0.3) 1,410	(0.1) 1,408	(1.3) 1,390	(3.1) 1,433	(2.0) 1,404	(3.0) 1,447
小売売上*	前期比%	0.9	7.4	5.6	7.9	1.2	2.0	1.6	0.2	0.5	0.1	0.7	0.8	
消費者信頼感指数	1985年=100	58.0	45.2	54.5	58.1	50.3	53.6	67.4	65.3	68.7	64.4	62.7	65.4	60.6
住宅着工件数*	前期比% 年率万件	(33.2) 90.6	(38.8) 55.4	(5.9) 58.7	(3.7) 60.9	(7.2) 61.4	(10.5) 67.8	(5.4) 71.5	(2.9) 73.6	(5.8) 74.7	(5.5) 70.6	(6.8) 75.4	(1.1) 74.6	
非軍需資本財受注(コア)	前期比%	1.0	24.5	17.1	10.3	1.2	1.4	0.1	1.5	1.5	2.3	2.7	4.0	
鉱工業生産*	前期比%	3.5	11.4	5.4	4.1	1.4	1.2	1.4	0.6	0.8	0.1	0.1	0.6	
稼働率(総合)*	%	77.3	68.6	73.7	76.8	77.1	77.9	78.7	78.9	78.9	78.9	78.9	79.3	
I S M製造業景況指数(総合)*	%	45.5	46.4	57.3	55.2	52.1	52.4	53.3	52.7	54.8	53.5	49.7	49.8	49.6
非農業雇用者数*	前期差万人 実数万人	360.3 13,679	506.0 13,079	102.7 12,986	184.0 13,136	38.3 13,153	49.2 13,199	67.7 13,268	20.0 13,300	6.8 13,293	8.7 13,302	4.5 13,306	14.1 13,320	9.6 13,330
失業率(除軍人)*	%	5.8	9.3	9.6	9.0	9.1	8.7	8.3	8.2	8.1	8.2	8.2	8.3	8.1
時間当たり賃金* (民間非農業、非管理職)	前期比% 前年比%	- 3.8	- 3.0	- 2.4	- 2.0	0.5 2.1	0.3 1.8	0.3 1.6	0.4 1.5	0.2 1.7	0.1 1.4	0.2 1.5	0.1 1.2	0.1 1.3
経常収支* (GDP比)	億ドル %	6,771 (4.7)	3,819 (2.7)	4,420 (3.2)	4,659 (3.1)	1,082 (2.9)	1,187 (3.1)	1,373 (3.5)		-	-	-	-	
財・サービス貿易収支* (うち財貿易収支)	億ドル 億ドル	6,983 8,301	3,813 5,059	5,000 6,451	5,599 7,384	1,348 1,806	1,463 1,893	1,484 1,943	1,393 1,858	498 652	476 631	419 574	420 573	
PCEデフレーター(総合)	前年比%	3.3	0.1	1.9	2.4	2.8	2.5	2.4	1.6	1.9	1.5	1.5	1.3	
PCEデフレーター(コア)	前年比%	2.3	1.4	1.5	1.4	1.6	1.7	1.9	1.8	1.9	1.8	1.8	1.6	
消費者物価指数(総合)*	前年比%	3.8	0.4	1.6	3.2	3.9	3.6	4.1	3.7	2.3	1.7	1.7	1.4	
消費者物価指数(コア)*	前年比%	2.3	1.7	1.0	1.7	2.1	2.4	2.7	3.0	2.3	2.3	2.2	2.1	
ダウ・ジョーンズ工業株30種平均	各期平均値ドル	11,249	8,886	10,665	11,961	11,656	11,813	12,833	12,761	13,032	12,710	12,545	12,820	13,135
ナスダック総合指数	各期平均値ポイント	2,163	1,844	2,349	2,678	2,608	2,600	2,900	2,927	3,037	2,898	2,850	2,923	3,033
長期金利(10年物国債)	各期平均値%	3.64	3.24	3.20	2.76	2.40	2.03	2.02	1.81	1.92	1.78	1.61	1.50	1.66
短期金利(TB3ヶ月物)	各期平均値%	1.37	0.15	0.14	0.05	0.02	0.01	0.07	0.09	0.08	0.09	0.09	0.10	0.10
通貨供給(M2)*	前年比%	7.1	7.9	2.0	7.2	9.2	9.7	10.1	9.7	10.0	9.7	9.3	8.1	

9月

9/11 13,323

9/11 3,105

9/11 1.70

9/11 0.10

(備考)1. *は季節調整済み。

2. 乗用車販売は乗用車とライトトラック(どちらも輸入車含む)の合計。

3. 小売売上は飲食サービスを含む。

4. 非軍需資本財受注は航空機を除く。

5. PCEデフレーター(コア)と消費者物価指数(コア)は、総合から振れ幅の大きい食料とエネルギーを除いたもの。

(2)アジア

(前年同期比、%)

実質GDP	2009年	2010年	2011年	10年7 - 9月	10 - 12月	11年1 - 3月	4 - 6月	7 - 9月	10 - 12月	12年1 - 3月	4 - 6月
中国				-	(10.0)	(9.1)	(10.0)	(9.5)	(7.8)	(6.6)	(7.4)
	9.2	10.4	9.2	9.6	9.8	9.7	9.5	9.1	8.9	8.1	7.6
インド	8.4	8.4	6.5	7.6	8.2	9.2	8.0	6.7	6.1	5.3	5.5
香港	2.6	7.0	5.0	(3.7)	(7.1)	(12.2)	(1.5)	(0.3)	(1.6)	(2.6)	(0.2)
				6.9	6.7	7.6	5.4	4.4	3.0	0.7	1.1
韓国	0.3	6.3	3.6	(2.7)	(2.5)	(5.3)	(3.4)	(3.4)	(1.3)	(3.5)	(1.1)
				4.5	4.9	4.2	3.5	3.6	3.3	2.8	2.3
台湾	1.8	10.7	4.0	(3.7)	(2.3)	(10.4)	(2.1)	(1.9)	(2.1)	(1.5)	(3.5)
				11.2	6.5	6.6	4.5	3.4	1.8	0.4	0.2
シンガポール	1.0	14.8	4.9	(15.9)	(6.9)	(19.7)	(3.0)	(2.0)	(2.5)	(9.4)	(1.1)
				10.6	12.5	9.1	1.2	6.0	3.6	1.4	1.9
インドネシア	4.6	6.2	6.5	5.8	6.8	6.4	6.5	6.5	6.5	6.3	6.4
タイ	2.3	7.8	0.1	(2.4)	(8.0)	(3.4)	(2.8)	(6.7)	(35.7)	(50.8)	(13.9)
				6.6	3.8	3.2	2.7	3.7	8.9	0.4	4.2
マレーシア	1.5	7.2	5.1	5.2	4.8	5.0	4.3	5.7	5.2	4.9	5.4
フィリピン	1.1	7.6	3.9	7.3	6.1	4.9	3.6	3.2	4.0	6.3	5.9

(備考) 1. 中国の統計には香港、マカオのデータを含まない。

2. 中国、香港、韓国、台湾、シンガポール、タイの()内は前期比年率(季節調整済)。

3. インドの年の値は財政年度(4月~翌年3月)による。

(前年同期比、%)

鉱工業生産	2009年	2010年	2011年	11年7 - 9月	10 - 12月	12年1 - 3月	4 - 6月	12年5月	6月	7月	8月
中国	11.0	15.7	13.9	14.2	13.9	11.6	9.5	9.6	9.5	9.2	8.9
インド	5.3	8.2	2.8	3.2	1.2	0.6	0.1	2.5	1.8	0.1	
香港	8.3	3.5	0.7	0.2	2.2	1.6		-	-	-	-
韓国	0.1	16.3	6.9	3.2	5.3	3.2	2.9	2.9	1.4	0.3	
台湾	8.1	26.9	5.0	3.4	4.0	4.7	1.4	0.2	2.2	0.0	
シンガポール	4.2	29.7	7.8	8.9	9.3	0.8	4.6	6.9	8.0	1.9	
インドネシア	1.3	4.4	4.1	7.6	2.8	1.4	2.6	3.9	2.4		
タイ	7.2	14.3	9.3	3.5	32.8	37.7	2.8	6.7	9.6	5.8	
マレーシア	7.6	7.3	1.4	2.1	2.3	3.2	4.9	7.7	3.7	1.5	
フィリピン	13.2	17.0	2.1	2.6	6.8	9.0	1.9	2.9	2.4		

(備考) 1. 香港、シンガポール、インドネシア、タイ、フィリピンは製造業。

2. インドの年の値は財政年度(4月~翌年3月)による。

(%)

失業率	2009年	2010年	2011年	11年7 - 9月	10 - 12月	12年1 - 3月	4 - 6月	12年4月	5月	6月	7月
中国	4.3	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	-	-	-	-
香港	5.4	4.4	3.4	3.2	3.3	3.4	3.2	3.3	3.2	3.2	3.2
韓国	3.7	3.7	3.4	3.2	3.1	3.1	3.3	3.4	3.2	3.2	3.1
台湾	5.8	5.2	4.4	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2	4.3
シンガポール	3.0	2.2	2.0	2.0	2.0	2.1	2.0	-	-	-	-
インドネシア	7.9	7.1	6.6	6.6	-	6.3		-	-	-	
タイ	1.5	1.1	0.7	0.7	0.6	0.7	0.9	1.0	0.9	0.7	
マレーシア	3.7	3.3	3.1	3.1	3.0			3.0	3.0	3.0	
フィリピン	7.5	7.4	7.4	7.1	6.4	7.2	6.9	-	-	-	

(備考)1. 香港、韓国、台湾、シンガポールは季節調整値。

2. インドネシアは、2月と8月に公表される。

3. フィリピンは、1月、4月、7月、10月に公表される。

(前年同期(月)比、%)

消費者物価	2009年	2010年	2011年	11年7 - 9月	10 - 12月	12年1 - 3月	4 - 6月	12年5月	6月	7月	8月
中国	0.7	3.3	5.4	6.3	4.6	3.8	2.9	3.0	2.2	1.8	2.0
インド	3.8	9.6	8.8	9.7	9.0	7.5	7.4	7.5	7.3	6.9	
香港	0.6	2.3	5.3	6.4	5.7	5.2	4.2	4.2	3.7	1.7	
韓国	2.8	2.9	4.0	4.3	4.0	3.0	2.4	2.5	2.2	1.5	1.2
台湾	0.9	1.0	1.4	1.3	1.4	1.3	1.7	1.7	1.8	2.5	3.4
シンガポール	0.6	2.8	5.2	5.5	5.5	4.9	5.3	5.0	5.3	4.0	
インドネシア	4.8	5.1	5.4	4.7	4.1	3.7	4.5	4.5	4.5	4.6	4.6
タイ	0.8	3.3	3.8	4.1	4.0	3.4	2.5	2.5	2.6	2.7	2.7
マレーシア	0.6	1.7	3.2	3.4	3.2	2.3	1.7	1.7	1.6	1.4	
フィリピン	4.2	3.8	4.7	4.7	4.7	3.1	2.1	2.9	2.8	3.2	

(備考) インドは卸売物価。また、インドの年の値は財政年度(4月~翌年3月)による。

(3)ヨーロッパ

ユーロ圏

(%)

	2009年	2010年	2011年	11年10 - 12月	12年1 - 3月	4 - 6月	12年4月	5月	6月	7月	8月
実質GDP	4.4	2.0	1.5	1.4	0.1	0.7	-	-	-	-	-
鉱工業生産	14.9	7.3	3.4	2.1	0.5	0.5	1.1	0.9	0.6		
失業率	9.6	10.1	10.2	10.6	10.9	11.2	11.1	11.2	11.3	11.3	
消費者物価	0.3	1.6	2.7	2.9	2.7	2.5	2.6	2.4	2.4	2.4	2.6

(備考) 1. 実質GDPは前期比年率。鉱工業生産は前期(月)比、消費者物価は前年同期(月)比。

2. ユーロ圏とは、欧州通貨統合に参加している諸国の総称。99年発足当初の構成国はドイツ、フランス、イタリア、スペイン、オランダ、ベルギー、オーストリア、フィンランド、ポルトガル、アイルランド、ルクセンブルク。2001年1月からギリシャ、07年1月からスロベニア、08年1月からキプロス、マルタ、09年1月からスロバキア、11年1月からエストニアが参加している。

3. 有効数字の関係で当局発表の数値と完全には一致しないことがある。

EU主要国

(前期比年率、%)

実質GDP	2009年	2010年	2011年	10年7 - 9月	10 - 12月	11年1 - 3月	4 - 6月	7 - 9月	10 - 12月	12年1 - 3月	4 - 6月
ドイツ	5.1	4.2	3.0	2.8	2.4	5.0	1.8	1.5	0.6	2.0	1.1
フランス	3.0	1.6	1.7	1.7	1.5	3.5	0.2	1.1	0.0	0.1	0.2
英国	4.0	1.8	0.8	2.5	1.7	1.9	0.4	2.4	1.4	1.3	1.8
イタリア	5.5	1.8	0.5	1.5	0.7	0.6	1.1	0.9	2.9	3.3	3.3

(前期比、%)

鉱工業生産	2009年	2010年	2011年	11年7 - 9月	10 - 12月	12年1 - 3月	4 - 6月	12年4月	5月	6月	7月
ドイツ	15.4	10.1	8.0	1.7	1.7	0.4	0.0	2.3	1.7	0.4	1.3
フランス	12.6	4.6	2.4	0.3	1.1	0.4	0.6	1.5	2.2	0.0	0.2
英国	9.0	1.9	1.3	0.3	1.4	0.1	0.7	0.7	1.3	2.4	2.9
イタリア	18.6	6.7	0.3	1.2	2.8	2.4	1.7	2.0	1.0	1.3	0.2

(季節調整値、%)

失業率	2009年	2010年	2011年	11年7 - 9月	10 - 12月	12年1 - 3月	4 - 6月	12年4月	5月	6月	7月
ドイツ	7.8	7.1	5.9	5.8	5.7	5.6	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5
フランス	9.5	9.8	9.7	9.7	9.8	10.0	10.0	10.0	10.1	10.2	10.3
英国	7.7	7.9	7.9	8.3	8.4	8.2	8.0	8.2	8.1	8.0	8.1
イタリア	7.8	8.4	8.4	8.5	9.2	10.1	10.6	10.6	10.5	10.7	10.7

(備考) 英国の失業率は当月を含む3ヶ月の平均値。

(前年同期(月)比、%)

消費者物価	2009年	2010年	2011年	11年7 - 9月	10 - 12月	12年1 - 3月	4 - 6月	12年5月	6月	7月	8月
ドイツ	0.4	1.1	2.3	2.4	2.4	2.1	1.9	1.9	1.7	1.7	2.1
フランス	0.1	1.5	2.1	2.1	2.4	2.3	2.0	2.0	1.9	1.9	
英国	2.2	3.4	4.5	4.7	4.7	3.5	2.8	2.8	2.4	2.6	
イタリア	0.8	1.5	2.7	2.8	3.4	3.3	3.3	3.2	3.3	3.1	3.2

ロシア

(%)

	2009年	2010年	2011年	11年7 - 9月	10 - 12月	12年1 - 3月	4 - 6月	12年5月	6月	7月	8月
実質GDP	7.8	4.3	4.3	5.0	4.8	4.9	4.0	-	-	-	-
鉱工業生産	9.3	8.2	4.7	5.1	3.3	4.0	2.3	3.7	1.9	3.4	
失業率	8.4	7.5	6.6	6.2	6.3	6.5	5.5	5.4	5.4	5.4	
消費者物価	11.7	6.9	8.4	8.1	6.7	3.9	3.8	3.6	4.3	5.6	5.9

(備考) 実質GDP、鉱工業生産、消費者物価は前年同期(月)比。

(4) その他

(%)

実質GDP	2009年	2010年	2011年	10年7 - 9月	10 - 12月	11年1 - 3月	4 - 6月	7 - 9月	10 - 12月	12年1 - 3月	4 - 6月
カナダ	2.8	3.2	2.5	2.5	3.1	3.6	1.0	4.5	1.9	1.8	1.8
メキシコ	6.0	5.5	3.9	5.3	4.4	4.4	3.1	4.3	3.9	4.5	4.1
ブラジル	0.3	7.5	2.7	0.9	1.0	0.8	0.6	0.2	0.1	0.1	0.4
オーストラリア	1.5	2.4	2.2	0.3	0.7	0.4	1.4	1.1	0.5	1.4	0.6

(備考) カナダ、オーストラリアは前期比年率。メキシコは前年同期比。ブラジルは前期比。

(前年同期(月)比、%)

消費者物価	2009年	2010年	2011年	11年10 - 12月	12年1 - 3月	4 - 6月	2012年4月	5月	6月	7月	8月
カナダ	0.3	1.8	2.9	2.7	2.3	1.5	1.8	1.2	1.5	1.3	
メキシコ	5.3	4.2	3.4	3.5	3.9	3.9	3.4	3.9	4.3	4.4	4.6
ブラジル	4.9	5.0	6.6	6.7	5.8	5.0	5.1	5.0	4.9	5.2	5.2
オーストラリア	1.8	2.8	3.4	3.1	1.6	1.2	-	-	-	-	-

(5) 国際商品

国際商品	2009年	10年	11年	11年4-6月	7-9月	10-12月	12年1-3月	4-6月	12年5月	6月	7月	8月		
原油価格(\$/バレル)	62.10	79.61	95.11	102.56	89.76	94.06	100.39	101.42	94.72	82.41	87.93	94.16	9/11	97.17
CRB先物指数	246.39	279.50	334.01	349.80	333.23	310.49	311.68	303.01	289.68	272.3	295.36	303.81	9/11	314.90

(注) 原油価格はWT I 先物価格。(月数値は月中平均値。四半期、年数値は月中平均値の平均。)

(6) 為替レート

為替レート	2009年	10年	11年	11年4-6月	7-9月	10-12月	12年1-3月	4-6月	12年5月	6月	7月	8月		
ユーロ相場 (\$/Euro)	1.395	1.327	1.393	1.440	1.413	1.348	1.310	1.306	1.279	1.255	1.229	1.240	9/11	1.286
ポンド相場 (\$/£)	1.567	1.546	1.604	1.632	1.610	1.572	1.564	1.592	1.591	1.556	1.560	1.572	9/11	1.607
円相場(¥/\$) (¥/Euro)	93.6 130.4	87.7 116.4	79.7 111.0	81.6 117.5	77.7 109.8	77.4 104.2	77.8 101.9	81.2 106.0	79.7 101.9	79.4 99.6	79.0 97.1	78.7 97.6	9/11	77.8 100.0
カナダ・ドル相場 (カナダ\$/ \$)	1.141	1.030	0.989	0.968	0.980	1.023	1.011	0.999	1.011	1.027	1.014	0.993	9/11	0.973
中国・元相場 (元/\$)	6.832	6.767	6.463	6.500	6.418	6.357	6.320	6.314	6.324	6.364	6.371	6.360	9/11	6.335
韓国・ウォン相場 (ウォン/\$)	1,276	1,156	1,108	1,083	1,085	1,145	1,138	1,140	1,157	1,164	1,142	1,132	9/11	1,128
タイ・バーツ相場 (バーツ/\$)	34.3	31.7	30.5	30.3	30.1	31.0	31.1	31.0	31.3	31.6	31.6	31.4	9/11	31.0
オーストラリア・ドル相場 (\$/オーストラリア\$)	0.793	0.921	1.033	1.063	1.050	1.013	1.042	1.028	0.997	0.999	1.031	1.047	9/11	1.043

(注) ニューヨーク市場のインターバンク取引相場。